令和元・２・３年度　港区教育委員会　研究奨励校

主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成

～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～

令和４年２月９日（水）

港区立麻布小学校

はじめに

港区立麻布小学校　校長　宮島　淳一

本校では、港区教育委員会研究奨励校として、令和元・２・３年度の３年間、国語科での校内研究を推進してまいりました。それ以前の平成３０年度までの２年間は、総合的な学習の時間・生活科で研究を行いました。この研究では、自ら課題を設定し探究する力を付けるために、課題追究型の学習を学校全体で行うことで、児童の主体性が育まれることを実感してまいりました。また、他教科との関連で総合的な学習・生活科を意図的・計画的にカリキュラムに組み込まなければならない必要性から、カリキュラム・マネジメントの研究も並行して着手しました。

先行の２年間の研究において、課題追究に向け児童が考え伝え合うときの児童の表現力の質を向上させていく必要性が浮かび上がってきました。伝え合うための表現力の基礎となるのは言語力です。「主体的に学び合う」ときの表現力の「豊かさ」を本研究の主題として据え、テーマを「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」としました。 研究１年目は、副題を「言語活動の充実を図るカリキュラム・マネジメントと授業づくり」として、国語科における児童の「主体性」と「表現力の育成」を中心として追究しました。

一方で、国語科の単元全体の系統性を調べてそれに関連する他教科とのカリキュラム・マネジメントとして研究を進めて、系統表・単元計画表を作成しました。研究を進める過程で、言語活動を手段として授業改善することを鮮明にする必要があるとして、副題を「適切な言語活動を通した授業改善を目指して」に改題しバージョンアップして取り組みました。主題にせまるための手立て（対話を４つに分けての取り組み、児童の思いや考えをもつための工夫、振り返り活動の充実等）を考えて日常の授業から、授業改善を行いました。当初は、慣れずに難しく感じていましたが、２年目になり、教材分析と手立ての具体化により授業を組み立てる手法が身に付きました。そして、３年目には、講師から指導を仰ぎながら教材研究会を定期的に行い、研究する単元を説明的文章に絞って、研究を深めてきました。 児童が課題解決するために、ICT 機器のタブレット端末を使って一人ひとりの考えを共有したり、デジタル教科書を使ったりして課題解決していく過程も明確になり、発達段階に沿った系統的な指導を目指してきました。

本日は、研究の成果を授業にてご覧いただけるように計画してきました。授業や研究発表からの各先生方のご意見をいただきまして、今後の本校の研究の質を一層高めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたりご指導をいただいた輿水かおり先生及び多大なるご支援をいただきました港区教育委員会の皆様方に心からお礼を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

目次

はじめに　　校長　宮島　淳一

第１章　研究の概要

1　研究主題　1
2　研究の背景　1
3　研究主題設定の理由と研究のねらい　2
4　研究のあゆみ　4
5　研究の内容　１０
6　研究方法　１１
（1）　研究組織
（2）　研究方法
7　研究構想図　１２

第２章　授業研究

1　低学年分科会（提案・指導案）　１３
2　中学年分科会（提案・指導案）　３９
3　高学年分科会（提案・指導案）　６７

第３章　国語科年間指導計画・国語科系統指導表（説明的文章）

・１～６学年国語科年間指導計画　９３
・１～６学年国語科系統指導表（説明的文章）　９９

第４章　研究のまとめ

1　研究・実践の成果　１０５
2　今後の課題　１０８

ご指導いただいた講師の先生　１１１

あとがき　１１１

研究に携わった教職員　１１２

第１章　研究の概要

1 研究主題

「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」

～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～

2 研究の背景

本校の研究の背景には、「(1)学習指導要領改訂の動き」と「(2)子どもの現状」がある。

(1) 学習指導要領改訂の動き

平成 28 年 12 月に中央教育審議会において、「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」が示された。(以下「中央教育審議会答申」という。)

中央教育審議会答申では、学習指導要領等が、「学びの地図」としての役割を果たすことができるよう以下の6点にわたってその枠組みを改善するとともに、各学校において教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すことなどが求められた。

①「何ができるようになるか」(育成を目指す資質・能力)
②「何を学ぶか」(教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成)
③「どのように学ぶのか」(各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実)
④「子ども一人一人の発達をどのように支援するか」(子どもの発達を踏まえた指導)
⑤「何が身に付いたか」(学習評価の充実)
⑥「実施するために何が必要か」(学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策)

これらを踏まえ、平成 29 年3月31日に学校教育法施行規則を改正するとともに、小学校学習指導要領が公示され、令和 2 年4月1日から全面実施に至った。

(2) 子どもの現状

中央教育審議会答申においては、小・中学校の国語科の成果と課題について、次のように示している。

○ PISA2012(平成 24 年実施)に比べ、PISA2015(平成 27 年実施)においては、読解力について、国際的には、引き続き平均得点が高い上位グループに位置しているものの、平均得点が有意に低下していると分析がなされている。(中略)情報化の進展に伴い、特に子どもにとって言葉を取り巻く環境が変化する中で、読解力に関して改善すべき課題が明らかになったものと考えられる。

○ 全国学力・学習状況調査等の結果によると、小学校では、文における主語を捉えることや文の構成を理解したり表現の工夫を捉えたりすること、目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けて理解を深めたりすることが明らかになっている。

これらを踏まえ、改訂後の小学校学習指導要領の国語科の主な内容も次のようなものに示された。
(以下、「小学校学習指導要領(平成 29 年告示) 国語編)引用)

目標及び内容の構成

① 目標の構成の改善

② 内容の構成の改善

(1) 学習内容の改善・充実〔知識及び技能〕と〔思考力，判断力，表現力等〕の各指導事項について，育成を目指す資質・能力が明確になるよう内容を改善した。

① 語彙指導の改善・充実

② 情報の扱い方に関する指導の改善・充実

③ 学習過程の明確化，「考えの形成」の重視

④ 我が国の言語文化に関する指導の改善・充実

⑤ 漢字指導の改善・充実

(2) 学習の系統性の重視

国語科の指導内容は，系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに，螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し，資質・能力の定着を図ることを基本としている。

(3) 授業改善のための言語活動の創意工夫

〔思考力，判断力，表現力等〕の各領域において，どのような資質・能力を育成するかを(1)の指導事項に示し，どのような言語活動を通して資質・能力を育成するかを(2)の言語活動例に示すという関係を明確にするとともに，各学校の創意工夫により授業改善が行われるようにする観点から，従前に示していた言語活動例を言語活動の種類ごとにまとめた形で示した。

(4) 読書指導の改善・充実

中央教育審議会答申において，「読書は，国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである。」とされたことを踏まえ，各学年において，国語科の学習が読書活動に結び付くよう〔知識及び技能〕に「読書」に関する指導事項を位置付けるとともに，「読むこと」の領域では，学校図書館などを利用して様々な本などから情報を得て活用する言語活動例を示した。

<参考文献>

・「小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説」文部科学省

3 研究の主題の設定理由と研究のねらい

(1) 研究主題の設定

平成29年3月、新学習指導要領の改訂では、育成を目指す資質・能力の明確化を図るために、全ての教科等の目標について「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められている。

学校教育は平成の時代から、児童が自ら学ぶ授業へと重点が変わり、教師は児童が関心・意欲をもち自ら課題を見付けて主体的に解決していく過程や態度を評価し、適切な支援をするための努力をしてきた。

さらに、今回の改訂では、国語科においての授業改善を進めるに当たっては、児童が言語活動の中で「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉の特徴や使い方などの「知識及び技能」、自分の思いや考えを深めるための「思考力、判断力、表現力」等を身に付けていくことができるよう、学習指導の創意工夫を図ることが期待されている。

特に、国語科は、言語能力を育成する中心的な役割を担う教科であることから、教科横断的な資質・能力としての言語能力や情報活用能力等に関わり、今後、言葉を直接の学習対象とする国語教育の果たすべき役割が更に大きくなっていくと考えられる。

以上、改訂の趣旨を踏まえて国語科における本校の児童の課題をみると、「自分が感じたことや物事の特徴を言葉で表現したりすることが苦手であること。」「文章そのものを読み味わおうとする姿勢が少ないこと。」「読書好きであり、読み聞かせの反応はよいが、全体での聞き方、友達の話の聞き方には課題があること。」などの課題が挙げられる。

そこで、本校では、令和元年度から校内研究において、国語科における言語活動を中心に研究することとした。児童が国語に対する関心を高め、意欲的に学習する方法を身に付けられるように、授業改善を行っていくことが必要であると考えた。授業改善を行っていく上で単元づくりにおいては地域の実情や児童の実態を捉えて設定し、系統性を明確にして、カリキュラム・マネジメントを推進していく。そして授業においては、児童が主体的に取り組み、対話的な学びをしていけば、生きて働く言葉の力を身に付けることができると考えた。

本研究では以上の主題に迫るための具体的方策として、令和3年度から授業研究を国語科「C読むこと」に焦点をあて、説明的文章における研究を進めてきた。

麻布小学校では、「主体的に学び合い、豊かに表現する」児童を以下のような目指す児童像を設定した。

	低学年	中学年	高学年
目指す児童像	言葉に着目し、自分の思いや考えをもち、伝え合おうとする児童	言葉に着目し、自分の思いや考えをまとめ、伝え合う児童	言葉を吟味し、進んで伝え合い、思いや考えをまとめたり広げたりする児童

(2)　研究のねらい

麻布小学校では、以下の研究のねらいから、授業づくりを進めた。

① 「何を学ぶのか」「なぜ学ぶのか」「どのように学ぶか」が明確な指導
→国語科年間指導計画の作成、国語科系統指導表の作成、カリキュラム・マネジメント

② 児童が国語科における「見方・考え方」をはたらかせる授業づくり
→学習指導要領を踏まえた学習指導、教材研究会の実施

③ 見通しや振り返りを基に、児童自身が自己の学びを実感できる
→毎時間の振り返りの実施、既習事項等の教室掲示

④ 日常活動において「表現すること」を日常化する。
→日常活動の実施、ICT を活用した家庭学習

⑤ ICT 活用による「表現」の広がりを検討する。
→デジタル教科書の活用、「スクールタクト」(情報共有)、「Feel note」(SNS 型表現活動)

4 研究の歩み

(1) 令和元年度

① 実態把握

本校の児童の実態は、以下のような課題が挙げられた。

低学年	・話すことはよくできているが、聞いて理解することが苦手である。 ・聞く姿勢がよくない。
中学年	・自分の思いを伝えることが苦手な児童が多い。 ・表現する力や意欲をもって書くことに課題がある。
高学年	・自分の思いを整理しながら書くことや自分の思いを伝えることに課題がある。 ・自分の意見は出せるが、その理由を説明できない。

以上を踏まえ、自分の考えをもつことや相手に適切に表現することが苦手な児童が多いという課題があることを共有した。

② 本年度の目指す児童像と手立て

課題を踏まえ、目指す児童像や課題に対する手立てについて下記のように考えた。

	低学年	中学年	高学年
目指す児童像	◎自分の思いや考えをもち、伝え合おうとする児童	◎表現を工夫し、自分の思いや考えを伝え合う児童	◎言葉を主体的に読み進め、自分の言葉で思いや考えを表現し合う児童
児童の具体的な課題	○一方的に話すが、聞こうとする態度が身に付いていない。 ○自分の思いや考えを表現することが難しい子がいる。	○大切な点を捉えながら、「話すこと・聞くこと」「書くこと」、表現することについて、発信・受け取りともに課題がある。	○文章のおもしろさに気付く前に学習に関わろうとしなくなる児童がいる。 ○自分の考えをまとめることが苦手な児童がいる。
具体的な手立て	○話型を提示する。 →話す・聞くスタンダードハンドサイン ○自分や他者の思いを整理するメモを作成する。 →全教科で取り入れていく	○表現の工夫を知る。 ○3、4年が聞いて分かる言葉で具体的に示す。 →話す、速さ、強弱、構成、要約等	○児童が必要感、必然性をもてる学習活動を設定する。 ○ゴール設定を明確にし、児童に見通しをもたせる。 ○児童が自分の変化を見取ることができるノート指導を行う。 →継続的な振り返り等

③ 研究の重点

麻布小学校では、研究主題を「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」とし、前年度まで研究していた「総合的な学習の時間」の成果であるカリキュラム・マネジメントを通した授業づくりを生かしていくために、副題を「～言語活動の充実を図るカリキュラム・マネジメントと授業づくり～」と設定し、教科を国語科に絞り研究を始めた。

講師には、財団法人言語教育振興財団の理事、元港区立青南小学校校長の奥水かおり先生をお招きし、研究を積み重ねた。

研究の柱は、以下の通りである。

ア　カリキュラム・マネジメントの可視化

他教科や行事と関連させ、年間を見通した国語科年間指導計画を作成し、児童が目的意識をもてるような単元づくりを心がけた。また、児童が単元の中で身に付けた力を発揮する機会を設けるよう計画することで、児童に達成感を味わわせることを目指した。

イ　PDCA サイクルの充実

「見通し」と「振り返り」を重点的に実施した。単元目標に対して、児童が単元における到達度を教師が把握することを目的とした。また、児童自身も、自分の学びを実感することを目指した。

ウ　系統的な指導の充実

学年ごとの指導事項を明確にするため、国語科系統指導表を作成した。指導事項が明確化されたことで、教師と児童が「何を学ぶのか」ということを共有しながら授業を進めていくことを目指した。

エ　シンキングツールの活用

前年度、総合的な学習の時間で活用していたシンキングツールを活用することで、児童に考えや意見をもたせることを目指した。

オ　「4つの対話」による活動の充実

「自分と作品」「自分と友達」「自分と教師」「自分自身」の「4つの対話」を単元の中で充実させることで、児童が学習材に対して関わる機会を増やし、多面的・多角的に学習材を吟味することを目指した。

④　実践

学年	各学年の取り組み
全校	・国語科年間指導計画の作成 ・国語科系統指導表作成 ・学校図書館、地域図書館の活用 ・座席表の活用（情報集約、見取り等） ・ハンドサインと導入「いけん」「さんせい」「はんたい」「つけたし」 ・毎時間の児童の振り返り
1年	・幼稚園交流で生かすための言語活動の設定（どうぶつクイズ） ・生活科の校外学習（上野動物園）を授業の導入に活用 ・音読指導の充実（年間の家庭学習課題） ・ワークシートの充実（分科会、研究推進委員会で検討）

2年	・保護者に発表することを目的とした言語活動を設定(音読発表会) ・音読指導の充実(年間の家庭の学習の課題) ・音読発表会に向けたオリジナル台本の作成(授業で学んだことを書き込んでいく) ・全文シートの活用(教材文の全文が掲載されているワークシート)
3年	・「港区語り部の会」の方に向けた言語活動を設定(感想文の作成) ・年間を通した考えや思いを書く活動の実施(全校遠足、音楽会、展覧会等) ・語彙の獲得の充実(言葉の宝箱の活用、ペアトーク) ・自分の考えの根拠となる文章を示す活動の充実(サイドライン、書き抜き等)
4年	・3年生に向けた言語活動の設定(平和に関する本の紹介カードの作成) ・全文シートの活用(教材文の全文が掲載されているワークシート) ・語彙の獲得への取り組み(辞書、言葉の宝箱の活用等) ・授業に即した話し合いの場の設定(ペア、トリオ、グループ)
5年	・キャリア教育に繋がる言語活動の設定(ポップ作成) ・語彙の獲得、活用の実践(キャッチコピーの言葉の精選、吟味) ・到達度段階に応じた支援の明記 ・対話活動の目的を明確にした授業の実施
6年	・卒業制作に向けた言語活動の設定(感じたことや感覚を言語化する活動) ・自分の言葉を吟味し、相応しい語句で表現する活動の充実 (移動教室で訪れた美術館、全校遠足、音楽会、展覧会等) ・筆者を知るための校外学習の実施(『高畑勲展』の見学) ・4つの対話活動の実践(「作品との対話」「他者との対話」「教師との対話」「自分自身との対話」)

⑤ 授業実践

学年(実施月)	単元名	教材名
5年(5月)	「伝記を読んで、先人の生き方や考え方を紹介し合おう」	「千年の釘にいどむ」
4年(6月)	「『一つの花』をしょうかいしよう」	「一つの花」
6年(9月)	「効果的な表現について、自分の考えをまとめよう」	「『鳥獣戯画』を読む」
2年(10月)	「音読劇を発表しよう」	「お手紙」
3年(11月)	「心をうたれた場面を中心に感想をまとめよう」	「ちいちゃんのかげおくり」
1年(12月)	「ちがいを考えて読もう」	「どうぶつの赤ちゃん」

⑥ 成果と課題

＜成果＞

○児童が目的意識をもてるめあてや単元の課題設定を工夫することができた。

○系統性を意識した指導事項を明確にすることができた。

○毎時間の振り返りが定着し、児童が学びを実感することに繋がった。また、評価を適切に行う判断基準の一つとすることができた。

＜課題＞

○話し合い活動の目的を明確にする必要がある。

○語彙力向上のための環境作りや日常活動などを工夫する必要がある。

○自分の考えを表現する活動の充実を図る必要がある。

(2) 令和2年度

① 副題の変更

新学習指導要領の全面実施であること、令和元年末の成果と課題を踏まえ、言語活動の充実が目的にならないよう、副題を「～適切な言語活動通した授業改善を目指して～」とした。

② コロナ禍における授業づくり

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う対策として、臨時休業から始まった。令和2年度は、コロナ禍における授業づくりが主な研究の柱となった。コロナ禍の対応に追われる中、研究は続くこととなった。

以下の取り組みに重点をおいて研究を進めた。

③ 研究の重点

ア 毎時間の目標提示と振り返りの徹底

児童が見通しをもって授業に取り組めるよう教師が毎時間めあてを提示した。また、児童が学びを実感するために、めあてに対する振り返りを毎時間行った。

イ 読書環境の整備

図書館司書や図書館支援の先生と連携をし、学習に即した本を学級に置いたり、地域図書館の職員の方に「おすすめの本」を紹介してもらったりした。また、PTA の方に読み聞かせをするなど児童があらゆる本に触れる機会や本を知る機会を整えた。

ウ 分科会ごとの授業づくり

それまでは、研究授業者のみが指導案を作成することが多かったが、分科会の指導案検討、研究推進委員会と分科会合同指導案検討に分け、より多くの教員が検討段階からかかわることで、授業実践やその後の協議会の意見が明確な成果が課題につながることを目指した。

エ 日常活動の実践

各分科会が時間や活動を設定し、日常活動を進めていくことを目指したが、コロナ禍において実施できることを実施するに留まった。

オ ICT の活用

高学年を中心に、ICT を活用し意見の全体共有や自分の意見を表現する際に活用した。「スクールタクト」や Microsoft の「power point」「word」等を活用した。

③ 実践

学年	各学年の取り組み
全校	・国語科年間指導計画の見直し ・国語科系統指導表の見直し ・学校図書館、地域図書館の活用 ・日常活動の実施 ・毎時間のめあて提示と児童の振り返り
1年	・動物のかくれ方紹介（クイズ、動作化、ペープサート） ・音読発表（紙芝居） ・動物の赤ちゃん紹介カード作成 ・音読指導の充実（年間の家庭学習の課題） ・ワークシートの充実（分科会、研究推進委員会で検討）

2年	・保護者に向けた言語活動を設定(音読発表会) ・音読指導の充実(年間の家庭学習課題) ・全文シートの活用(教材文の全文が掲載されているワークシート)
3年	・年間を通した考えや思いを書く活動の実施 ・語彙の獲得の充実(言葉の宝箱の活用、ペアトーク、辞書活用) ・わたしの辞書作り(辞書活用) ・季節の言葉集め ・豆腐作り体験→食べ物へんしんブックの作成 ・自分の考えの根拠となる文章を示す活動の充実(サイドライン、書き抜き等)
4年	・全文シートの活用 ・語彙の獲得への取り組み(辞書、言葉の宝箱の活用等) ・リーフレットづくり、魅力紹介カード ・出張スピーチの感想 ・授業に即した話し合いの場の設定(ペア、グループ)
5年	・キャリア教育に繋がる言語活動の設定 ・語彙の獲得、活用の実践 ・ICT 活用(スクールタクトでの全体共有、振り返り) ・到達度段階に応じた支援の明記 ・対話活動の目的を明確にした授業の実施
6年	・卒業制作に向けた言語活動の設定(タイムカプセル、お気に入りの教材読み) ・自分の言葉を吟味し、相応しい語句で表現する活動の充実 (短歌・俳句発表会) ・筆者を知るための校外学習の実施(「宮沢賢治」のルーツを探る) ・4つの対話活動の実践(「作品との対話」「友達との対話」「教師との対話」「自分自身との対話」) ・ICT 活用(「power point」意見文やブックトーク、座右の銘のプレゼンテーション)

【日常活動例】

	活動名	活動時間	内容・期待する効果
低学年	言葉ずもうをしよう	ふれあいタイム ぐんぐんタイム	二人組になり、テーマに沿って二人で交代にその物の名前を言っていき、言葉が出なくなった方が負けとなる。
	言葉のキャッチボールを続けよう	ふれあいタイム ぐんぐんタイム	・二人組で話題に沿って交互に話す。 ・はじめはじゃんけんをして、スタートを決める。 ・3 分間、話し合いが止まらないように、質問したり返したりしていく。
	音読	家庭学習	物語や詩などを大きな声ではっきりと読む。毎日継続することで、表現するための声の大きさ、発音、語彙等を上手に覚えることができるようにする。
中学年	ウーバー読書	朝読書中	・現在行っている読み聞かせを拡大し、頻度を上げて行う。 ・様々なジャンルの本と出合う機会を増やすことで、読書活動を盛んにする。
	ヒントでピント	ぐんぐんタイム	3(もしくは5)ヒントクイズを出し、それを答え合うことを通して、言葉で伝え合うことの難しさやそのコツをつかみ、正確な描写をすることを通して、語彙を増やしていく。

	辞書引きリレー	常時	児童が辞書を引き、その解説の中にある興味を持った言葉を引くことを、リレーのようにつなげ、「○○とはこういうことです。」という形式で発表する。これらの活動を通して、一つの言葉を多角的な意味で説明できるようにする。
	視写	家庭学習	天声人語や子ども新聞のコラムを視写させる。その上で自分の考えを書く活動を継続することで、思考力や表現力を高められるようにする。
高学年	こども新聞の記事の要約	ぐんぐんタイム	書き手の最も伝えたいことを読み取って短くまとめる力をつける。
	視写	国語	主体的に文章を読む力、速記力を身に付ける。 文章で使われている表現技法を知る。
	出張スピーチの感想	出張スピーチ	プリントを配り、出張スピーチを聞いて自分の感想を書く。他人の意見を聞いて自分の考えをまとめる力をつけさせる。
	チームビルディング活動	ぐんぐんタイム	話し合いを通して、合意をしたり課題解決したりするゲームを行う。

④ 授業実践

学年(実施月)	単元名	教材名
6年(6月)	「視点のちがいに着目して読み、森絵都さんに感想を届けよう。」	「帰り道」
6年(9月)	「高畑さんの論じ方や表現の工夫を読み解き、 アメリカ大使館の方に日本文化を伝えよう。」	「『鳥獣戯画』を読む」 「日本文化を発信しよう」
1年(10 月)	「かくれんぼしているいきものをしらべて、『かくれんぼショーかい』をしよう」	「うみのかくれんぼ」
3年(11月)	「段落の順序に気を付けて読み取ったことを生かして、 『食べ物のひみつブック』を作ろう」	「すがたをかえる大豆」 「食べ物のひみつを教えます」
6年(12 月)	「自分の考えを未来の自分に届けよう！～タイムカプセルで書き残そう～」	「メディアと人間社会」 「大切な人と深くつながるために」

⑤ 成果と課題

○成果

・めあて提示や振り返りの充実により児童が目的意識をもちながら、学習を進めていけるようになってきた。
・教師が「身に付けさせたい力」を意識しながら授業デザインを考えるようになった。
・音読や日常活動など、1～6年までの継続した指導を行うことができてきた。

○課題

・さらなる「適切な言語活動」の実践を進めていく必要がある。
・児童が学習意欲を持続するための教師の承認や価値付けをさらに充実させていく必要がある。
・考えの形成・共有の学習場面の実践を充実させていく。(ICT の活用、4つの対話)
・「表現する」ことを多様化していくことが必要である。

5 研究の内容

(1) 研究主題の捉え

学習指導要領国語科の目標を踏まえ、国語科が目指す資質・能力である「国語で正確に理解し、適切に表現する」ことを目指している。この資質・能力は連続的かつ同時的に機能するものであるため、本校の研究主題の考えも「主体的に学び合う」と「豊かに表現する」も同様に考えている。

しかし、「豊かに表現する」ためには、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには、国語科で表現された様々な事物、経験、思い、考え等を理解しようとするための主体的な学び合いが必要であると考え、「主体的に学び合い」、「豊かに表現する」という順にした。

「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」を以下のように、解釈し研究を進めている。

① 「主体的に学び合う」児童

国語科では、児童が、学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉の自覚を高めながら、国語科における資質・能力を身に付けていくことを目標としている。そのために、教師が「児童に身に付けさせたい力」を明確にもち、児童自身が「何を学ぶのか」「なぜ学ぶのか」「どのように学ぶ」のかを自覚しながら、学習を進めていくことが重要であると考えた。児童が、自ら見通しをもち既習事項を活用しながら、自分の目標に向けて自分の学びを調整したり粘り強く取り組んだりしていけるだろう。これらの児童の主体的な学習を通して、「国語で正確に理解する」ことを実現させていきたい。

② 「豊かに表現する」児童

「言葉による見方・考え方」をはたらかせながら、表現することを目指す。学習において以下の姿を想定している。

ア 根拠を明確にして、表現している。
イ 既習事項を活用しながら表現している。
ウ 日常活動を生かしながら表現している。
オ 自分の考えを再構築し、表現している。
カ 引用等しながら、表現している。
キ 表現を工夫している。

③ 「適切な言語活動を通した授業改善を目指して」

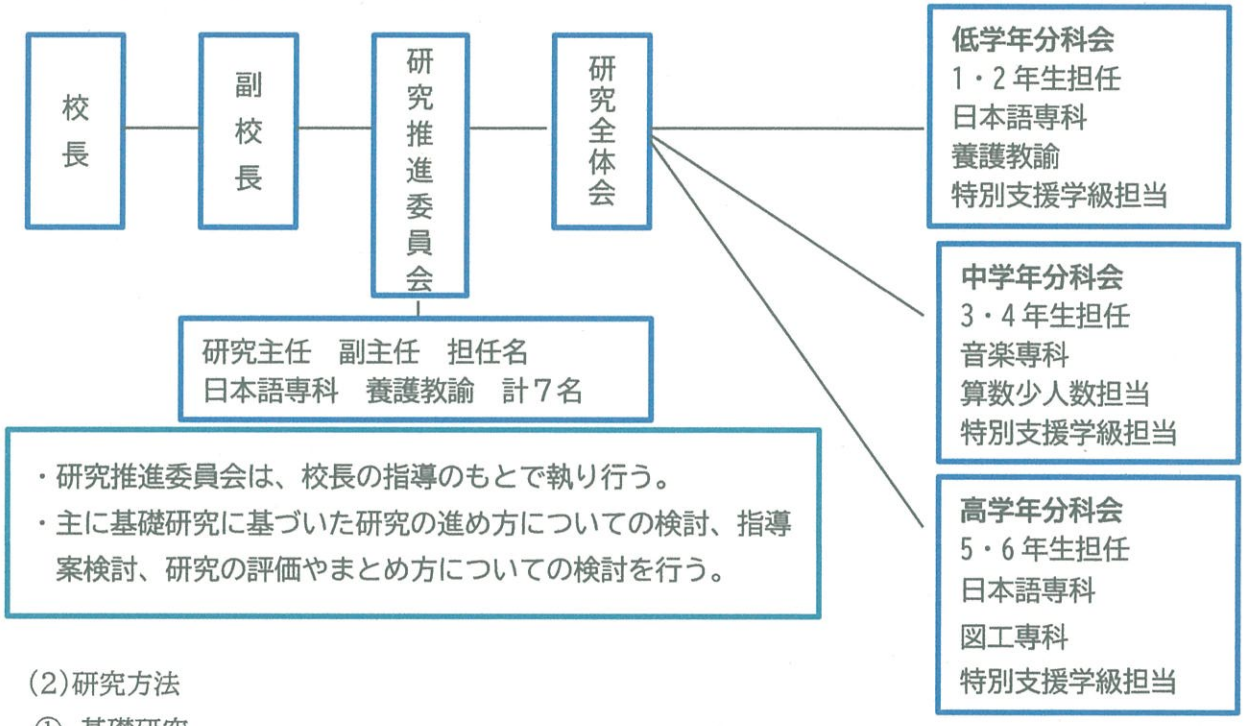
「適切な言語活動」とは、児童の実態に即し、児童自身が「何を学ぶのか」「なぜ学ぶのか」「どのように学ぶ」のかを自覚しながら、学習に取り組むことを目指している。これらを実践するために、以下の授業づくりや授業改善に取り組んでいる。

ア 国語科年間指導計画や国語科系統指導表に基づいた授業づくり
イ レディネステストを踏まえ、児童の実態に応じた授業づくり
ウ 学習指導案の中に「身に付けさせたい力」「何を学ぶのか」「なぜ学ぶのか」「どのように学ぶ」を明記すること
エ 児童が目的意識をもって取り組む単元課題の設定
オ 児童の実態や単元のゴールに即した発問や手立ての工夫
カ 日常活動を生かした単元計画

6 研究方法

(1)研究組織

研究すること自体が教員の力となって、教育の質を高めることができるよう研究推進委員会を中心とした学校組織で研究に取り組んだ。



(2)研究方法

① 基礎研究

ア 国語科の新学習指導要領を校内で読み合う時間を設ける。また、先行研究の資料を集め、授業実践に生かす。

イ 講師である奥水かおり先生より新学習指導要領国語科の指導の在り方やカリキュラム・マネジメントの3つの視点についてご講演いただく。

ウ ICT の活用方法について外部講師を招き、年間3回以上の研修を行った。

② 指導計画、指導内容の明確化

ア 研究主題「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」に迫るために、分科会で目指す児童像や課題、手立てについてまとめた。また、各学年で単元毎の指導事項をまとめ、麻布小学校独自の国語科における系統指導表を作成した。

イ カリキュラム・マネジメントの視点から、今年度の国語科の年間指導計画を学年ごとに作成した。その際、他教科や学校行事との関連を重視してきた。

ウ 教材研究会を年に3回行い、指導案作成前に、各分科会から授業デザインの提案をし、協議を行った。

③ 授業実践の実施

ア 各学年で1回ずつ、計6回研究授業を行った。

イ 低中高の各分科会で指導案の検討を行ったり教材研究を進めたりし、各分科会で授業提案を行う。また、2学級ある学年は事前授業を行い、支援や手立ての有効性について吟味を行った。

ウ 分科会から主題に迫る指導過程における提案や作成した指導案を研究全体会や研究推進委員会でも再検討した。

6 研究方法

社会の要請

予測困難な時代において、児童には、自らの生き抜く力を養い、自らの人生を切り開いていかなければならない。これからの学校にはカリキュラム・マネジメントの視点から、児童の発達段階を考慮し、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力の育成が求められている。

学習指導要領　国語科目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し、適切に使うことができる。

(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

本校の教育目標

○元気な子　○やさしい子　○考える子

児童の実態	教師の願い
・自分の思いや考えをもつことが難しい。	・自分の思いや考えをもち学習に取り組んでほしい。
・発信、受け取りともに「大切な点」を捉えることに課題がある。	・「大切な点」を捉え、自分の考えに生かしてほしい。
・自分の考えをまとめることが苦手である。	・自分の考えや思いを整理できるようになってほしい。

【目指す児童像】

低学年	中学年	高学年
言葉に着目し、自分の思いや考えをもち、伝え合おうとする児童	言葉に着目し、自分の思いや考えをまとめ、伝え合う児童	言葉を吟味し、進んで伝え合い、思いや考えをまとめたり広げたりする児童

【研究主題】
主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成
～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～

【研究仮説】
カリキュラム・マネジメントの視点から適切な言語活動を設定し、授業改善していくことで、主体的に学び合い、豊かに表現する児童が育つ。

【研究内容】(学校の取組)

カリキュラム・マネジメント	授業デザイン	日常的な取り組み
・国語科年間指導計画や国語科系統指導表を生かした授業デザイン	・児童の振り返りの充実 ・校内教材研究会実施	・学校図書館、地域図書館の活用 ・ICT 機器活用　・日常活動の実践

【手立て】(授業改善)

低学年	中学年	高学年
○豊かな表現に導く支援 (話型やモデル文の提示) ○語彙の獲得	○「4つの対話」の設定 ○既習事項の掲示	○児童が目的意識をもてる指導 ○タブレット端末の活用

第2章　授業研究

低学年　分科会（第１学年）

麻布小学校教育目標　　元気な子　やさしい子　考える子

〈研究主題〉
「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」
～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～

低学年分科会として目指す児童像
「言葉に着目し、自分の思いや考えをもち、伝え合おうとする児童」

低学年児童の実態	低学年分科会　教師の願い
・学習意欲は高いが、言葉に着目せず読み取りが不十分であったり、自分の考えをもっているが表現できなかったりする児童が少なくない	・重要な語や文を選びながら読み取り、分かったことを伝え合うことができるようにしたい。

主体的に学び合う姿	豊かに表現する姿
・言葉に着目して、考えをもつ。 ・観点をもとに、文章から読み取ったことを整理する。	・読み取ったことをもとに、分かったことを伝え合おうとする。

手立て１
ICT 機器の活用
・「問い」と「答え」を観点別に色分けしたり、線を引き直したりしながら、視覚的に分かりやすくするために、デジタル教科書を活用する。

手立て２
振り返りの充実
・毎時間、本時のねらいに沿って、自分のめあてを設定し、振り返りを行う。「よくできた」「できた」「次はがんばりたい」の３観点で自己評価し、分かったことや次時で頑張りたいことなどを自由に記述したりできるようにし、学習の積み重ねを実感できるようにする。また、読み取ったことに対しての思いや考えを書くことで、思いや考えを相手に伝えるきっかけにする。

手立て３
地域材の活用
・本校は、近隣で工事が行われている環境にあることから、児童にとって、工事車両はよく目にする働く車である。そのため、学習の導入として、工事車両を見学し、大きさや迫力をより身近に感じることができるようにする。

手立て４
自分の思いや考えをもつための工夫
・カードの工夫
本単元、次単元において、授業内で同一形式のカードを使うことで、読み取ったことを書いたり比べたりしやすくする。
・言葉に着目する手立て
既習事項を生かし、段落の内容を適切に捉えることができるように、大事な言葉に線を引く。また、前時までの自動車の「つくり」を短冊にして提示する。

手立て５
対話活動の充実
・４つの対話（教師、作品、友達、自分）を意図的に展開していく。ペアでの学習を取り入れ、考えを伝え合うことができるようにする。

手立て６
語彙を豊かにする日常活動
・年間通して設定されている「たのしいな　ことばあそび」の単元や、ぐんぐんタイム、家庭学習での文作りの活動などを通して、語彙を増やし、適切に使えるようにする。

カリキュラム・マネジメントの視点

〈図工科との関連〉
・働く自動車への関心を高めることで、２年生での消防写生会への意欲につなげる。

〈生活科との関連〉
・自分の身の回りの工事車両や警察車両を間近で見ることで、「なかよしみつかる　つうがくろ」の学習での通学路の様子や安全を守るための工夫に気付く。

第１学年　国語科学習指導案

日　時　令和３年10月６日（水）
対　象　第１学年２組25名
授業者　前川　裕希

研究主題
主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成
～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～

低学年分科会の目指す児童
「言葉に着目し、自分の思いや考えをもち、伝え合おうとする児童」

１　単元名　「せつめいの　じゅんに　きを　つけて　よもう」
　教材名　「じどう車くらべ」　　（光村図書　第１学年下巻）

２　単元の目標と評価規準

（１）単元の目標
・　共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。【知（２）ア】
・　事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。【思－Ｃ（１）ア】
・　文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。【思－Ｃ（１）ウ】
・　言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、言葉を大切にして、思いや考えを伝え合おうとすることができる。【主】

（２）単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。【（２）ア】	①　事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。【Ｃ－（１）ア】 ②　文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。【Ｃ－（１）ウ】	①　言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、言葉を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。

３本単元について
（１）単元の設定理由
　本単元は、小学校学習指導要領（平成２９年告示）国語編第１学年及び第２学年に記載されている次のことを扱っている。【学習指導要領から抜粋】

【知識及び技能】
（２）ア　共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

【思考力、判断力、表現力等】
C 読むこと
（１）ア　時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。
　　ウ　文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。

本単元では、３つの自動車の説明を読み、それぞれの「しごと」と「つくり」を読み取っていく。「しごと」をするためにどういう「つくり」になっているか、「そのために」という言葉に着目し、捉えるようにしていく。デジタル教科書から、「しごと」と「つくり」の書いてあるところに線を引く学習は、段階を踏み、はじめは教師と、次にペア、個人というように、自力解決できるようにした。また、穴埋め式のカードから、徐々に、穴埋めが少なくなり、自分で重要な語句を書き抜きできるようなカードを使用していく。

次単元では、本を基にして、重要な語や文を選び出し、自動車図鑑を作る言語活動「じどう車ずかんを　つくろう」が設定されている。本単元の終わりには、次単元へ向けて、絵や動画から、「しごと」や「つくり」を考え、自分で自動車図鑑を作る書く単元と連動した学習内容を設定した。

（２）児童の実態について

「うみのかくれんぼ」読み取り
（ワークシート、テスト）

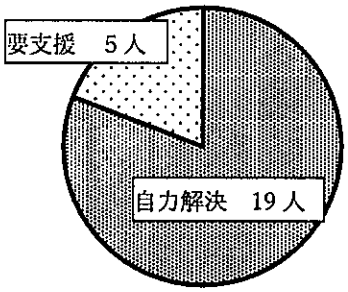
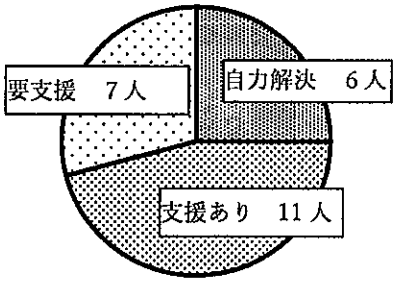


図　鑑　作　り



物語文とは違う説明文にも、抵抗なく学習に取り組んでいる。「問い」に対して「答え」がある文の構造に着目し、新しい事柄を知る楽しさを味わいながら学習している。「うみの　かくれんぼ」の学習の振り返りでは、「一人でできた。」「次の生き物も楽しみ。」などの学習感想があった。

「うみのかくれんぼ」では、「問い」に対しての「答え」を本文から読み取る（大体の内容を捉える、重要な語句を選ぶ）ことができた児童は約８割、外国籍等で、教師の支援が必要な児童は約２割いた。また、「うみのかくれんぼずかん」を作るため、本や図鑑から大体の内容を捉え、重要な語句を選び出すことができた児童は、約３割だった。形式的に書かれていない分から読み取る難しさや、「問い」に対しての「答え」以外のことが書かれており、必要なことを読み取る難しさがあったと推測される。

デジタル教科書は使い始めたばかりで、不慣れなところもある。しかし、簡単に書いたり消したりすることができることから、機能を楽しみながら学習に取り組んでいる。

（3） 教材について

「それぞれの　じどう車は、どんな　しごとを　して　いますか。」「その　ために　どんなつくりに　なって　いますか。」という二つの問いの文に対して、三つの事例を挙げながら説明している文章である。三つの事例は、バス、トラック、クレーン車のように、児童の身近なものから順に挙げられており、説明の順にも「しごと」→「つくり」という一定の型が見られる。

既習の「くちばし」や「うみの　かくれんぼ」と比べて特徴的なのは、二つの「問い」の間に因果関係が見られる点である。どの事例においても「しごと」に合わせた「つくり」が説明されている。

「答え」の文では、「しごと」と「つくり」を「そのために」という言葉が繋げている。「しごと」は一文で、「つくり」は二文で説明されている。「つくり」の文には、多少その「つくり」にした意図が説明されているが、説明されていない部分に関しては、挿絵や本を参に児童に考えさせることで、理解が深まることが期待できる。

また、「しごと」「うで」「あし」など、自動車を擬人化した説明が複数見られたり、文章の下部にはそれぞれの自動車の挿絵があったりする。これは、読み手に挿絵と文章を対応させて理解してもらおうという書き手の説明の工夫であることも捉えさせていく。

【学習材の分析】

	①	②	③	④
段落の内容	（話題）いろいろな自動車が走っている。 （問い）どんな仕事をしているか。 （問い）どんな作りになっているか。	（仕事）バスや乗用車は、人を乗せて運ぶ仕事をしている。 （作り）座席のところが広く作ってある。 （作り）大きな窓がたくさんある。	（仕事）トラックは荷物を運ぶ仕事をしている。 （作り）広い荷台になっている。 （作り）タイヤがたくさん付いている。	（仕事）クレーン車は、重い荷物をつり上げる仕事をしている。 （作り）丈夫な腕が、伸びたり動いたりするようになっている。 （作り）しっかりした足が付いている。
着目させたい言葉、文	どんな　しごとを　して　いますか。 そのために、 どんな　つくりに　なって　いますか。	バスや　じょうよう車　人を　のせてはこぶ そのために ざせきの　ところが　ひろく 大きな　まど	トラック　にもつを　はこぶ そのために ひろい　にだい タイヤが　たくさん	クレーン車　おもいものを　つり上げる そのために じょうぶな　うでが　のびたり　うごいたり　するように しっかりした　あし

１年上巻「うみの　かくれんぼ」同様、「問い＋答え＋答え＋答え」という列挙型の構成となっている。「どんな仕事をするのか」、そのために「どんなつくりになっているのか」という具合に、問いが二つあるため、二つの段落に分けて書かれている明確な構成である。

４　研究主題に迫るための手立て

○　自分の思いや考えをもつための手立て

・カードの工夫

本単元、次単元において、授業内で同一形式のカードを使うことで、読み取ったことを書いたり比べやすくしたりする。

・言葉に着目する手立て

既習事項を生かし、段落の内容を適切に捉えることができるように、大事な言葉に線を引く。また、前時までの自動車の「つくり」を短冊にして掲示する。

○　ICT 機器を活用

「問い」と「答え」を観点別で色分けし、視覚的に分かりやすくするためにデジタル教科書を活用する。

○　対話活動の充実

「４つの対話」（「作品との対話」「教師との対話」「自分自身との対話」「他者との対話」）を意図的に本単元の中で展開していく。ペア学習を取り入れ、考えを伝え合うことができるようにする。

○　振り返りの充実

毎時間、本時のねらいに沿って、自分のめあてを設定し、振り返りを行う。「よくできた」「できた」「次はがんばりたい」の３観点で自己評価をし、分かったことや次時でがんばりたいことなどを、自由に記述できるようにし、学習の積み重ねを実感できるようにする。また、読み取ったことに対しての思いや考えを書くことで、思いや考えを相手に伝えるきっかけにする。

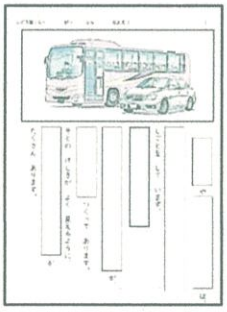
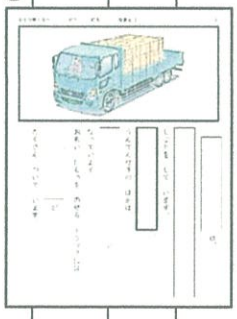
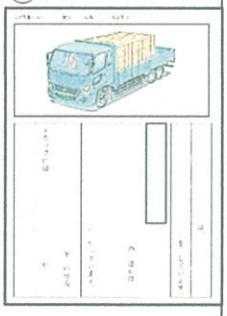
○　語彙を豊かにする日常活動

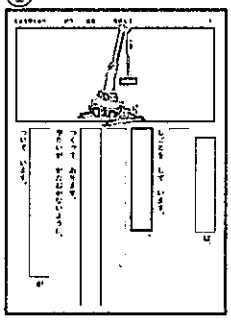
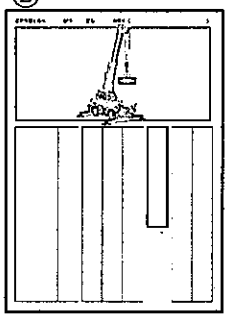
年間通して設定されている「たのしいな　ことばあそび」の単元や、ぐんぐんタイム、家庭学習での文作りの活動などを通して、語彙を増やし、適切に使えるようにする。

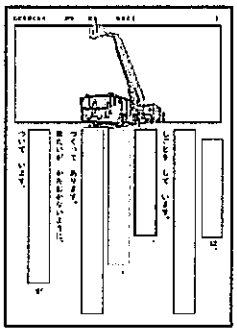
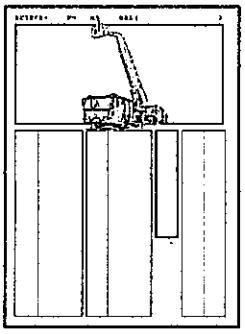
○　地域材の活用

本校は、近隣で工事が行われている環境にあることから、児童にとって、工事車両はよく目にする働く車である。そのため、学習の導入として、工事車両を見学し、大きさや迫力をより身近に感じることができるようにする。

5　単元計画と評価計画（全７時間）

次	時	目標	学習内容	◆評価規準【評価方法】 ・留意点　☆支援
1	1	さまざまな自動車には、それぞれ「しごと」と「つくり」があることに興味をもち、学習の見通しをもつことができる。	1　自動車の種類について、知っているものを出し合う。 2　本時の目標を確認する。 あたらしい　がくしゅうに　ついて　しろう。 3　本文の範読を聞き、出てきた自動車や、説明されていたことについて確かめる。 4　単元の課題を確認する。 せつめいの　じゅんに　きを　つけて　よもう。 5　学習の流れを確認する。 6　本時の振り返りをする。	・　既習の説明文を振り返ることができるような教室掲示をする。 ・　自動車の種類は、児童の発言順に、第５時に向けて掲示しておく。
2	2	バスや乗用車の説明を読み、「しごと」と「つくり」を捉えることができる。 	1　本時の目標を確認する。 バスや　じょうよう車の　「しごと」と「つくり」を　まとめよう。 2　文章全体を読み、問いの文を見付ける。 3　本文から、「しごと」と「つくり」を読み取り、全体で共有しながらデジタル教科書に線を引く。 4　カードにまとめる。 5　本時の学習を振り返る。	・　視覚的にも捉えやすくするために、デジタル教科書を用いて、問い①、問い②と色を変えて文を囲む。
	3	トラックの説明を読み、「しごと」と「つくり」を捉えることができる。 ①  ② 	1　前時の振り返りをする。 2　本時の目標を確認する。 トラックの　「しごと」と「つくり」を　まとめよう。 3　本文から、「しごと」と「つくり」を読み取り、デジタル教科書に線を引く。（個人） 4　ペアで確認後、全体で共有する。 5　カードにまとめる。 6　本時の振り返りをする。	・　「問い」の文と対応するように、同じ色で線を引く。 ☆　実態に応じたカードを使用する。

	4 本時	クレーン車の説明を読み、「しごと」と「つくり」を捉えることができる。 ① 	1　前時の振り返りをする。 2　本時の目標を確認する。 クレーン車の　「しごと」と「つくり」を　まとめよう。 3　本文から、「しごと」と「つくり」を読み取り、デジタル教科書に線を引く。（個人） 4　全体で共有する。 5　カードにまとめる。 6　本時の振り返りをする。 ② 	・　「問い」の文と対応するように、同じ色で線を引く。 ☆　実態に応じたカードを使用する。 ◆　事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 （知（２）－ア）【発言、カードの記述】 ◆　文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 （思Ｃ（１）－ウ）【発言、デジタル教科書、カードの記述 Ａ：②９割以上自力 Ｂ：②６割以上自力 Ｃ：①要支援】
	5	事例の順序について考え、構成の意図を捉えることができる。	1　前時の振り返りをする。 2　本時の目標を確認する。 車が　でてきた　じゅんに　ついて　かんがえよう。 3　どのような順で登場したかを考える。 ・乗ったことがある ・見たことがある 4　３つの自動車の説明は、全て「しごと」「つくり」の順になっていて、二つの説明が「そして」で繋がれていることについて確かめる。 5　本時の振り返りをする。	・　登場した車の絵の順を全体で確認したり、第１時で児童があげた車の順をもとにしたりして、順序に拘って書かれている意図に気付かせる。 ☆　児童にとって身近な車や具体的な場面を挙げる。 ◆　事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 （思Ｃ（１）－ア）【発言、記述】

3	6	はしご車の資料から「しごと」と「つくり」を捉えることができる。 ①  ② 	1　前時の振り返りをする。 2　本時の目標を確認する はしご車の「しごと」と「つくり」を　まとめよう。 3　挿絵を見て、はしご車の「しごと」を想像する。 4　動画を視聴して、「しごと」を確認する。 5　「しごと」から、どのような「つくり」をしているか、学習した３台の車の「つくり」の言葉を選び出しながら、説明し、カードにまとめる。	・　既習事項を振り返ることができるように、「つくり」カードを掲示する。 ☆　「つくり」のカードを並び変えることで、はしご車の「つくり」が説明できるようにする。 ☆　実態に応じたカードを使用する。 ◆　文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 （思Ｃ（１）－ウ）【発言、カードの記述】
	7		6　全体で共有する。 7　本時の振り返りをする。 8　次単元への見通しをもつ。	

6　本時の展開（4/7）

（1）本時の目標

クレーン車の「しごと」と「つくり」を捉えることができる。

（2）本時の展開

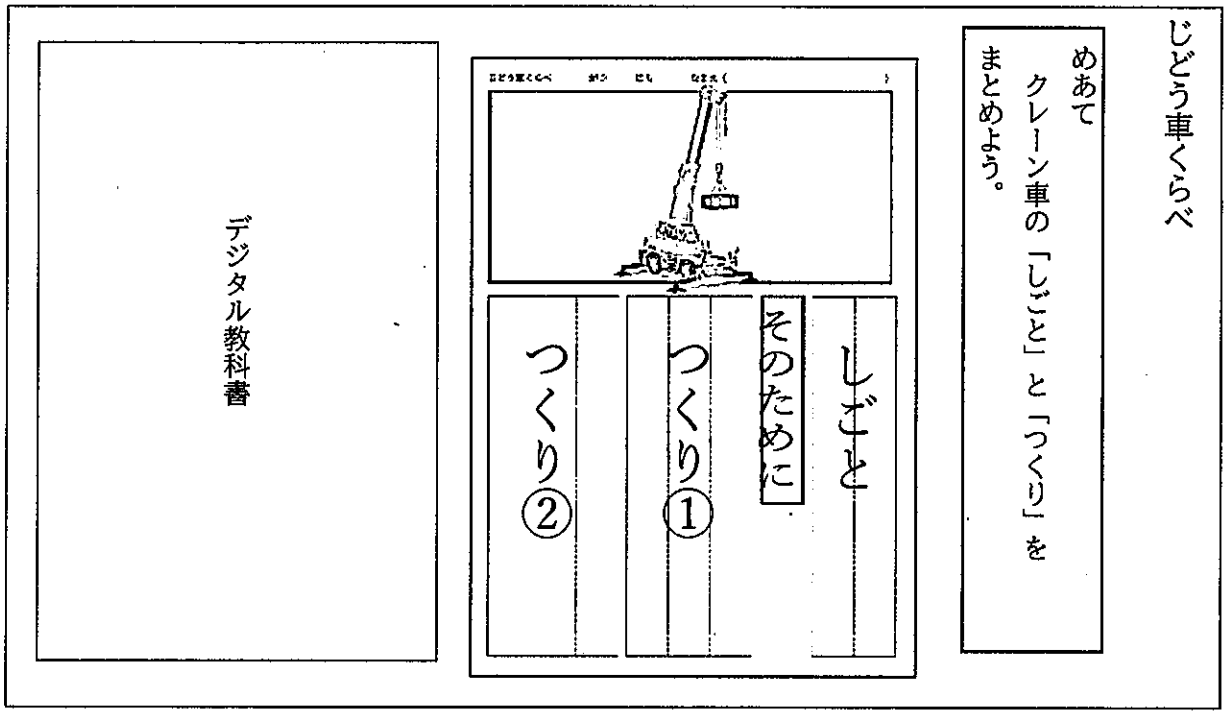
時間	学習内容 T教師の発問 C予想される児童の反応	・指導事項 ◎豊かな表現を見取る視点	◆評価規準 ☆支援　・指導上の留意点
導入	1　前時までの学習を振り返る。 2　本時の目標を確認する。 クレーン車の「しごと」と「つくり」をまとめよう。		・　まとめたカードを掲示し、学習したことが振り返れるようにしておく。
展開	3　本文から、「しごと」と「つくり」を読み取り、デジタル教科書に線を引く。（個人）。 4　全体で共有する。 T　仕事は何ですか。 C　重い物を吊り上げる仕事。 T　そのために、どんな作りになっていますか。 C　丈夫な腕が、伸びたり動いたりするように作ってある。 C　車体が傾かないように、しっかりした足が付いている。 5　カードにまとめる。	◎　大事な言葉に線を引くことができているか。 ◎　教科書の言葉を用いてまとめることができているか。	・　「問い」の文と対応するように、同じ色で線を引く。 ・ ・　デジタル教科書を示し、線を実際に引き、照らし合わせながら確認する。 ☆　C児には、大事な言葉を書くことができる穴埋め式のカードを使う。 ◆　本文から、クレーン車の「しごと」と「つくり」を捉えている。（思C（1）ーウ）【発言、カードの記述】
まとめ	6　本時の振り返りをする。 7　次時の学習について知る。		

（3）授業観察の視点

・　カードを同一形式にしたり、児童の実態に応じて使い分けたりすることで、言葉に着目しながら、自分の考えをもつことができたか。

・　デジタル教科書を用いて、観点別に色別したことで、「問い」「答え」がわかりやすくなっていたか。

7　板書計画



8　本時の振り返り

（1）本時の概要

本時では、クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取った。第2時、3時で乗用車、バス、トラックの「しごと」と「つくり」を読み取っているので、同じ学習の流れを用いて学習を進めた。デジタル教科書には、「しごと」と「つくり」が書かれているところを色別に枠で囲んだ。

言葉に着目するために、「つり上げる」「のびたりうごいたり」「しっかりしたあし」を動作化した。

まとめとして、カードに「しごと」と「つくり」を書き写した。2～3人を除き、ほとんどの児童が自力で書くことができていた。

（2）実践の振り返り

・言葉に着目する意識の高まり

前時までにも、それぞれの車の「しごと」や「つくり」を読み取ってきた。その際にも、着目させたい言葉を取り上げ、指導してきた。そのため、どんな「しごと」か、どんな「つくり」をより明確にすることができた。また、同じ形式のカードを活用することで、本文のどこを読んだらいいのかを児童自身が、着目しやすくなった。

・デジタル教科書の活用のよさ

本単元、さらには「うみのかくれんぼ」の単元より、デジタル教科書を用いて、観点別に色分けして視覚的に捉えやすくしてきた。デジタル教科書の使い方にも、徐々に慣れてきた様子で、線を引いたり囲んだりしながら、必要なところに着目することができていた。間違えても簡単に消すことができるので、児童の意欲にも繋がっていた。ただ、担任側から、児童のタブレットの画面を直接確認しにくい面もあり、活動の隙間時間に遊んでしまう児童もいることが課題である。

（3）協議内容

【成果】

・デジタル教科書を活用することで、線を引きやすかったり、視覚的に分かりやすかったりするために、問いや答えを探したり、言葉に着目したり、挿絵と文章をつなげたりするのに効果的だった。
・デジタル教科書で児童の学習進度の確認することができた。
・言葉の一つ一つを丁寧におさえ、動作化することで、理解が深まっていた。
・文と挿絵を対応することで、より理解が深まった。
・前時までの表を活用することで、取り組みの見通しがもてていた。
・自分のめあてを選択しているところがよかった。
・児童がタブレットを使いこなしていて、「線を引く」等スムーズに行っていた。

【改善点】

・低学年は自分でめあてを決めるのではなく、全体で共有するめあてを確認し、最後に振り返った方が有益である。
・タブレットで手いたずらをしている児童への対応の手立てを考える。
・本文をそのまま書き写すのではなく、大事な言葉だけのカードにした方がよかった。
・一対一ではなく、様々な答えが出てくる発問を工夫する。
・教師の意図しない児童の発言への返し方を工夫する。

（4）指導講評

・発表に向けてのまとめである。本校の研究主題の大事な言葉は何か。
全員が発問に向き合わなければならない。また、そのような発問をしなければならない。
「まだ考え中です。」も大切な意思表示である。
子ども（低学年）にとっての主体的とは、「楽しい」「面白い」が大事である。

・今日の授業での「主体的」は、子どものどんな様子か。 主体的な学びのためにどんな努力・準備を

したか。答えがひとつの発問では子どもは考えない、深まらない。
様々な答えが出てくる発問を考えられるかどうか。そんな授業をしてほしい。
・一対一の授業では子どもは「見付ける作業」に終始してしまう。正確に読むのは大事だが、学びの蓄積を生かすのであれば、子どもの自発性を生かしてもよかった。
・大事な言葉に着目させたいのであれば、全文が必要か。一番大事な言葉について話し合ってもよかった。全文ではない言葉を抜き出して線で囲っている児童もいた。
「本当に全部の文が必要ですか」という児童への揺さぶりがあっても良かった。
「じょうぶなうで」「しっかりしたあし」をおさえたかったのでは。「じょうぶなうで」と「しっかりしたあし」の後には大事な言葉なので句読点がある。板書の際、うっかり書き損じてしまった。
・カードとワークシートは違う。
カードを「しごとカード」と「つくりカード」にして、それらを「そのために」でつなぐという方法もあった。
・接続詞は、論理(理由)である。「つくりカード」が複数必要なことに気付かせる展開でもよかった。
・「うんうん」とうなずくのが授業での対話である。今日もたくさんいた。
タブレット使いこなしていたのは今までの蓄積があったからだろう。
・どんな工事車両があるのか、実際に見に行く前に調べてから行こう。
調べてから行けば、実物を見た時の感動が違うはず。
・映像(デジタル教科書等)の活用について。
言葉が分からない子でも映像で理解できることがある。
デジタル教科書の活用法はこれからいろいろと考えていくべきである。
・自分でめあてを決めることについて。
方向性はいいのだが、低学年では無理だと思う。中学年以降で取り組んでほしい。
低学年では「今日の授業のめあて」をみんなで振り返った方が有益である。
・視写のまとめ方、大事な言葉だけのカードにした方がよかったかもしれない。
児童をどうやってみんな同じ土俵に乗せるか、工夫する。
・本日の始業時、今までの学習をふり返るとき「しごと」「つくり」ではなく、子供が車種を言う事に意識が傾いてしまった。あそこは落ち着いて、発問の仕方を工夫するべきだった。
・板書に残すと子供の記憶に残るので、教師の意図しない児童の発言への返し方は、落ち着いて的確に返答し、板書に残さない工夫も必要である。

低学年　分科会（第２学年）

麻布小学校教育目標　　元気な子　やさしい子　考える子

〈研究主題〉
「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」
～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～

低学年分科会として目指す児童像
「言葉に着目し、自分の思いや考えをもち、伝え合おうとする児童」

低学年児童の実態	低学年分科会　教師の願い
・学習意欲は高いが、言葉に着目せず読み取りが不十分であったり、自分の考えをもっているが表現できなかったりする児童が少なくない	・重要な語や文を選びながら読み取り、分かったことを伝え合うことができるようにしたい。

主体的に学び合う姿	豊かに表現する姿	カリキュラム・マネジメントの視点
・言葉に着目して、考えをもつ。 ・観点をもとに、文章から読み取ったことを整理する。	・読み取ったことをもとに、分かったことを伝え合おうとする。	〈生活科との関連〉 ・オンライン動物園を行い、ペットの獣医ではなく動物園の獣医という職業のイメージを作る。 〈道徳との関連〉 ・命や自然とのことを学ぶときに動物を題材としているので、獣医の人柄を思い出させたい。
手立て１ **実生活につながる単元課題の設定** ・文章を正確に読み取った上で、自分の体験と比べ、文章を自分の事として考えるという必要感をもって、学習に取り組めると考えた。 **手立て２** **ICT 機器の活用** ・タブレットを活用することで、やり直しがしやすく、教科書の書き込みに抵抗が少なくなる。また、本文から大事な言葉を探し出したり、文章構成を整理したりしやすくするのに有効である。 **手立て３** **振り返りの充実** ・毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、「考えたこと」「気付いたこと」について振り返りを行う。児童が意欲的に進められるようにするため、学習状況や感想について、全体で交流の機会を設けたり、有効な振り返りを意図的に紹介し、児童が学習の面白さを味わうことができるようにする。	**手立て４** **対話活動の充実** ・対話の目的や対話活動における視点を提示したり、考えさせたりしながら、４つの対話（教師、作品、友達、自分）を意図的に取り入れる。目的や視点を明確にすることで、児童が振り返った時に対話活動後の成果が分かるようにする。 ・ペア・トリオでの学習を取り入れ、教師が習熟度を考慮し、学び合いができるように、教師が意図的に設定する。また、クラス全体での考えの共有はタブレットのスクールタクトを有効活用する。 **手立て５** **語彙を豊かにするための工夫** ・ぐんぐんタイムで言葉遊びを継続的に取り入れたり、新たに学習した語彙を掲示し、日常的に目に触れるようにしたり、教材で出た表現を使った日記を課題にしたりすることで、授業で獲得した表現方法や語彙の定着を図る。	

第２学年　国語科学習指導案

日　時　令和３年９月29日（水）
対　象　第２学年２組　26名
授業者　鳴海　大祐

研究主題
主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成
～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～

低学年分科会の目指す児童像
「言葉に着目し、自分の思いや考えをもち、伝え合おうとする児童」

１　単元名　「かんそうこうりゅう会をしよう」
教材名　「どうぶつ園のじゅうい」　（光村図書　第２学年上巻）　筆者　植田美弥

２　単元の目標と評価規準
（１）単元の目標
・ 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。【知（２）－ア】
・ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。【思Ｃ（１）－ア】
・ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもつことができる。【思Ｃ（１）－オ】
・ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。【思Ｃ（１）－カ】
・ 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。【主】

（２）単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。【知（２）－ア】	①　「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。【思Ｃ（１）-ア】 ②　「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。【思Ｃ（１）-オ】 ③　文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。【思Ｃ（１）－カ】	①　進んで文章と経験とを結び付けて感想をもち、考えたことを共有しようとしている。

３本単元について

（１） 単元観

本単元の指導事項として、小学校指導要領（平成２９年告示）国語　第１学年及び第２学年に記載された以下のことを扱っている。【学習指導要領から抜粋】

［知識及び技能］
（２） ア　共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

［思考力・判断力・表現力等］
Ｃ　読むこと
（１） ア　時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。
オ　文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。
カ　文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

単元で児童に身に付けさせたい力は、

① 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える力

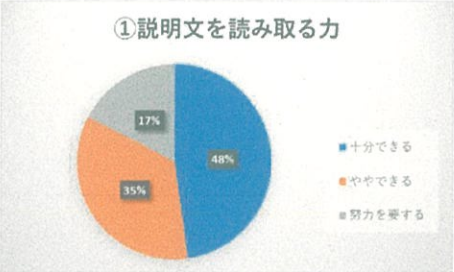
② 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもって伝え合う力

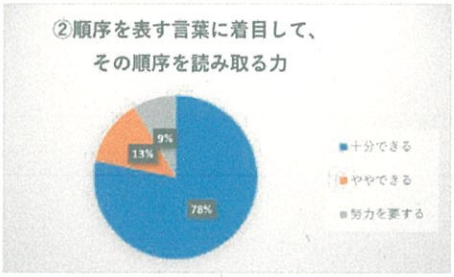
上記を身に付けるために、本単元では、「かんそうこうりゅう会をしよう」という学習課題を設定した。学年の目指す児童像を達成するために、重要な語や文を選びながら読み取り、分かったことや考えたことを伝え合うことができる力を身に付けさせるということに重点を置いて指導していく。そのために、教材文から仕事をする「理由」と「工夫」を読み取る活動を通して、ひきつけられるところを探したり、自分の知識や経験と結び付けながら感想を書いたりする学習活動を行うことで、自分の思いや考えをもたせたい。また、感想交流会を「学級内交流」と「学年交流」の二つの交流場面で設定した。学級や学年で交流することにより自分と違う友達の感じ方を知ったり、考えつかなかったことを聞いたりすることで、感想を書くたり伝えあったりする楽しさを味わわせたい。

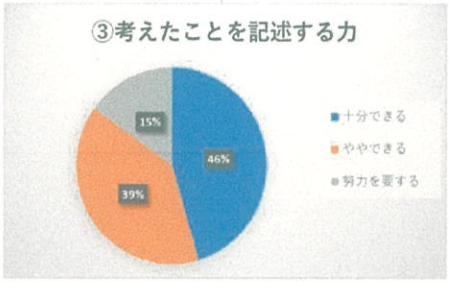
説明的文章の単元の「たんぽぽのちえ」で「二、三日たつと」「やがて」「このころになると」などの『時を表す言葉』を使って順序よく説明することのよさについて学んできた。本単元では、一日の『時間を表す言葉』に着目し、時間的な順序を考えながら文章の大体を捉えさせていく。時間の推移に沿って話を進めていくと事実が整理しやすいことに気付かせたい。日常生活の中でも、時間的な順序に沿って考えたり話をしたりすることができる児童の育成を目指す。

学習したことと日常生活を関連させるため、常時活動で行っている週末日記でも、時間を表す言葉を使わせて文章を書き進めていけるようにしたい。ただ時間を表す言葉を時間の推移に沿って自分の体験を文章に書けるように指導していく。

（２）児童観







左記の①の結果は、児童が本年度９月初めに受けたレディネステスト（夏休みの学習のまとめワークシート）の結果の「説明文を読み取る力」の部分のデータをグラフにしたものである。①の結果から、文章を読み取るための手がかりを見つける能力が身についていない児童が１７パーセントいることが分かる。

本学級の児童は、一学期に、「たんぽぽのちえ」の説明文で、『時を表す言葉』に着目し、「順序」を読み取ることを学習した。その後のレディネステストの結果が②の結果になっている。「たんぽぽのちえ」の学習を通して、８割の児童が季節や何日間などの一日より長い時間を表す言葉の『時を表す言葉』に着目することができている。この学習を生かして、「どうぶつ園のじゅうい」では、一日の中での時間を表す言葉の『時間を表す言葉』に着目させて、「順序」を読み取らせていく。

また、③のデータは、自分の考えを書くことができるかについてのテスト結果である。自分の感想・考えを書くことができる児童は多いが、自分の経験と結び付けて考えることにまだ慣れていない児童が日常の中では多く見られる。本単元を通して、自分の体験と結び付けて、感想をもつことができるように、指導していく。

（３）教材観

本教材は、獣医の一日の仕事が、日記のように時間を追って書かれており、時間的順序を捉えるのに適している。また、「朝」「見回りが終わるころ」などの語句が段落のはじめに書かれていることや、それぞれの行動などの後にその仕事の理由が書かれていることで、読み手に分かりやすい構成になっている。「いつもすること」「ある日特別にすること」というまとまりでも捉えることができ、事柄の順序ということと合わせて指導できる教材である。

説明的な文章の学習として、これまでに、わけを表す接続詞や文末表現などを学習した。本教材でも、「なぜかというと～からです」「～ので」など、わけを表す言葉に着目させたい。どんな仕事を何のために、どんな工夫をしてされているのかを読み取りながら、動物に対する筆者の思いや考え方に気付き、共感したり感動したりしながら、読み進められるようにしたい。また、自分が知っているお医者さんと獣医さんを比べたり、人間の病気と動物の病気を比べたり、さらには子供自身が保護者などから優しくしてもらったり、心配してもらったりした経験を想起させることで、実体験で知っていることと重なる部分を比べ、考えさせる。そこから感想をまとめていき、他の児童と自分の感想を交流し、より深い学びにつなげていきたい。

（4）学習材の分析

＜どうぶつ園のじゅうい＞

	はじめ	中						おわり
段落	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
内容	仕事の紹介	動物園の見回り	いのししの診察	にほんざるの治療	ワラビーの治療	ペンギンの治療	日記の記入	入浴	まとめ
読み取らせたい言葉（順序性）	・筆者の植田美弥さんが、「わたし」であること。 ・ある日のわたしの仕事内容を紹介していくこと。	・朝	・見回りがおわるころ	・お昼前	・お昼過ぎ	・夕方	・一日のしごとのおわり	・どうぶつ園を出る前	これで、ようやく　長い一日が終わります。
読み取らせたい言葉（わけ）		・なぜかというと～からです。	・依頼（叙述から）	・依頼（叙述から）	・ので	・依頼（叙述から）	・のです。	・だから～のです。	
読み取らせたい言葉（くふう）		・毎日「おはよう」と言いながら家の中へ入り、こえもおぼえてもらえるようにし	・しいくいんさんがえさをたべさせ、その間に、そっと当ててみました。	・えさの中にくすりを入れて・くすりをこなにしてバナナにはさむ・こなをはちみ	・三人のしいくいんさんにおさえてもらって、ちりょうをしました。	・大いそぎでくすりをのませてはかせる	・きょうあったできごとや、どうぶつを見て気がついたことを、日記に書きます。	・どうぶつ園を出る前には、かならずおふろに入ります。	
筆者の人柄が読み取れる文章		・あんしんして見せてくれるようにする	・いのししがこわがらないように	・やっと、のみこんでくれました。	・はぐきのちりょうは、とてもいたいので	・大いそぎで ・ひとあんしんです。	・よりよいちりょうをすることができる	・どうぶつ園の外にもち出さないために	

4　研究主題に迫るための手立て

○　実生活につながる単元課題の設定

本単元では、「かんそうこうりゅう会をしよう」という単元課題を設定した。読み取った内容を自分の実生活の経験と比べ、書いた感想を友達と交流するという見通しをもたせることで、目的意識をもって学習に取り組むことがアできると考える。「かんそうカード」を読み合い、友だちにシールを貼ってもらったり、感想を書いてもらったりし、評価してもらう喜びを味わわせる。文章を正確に読み取った上で、自分の体験と比べ、文章を自分のこととして考えるという必要感をもって、学習に取り組めると考えた。

○　ICT機器の活用

本単元の指導の重点である「大事な言葉を読み取ること」についての作業を容易にするための手段として、タブレットの「スクールタクト」と「デジタル教科書」を活用する。考えの共有にスクールタクトを活用することで、お互いの考えをクラスで一斉に共有することができる。また、デジタル教科書では、失敗してもすぐやり直しができるので、児童の教科書への書き込みに抵抗が少なくなる。「仕事の訳」と「仕事の工夫」に線を引かせたり色で分類させたりすることが容易にでき、本文から大事な言葉を探し出したり、文章構成を整理したりするのに有効である。

○　振り返りの充実

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として「考えたこと」「気付いたこと」の２つを挙げ、自分の学習について振り返る機会を設ける。児童自身が学習を意欲的に進められるようにするため、児童の学習状況や感想について、全体での交流の機会を設けたり、有効な振り返りを意図的に紹介し、児童が学習のおもしろさを味わうことができるようにする。

○　対話活動の充実

（１）「４つの対話」による意図的な対話活動

「４つの対話（「作品との対話」「教師との対話」「自分自身との対話」「友達との対話」）を意図的に単元の中に展開していく際に、対話の目的や対話活動における視点を教師側から提示したり教師と児童で考えたりする。目的や視点を明確にすることで、振り返ったときに、児童自身が対話活動後の成果が分かるようにしていく。

（２）学習形態の工夫

教師が意図的にグループ編成や学習形態を設定する。習熟度を考慮し、学び合いができるように同じペア、トリオで意図的にグループ編成をし、単元を通して学習していくようにする。また、クラス全体での考えの共有においては、タブレットのスクールタクトを有効活用する。

（３）考える視点の提示

「仕事の訳と工夫」から「筆者の心情」を読み取るために言葉や文章に着目させて、深く読み取ることができるようにする。教師がオンライン動物園で学習したキリンについての文章から「筆者の心情」を読み取るために飼育員さんの仕事のくふうから、自分の体験と結び付けたモデリングを示すことで、自分の体験と結び付けた感想がもてるようにする。

○　語彙を豊かにするための工夫

日常活動では、より多くの語彙を獲得するために、ぐんぐんタイムで、「しりとり」や「言葉相撲」に継続的に取り組んでいる。新たに学習した語彙を掲示し、日常的に目にふれるようにすることで語彙を増やすことにつなげる。家庭学習では、学習した教材の中に出てきた表現を使って日記を書くという課題を日常的に出すことにより、授業で獲得した表現方法や語彙の定着を図る。

5　単元計画と評価計画（全１１時間）

時	目標	学習内容	◆評価規準　・留意点　☆支援
1	単元のめあてや学習計画を知り、初発の感想を書くことができる。	1　本時のめあての確認をする。 どうぶつ園のじゅういのかんそうを書こう。 2　単元課題「かんそうこうりゅう会をしよう」についての学習計画を知る。 3　交流会の感想カードの例を確認する。 4　範読を聞き、初発の感想を書く。 5　感想を子ども同士で交流する 6　振り返りをする。	◆イ－② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】 ・　事前にオンライン動物園の授業を行っているのでその経験と結び付けられるようする。
2	時間を表す言葉に気をつけて読み、内容の大体を読み取ることができる。	1　前時の振り返りをする。 2　前回の範読から自分が印象に残ったところを確認する。 3　本時のめあての確認をする。 みんなのかんそうをせいりするにはどうしたらいいか考えよう 4　時間を表す言葉を確認する。 5　時間の流れになるように感想を並び変えて、時間的な順序で説明されていることを確認する。 6　振り返りをする。	◆イ－① 「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。【発言・ワークシート】 ・時間や動物をバラバラに掲示する。 ・児童の感想をスクールタクトに貼り付けてスクールタクト上で時間の流れを確認する。 ・デジタル教科書を使って、時間を表す言葉に印を付ける。
3	朝の獣医の仕事について読み取ることができる。	1　前時の振り返りをする。 2　本時のめあての確認をする。 じゅういさんの朝のしごとを読みとろう。 3　言葉や叙述をもとに訳と工夫を見つけ、デジタル教科書に色分けをして線を引く。 4　「朝」の仕事をワークシートにまとめる。	◆ア－① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【発言・ワークシート】 ・工夫についてなぜ、その工夫につながるのか考えさせる。

		5　筆者の仕事に対して感じたことや感じたわけを表に記入する。 6　全体で感想を交流する。 7　振り返りをする。	☆　筆者の仕事に対して感じたことをどのように表現したらいいか、まず担任がモデルを示す。 イ－② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】
4	見回りが終わるころの獣医の仕事について読み取ることができる。	1　前時の振り返りをする。 2　本時のめあての確認をする。 じゅういさんの見回りがおわるころのしごとを読みとろう。 3　言葉や叙述をもとに訳と工夫を見つけ、デジタル教科書に色分けをして線を引く。 4　グループで交流して、訳と工夫を確認する。 5　「見回りが終わるころ」の仕事をワークシートにまとめる。 6　筆者の仕事のくふうに対して感じたことや感じたわけをワークシートに記入する。 7　全体で感想を交流する。 8　振り返りをする。	◆ア－① 共通、相違、事柄 の順序など情報と情報との関係について理解している。 【発言・ワークシート】 ・工夫についてなぜ、その工夫につながるのか考えさせる。 イ－② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】
5	お昼前の獣医の仕事について読み取ることができる。	1　前時の振り返りをする。 2　本時のめあての確認をする。 じゅういさんのお昼前のしごとを読みとろう。 3　言葉や叙述をもとに訳と工夫を見つけ、デジタル教科書に色分けをして線を引く。 4　グループで交流して訳と工夫を確認する 5　「お昼前」の仕事をワークシートにまとめる。 6　筆者の仕事の工夫に対して感じたことや感じたわけをワークシートに記入する。 7　全体で感想を交流する。 8　振り返りをする。	◆ア-① 共通、相違、事柄 の順序など情報と情報との関係について理解している。 【発言・ワークシート】 ・工夫についてなぜ、その工夫につながるのか考えさせる。 イ－② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】
6	お昼すぎの獣医の仕事について読み取ることができる。	1　前時の振り返りをする。 2　本時のめあて確認をする。 じゅういさんのお昼過ぎのしごとを読みとろう。 3　言葉や叙述をもとに訳と工夫を見つけ、デジ	◆ア-① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【発言・ワークシート】

		タル教科書に色分けをして線を引く。 4　「お昼すぎ」の仕事をワークシートにまとめる。 5　筆者の仕事の工夫に対して感じたことや感じたわけをワークシートに記入する。 6　グループ（3人）で、思ったことについて交流する。 7　全体で感想を交流する。 8　振り返りをする。	・工夫についてなぜ、その工夫につながるのか考えさせる。 ・グループの話し合いの前に話す・聞くの掲示物を読んで交流の仕方の確認をする。 イ－② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】
7	夕方の獣医の仕事について読み取ることができる。	1　前時の振り返りをする。 2　本時のめあて確認をする。 じゅういさんの夕方のしごとを読みとろう。 3　言葉や叙述をもとに訳と工夫を見つけ、デジタル教科書に色分けをして線を引く。 4　「夕方」の仕事をワークシートにまとめる。 5　筆者の仕事の工夫に対して感じたことや感じたわけをワークシートに記入する。 6　グループで、思ったことについてワークシートを読み合い、感想シールを貼る（3択：同じ意見・質問がある・なるほど）。 7　全体で感想を交流する。 8　振り返りをする。	◆ア-① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【発言・ワークシート】 ・工夫についてなぜ、その工夫につながるのか考えさせる。 ・グループでの交流の時には、質問がある場合は、言葉での交流も可 イ－② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】
8	一日のしごとの終わりと動物園を出る前の獣医の仕事について読み取ることができる。	1　前時の振り返りをする。 2　本時のめあて確認をする。 じゅういさんの一日のしごとのおわりとどうぶつ園を出る前のしごとを読みとろう。 3　言葉や叙述をもとに訳と工夫を見つけ、デジタル教科書に色分けをして線を引く。 4　「一日のしごとのおわり」と「どうぶつ園を出る前」の仕事をワークシートにまとめる。 5　筆者の仕事の工夫に対して感じたことや感じたわけをワークシートに記入する。 6　グループ（3人）で、思ったことについて読み合い一言コメントをつける。 7　全体で感想を交流する。 8　振り返りをする。	◆ア-① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【発言・ワークシート】 ・工夫についてなぜ、その工夫につながるのか考えさせる。 ・スクールタクトを使ってコメントさせる。 イ－② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】

9	自分が一番友達に伝えたい感想を選び、「かんそうカード」に感想を書く。	1　前時の振り返りをする。 2　本時のめあて確認をする。 「かんそうカード」にかんそうを書こう。 3　「かんそうカード」に書くことをワークシートから選ぶ。 4　教員がたんぽぽのちえを題材にして、感想の書き方を提示する。 5　感じたことや感じたわけ」「筆者の仕事の様子」「考えたことや気付いたこと」を「かんそうカード」に書く。 6　振り返り	
10（本時）	クラスで交流することができる。	1　前時の振り返りをする。 2　本時のめあて確認をする。 かんそうこうりゅう会をしよう。 3　感想交流会をする。 4　感想交流会の振り返りを書く。 5　全体で交流の感想を発表する。	◆イ－② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験を結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】 イ－③ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。【発言・記述】
11	感想交流会に向けて「かんそうカード」に自分の経験を結び付けた感想を推敲することができる。	1　前時の振り返りをする。 2　本時のめあて確認をする。 よりよいかんそうカードを作ろう。 3　①仕事のくふうついて思ったこと②筆者について思ったこと③自分のことと比べて書いてあるかを確認する。 4　「かんそう」カードを書き直す。 5　振り返りをする。	◆イ－② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験を結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】
12	感想交流会を学年で行い、感じたことを共有することができる。	1　前時の振り返りをする。 2　本時のめあて確認をする。 友だちがかんじたことを知ろう。 3　学年全体で「かんそうカード」を使って交流する。 4　振り返りをする。	◆ウ－① 進んで文章と経験とを結び付けて感想をもち、考えたことを共有しようとしている。【発言・記述】 イ－③ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。【発言・記述】

6　本時の展開（１０/１２）

（１）ねらい

・学級で交流し、自分の考えたことや気付いたことを振り返ることができる。

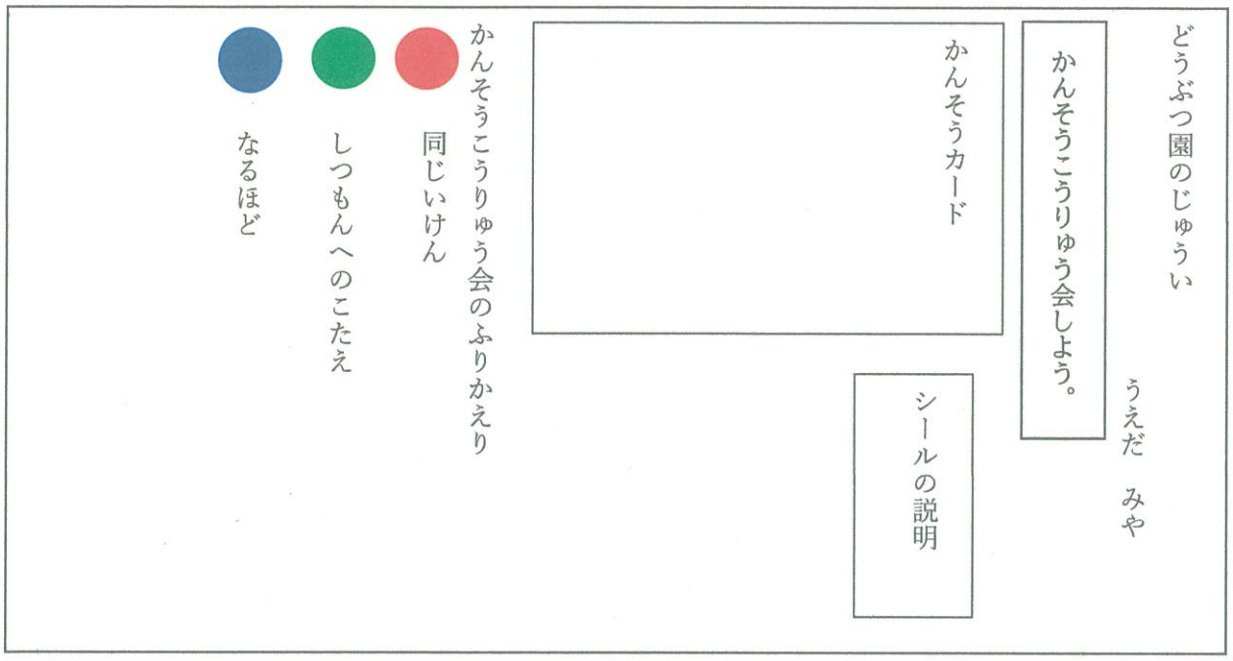
（２）本時の展開

時間	学習内容 T 教師の発問 C 予想される児童の反応	・指導事項 ◎豊かな表現を見取る視点	◆評価規準 ☆支援 ・指導上の留意点
導入	1　前時の振り返りをする。 2　本時のめあてを確認する。 かんそうこうりゅう会をしよう。		・前時で作った表を基に本時の学習の自分のやるべきことを想起させる。
展開	3　感想交流会をする。 T　グループで、「かんそうカード」を読み合い、感想シールを貼ったり、コメントを書いたりしましょう。 4　感想交流会の振り返りを書く。	・　グループの人の意見を読んで自分の意見と比べたり共有したりすること。 ◎かんそうカードのコメントに、自分が着目した言葉とともにコメントが書けているか。	◆イ-② 「読むこと」において、文章の内容と自分の経験を結び付けて、感想をもっている。【発言・記述】 ◆イ－③ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。【発言・記述】 ☆　「かんそうカード」にシールを使って表現させることで、文字を書くことに抵抗のある児童にも意思表示しやすくする。 ・赤が「同じ意見」、緑が「質問がある」、青が「なるほど」のシールを用意する。 ・コメントも書けるようにする。 ☆　C 児には、机間指導で、そのシールを選んだ理由を考えさせる。
まとめ	5　全体で交流の感想を発表する。 T　感想を読んで考えたことや気付いたことを発表しましょう。 C　みんなが僕と同じ意見で嬉しかった。 C　こういう考え方もあるんだなと思って、びっくりした。		・　視点 「考えたこと」や「気付いたこと」

（３）授業観察の視点

・　感想の交流会が子どもたちの新しい気付きが生まれる場になっていたか。

7　板書計画



8　本時の振り返り

（1）本時の概要

本時は、第９時間目までに読み取ったことについて書いてきたものから一番心に残っているものをクラスで紹介しあった。友達の感想文を読んでそれについて、シールを貼って感想を示した。

さらにかける児童は一言コメントとして、「～というところが一緒だった」などと、どの部分に共感したかのコメントを書いた。その後、全体で感想交流会についての振り返りを行い、それについての発表を行った。２４人中２３人がコメントまで書くことができた。さらに２４人中２０人までがどの部分に共感したのかを記述することができていた。

（2）実践の振り返り

・児童が感じたことを書き表す意識の高まり

本時を迎えるまでに、児童は叙述から筆者の仕事の工夫や筆者の人柄を読み取ったり、筆者と自分の体験とを比べたりした感想を「感じたことと感じたわけ」として記述する学習を行ってきた。毎回、教員からエピソードを紹介して、筆者の人柄の理解や自分の体験と比べることを促すことで、児童に叙述を読み取る力と感じたことを書いて表す力を身に付けさせた。

本時では、感想交流会で、友達の感想文を読み、その感想についてコメントを書かせた。ただ、「よかったよ」などと書くだけではなく、自分がどこに着目してそのことについてどう感じたのかを書かせた。先にシールで自分の気持ちを表したことで、手が止まっている児童には「どうして、～と思ったのかそのわけになる部分を書きましょう」と促すことで、特に支援が必要な児童以外の児童全員が自分の考えをコメントとして書くことができた。感想交流会の振り返りについても書かせたが、時間が十分に取れなかったので、時間配分をもっとしっかりと計画して設定しておくべきだった。

（3） 協議内容

【成果】

・シールを貼ることで書くことが苦手な児童も意思表示できた。
・自分の経験と比べて感想を書くことができた。
・感想をしっかり書くことができていた。
・シールがもらえてうれしい、共感してもらえてうれしいと児童が感じることができる。
・シールやコメントが次の時間の「よりよい感想を書く」ことにつながる。
・シールでの意思表示は表現の第一歩となった。
・前時までに感想を書くために読み取りをしっかりとしていた。
・感想をしっかり書くことができていた。

【改善点】

・授業の初めに本時は何のためのどんな時間なのか確認があるとよかった。
・ワークシートとノートの併用は大変なのではないか。今回はワークシートだけでよかった。
・時間的にグループは４人がよかったのではないか。
・一人分を読む時間が長いように感じた。個人差もあるがもう少し多くの感想を読ませたかった。
・振り返りをすることがねらいだったので、振り返りの時間をもっととることができるとよかった。
・振り返りの場面で、何を書くのか混同した様子だった、指示が明確だとよい。今回は単純に感想を書かせればよかったのではないか。

（4） 指導講評

・児童一人ひとりが感想文をしっかり書けていて、しかも全員が個性的な文を書いているところがすごい。モデル文を書くと大体同じことを書く子どもがいるのに、自分の書きたいことをきちんと選んで書くことができている。児童一人ひとりがしっかりと文章を読み取ることができているということである。２年生では、内容の大体を読むことが目標だが、どんな工夫をしているか、中身を読む（精査解釈）、自分の体験と比べて読む、これがよくできている。１年生のときからの積み重ねがよくできている。２年生になってからもよくできている。

・日常的な指導「語彙を豊かにするための指導」ぐんぐんタイムでのしりとり、言葉ずもうなど日常的、継続的に行うことが大切であり、これで言葉の力がつく。

・「どうぶつ園のじゅうい」は時間的順序がはっきりとした文章でニホンザルやペンギン等の対象物の方へ焦点がいってしまう。しかし、何が出てくるかということ以上に大切なのは時間の順序である。ニホンザルについて読み取る、ではなく、「お昼前の～」など時間的順序に焦点を当てた単元計画になっていたのがよい。何に気を付けて、どんな力をつけたいのか、時間的順序に目を向けさせたいのであれば、それが分かるような指導を行う必要がある。日常指導、継続指導を大切にしてほしい。すぐに効果は出ないが続けてほしい。

・感想交流会はだれのためにするのか。子どもたちが自分たちのためにすること。子供たちが自分たちでやりたい、もっと詳しくしたいから、というモードが薄い。教師がどのような投げかけをするのかが大切である。「読んでもらって、書いてもらいます」先生が私のために、というにおいを出している。丁寧な言葉で語りかけるのはよいが、「書いておいてくれると」「やってもらいたい」ではだめである。「どうすればよい？」というような問いかけだと、次にこうしたいという子どもたちが自分のためにやりたいという気持ちが出てくる。主体的に取り組む子どもを育てるためには、最初から子どもたちに聞く。わからないときは「感想交流会というのもあるよ」と言い選択肢を与える。子どもの主体性をしっかり育ててあげる。

・交流の人数について。ほとんどの子供が２００字以上書いている。なかなか読むのは難しい。読む時間がどれくらいかかるかという見通しをしっかりともつ。指導案を作るときは子どもの実態から考えて作る。３、４人グループで回すのもよい。書き終わった人は書き終わった人同士で回すのもよい。シールの数が変わってしまうので、学級の実態でやり方を決めるとよい。

・子どもがしてきた活動は、感想を読んでコメントを書く。読んで理解して書く活動をしてきた。その活動をして振り返るのではなく、今日やったことを振り返る。自分がしたのは、友達の感想を読んでどうだったかを書くことである。今日なら振り返りで、交流のよさが出てくるとよい。

中学年　分科会（第３学年）

麻布小学校教育目標　元気な子　やさしい子　考える子

〈研究主題〉
「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」
～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～

中学年分科会として目指す児童像
「言葉に着目し、自分の思いや考えを伝え合う児童」

中学年児童の実態	中学年分科会　教師の願い
・段落相互の関係に着目し、筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉える力」は８割程度の児童が身に付けている。 ・一方で、筆者の考えやそれを支える理由や事例を捉えることが苦手な児童もいる。 ・文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつ力」については、単に「面白い」「すごい」等だけではなく、根拠を基に感想や考えをもつことができる児童は３割程度である。	・自分の考えを人に説明したり伝えようとしたりすることに、苦手意識をもたずに取り組めるようにしたい。 ・学習したことが日常生活に活用できる経験を積ませる事を通して学ぶことの楽しさを味わうことで、意欲的に学習に取り組む児童を育てたい。 ・既習事項を活用し、児童が「分からないこと」を解決できるようにしたい。

主体的に学び合う姿	豊かに表現する姿
・読み取ったことを元に、自分の考えを他者に進んで伝えようとしようとする。	・具体的に根拠を示しながら、自分の考えを伝えることができる。

手立て1
段落の役割を視覚的に捉える手立て

文章全体の構成を見て分かりやすくするために図にまとめる。形式段落だけでなく、「はじめ」「中」「おわり」の大きなまとまりに分け、「問い」と「答え」があることで、文章全体に対しての役割を押さえる。本単元では、「説明文の家」と名付けた図を使い、「まとまり」を意識できるようにする。

手立て2
振り返りの充実（自分自身との対話）

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として「分かったこと」「分からなかったこと」「次の時間に考えたいこと」の3つを挙げ、自分の学習を振り返る機会を設け、学習の積み重ねを実感できるようにする。

手立て3
ICT 機器の活用

友達と考えの交流を行う際に、「スクールタクト」を用いる。自分の考えと比べてどうかという着眼点の違い等を自分の手元で可視化する。また、「デジタル教科書」の機能を用い、サイドラインを引く、色別の枠で段落を囲む等の活動の際に、考えの変化や付け足しなどを効率的に行い、より深い学びにつなげる。

手立て4
語彙を豊かにする日常活動

「言葉のたから箱」の言葉を用いた文章作りや辞書での意味調べを、日常的に行っていく。言葉の意味や使い方に着目し、自分の考えを表現するのにふさわしい言葉を選ぶことができるようにする。

カリキュラム・マネジメントの視点

〈総合的な学習の時間との関連〉
・本単元学習後、おすすめするこまについてまとめ、本校の日本語学級の児童に紹介する。

〈特別活動との関連〉
・朝の会や出張スピーチ、モジュール学習等を活用して、学習内容を生かせるようにする。

〈地域との連携〉
・発表会を企画し、自分の考えを伝えることの喜びを味わわせるようにする。

※朝学習やモジュール学習などに、継続的に「言葉調べ」を行ったり、それらの言葉を用いて「スピーチ活動」を行ったりしていく。

第３学年　国語科学習指導案

日　時　令和３年７月１６日（金）
対　象　第３学年１組　２７名
授業者　向井　江美

研究主題
主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成
～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～

中学年分科会の目指す児童
「言葉に着目し、自分の思いや考えを伝え合う児童」

１　単元名　「段落とその中心をとらえて読み、おすすめのこまをつたえよう」
　教材名　「言葉で遊ぼう」（光村３年上巻）　小野　恭靖
　　「こまを楽しむ」（光村３年上巻）　安藤　正樹

２　単元の目標と評価規準
（１）単元の目標
・段落の役割について理解することができる。【知(1) ―カ】
・全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。【知(2) ―ア】
・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。【思Ｃ(1) ―ア】
・目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。【思Ｃ(1) ―ウ】
・言葉がもつよさに気付くとともに、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとすることができる。【主】

（２）単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　段落の役割について理解している。【知(1) ―カ】 ②　全体と中心など情報と情報との関係について理解している。【知(2) ―ア】	①　「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。【思Ｃ(1) ―ア】 ②　「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。【思Ｃ(1) ―ウ】	①　進んで文章を読み、文章構成を捉え、既習事項を生かしながら、思いや考えをまとめている

3　本単元について

（1）単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成２９年告示）国語編第３学年及び第４学年に記載されている次のことを扱っている。【学習指導要領から抜粋】

[知識及び技能] （1）カ　主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 （2）ア　考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 [思考力、判断力、表現力等]　C　読むこと （1）ア　段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 　　ウ　目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。

本単元で児童に身に付けさせたい力は、以下の２つである。

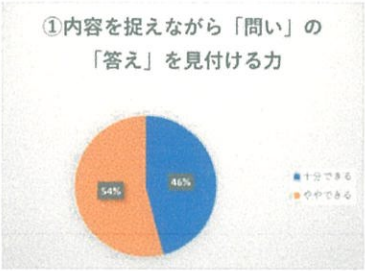
①段落の役割について理解し、文章構成を捉える力

②文章や話の内容の全体に対する中心を見付ける力

上記を身に付けるために、本単元は、「段落とその中心をとらえて読み、おすすめのこまを伝えよう」という学習課題を立てた。説明的な文章の学習として、これまでに、順序を追って読む力や、大事な語や文に気を付けて読む学習を行ってきている。本単元で「段落」の意味やはたらきについて学び、意味段落につながる「文章のまとまり」を意識して内容を捉える力を培い、今後の説明的な文章の学習の基礎となる内容を押さえていく。また、「問い」と「答え」を手がかりに、全体に対する中心、すなわち大切なことは何か考え捉えることができるようにさせたい。

学習したことと日常生活を関連させるため、「おすすめするこま」を、本校の日本語学級に通級する児童に紹介するという夏休みの家庭学習につなげる。学んだことを生かし、目的を意識して中心となる情報を見付け、表現できるよう指導していく。おすすめのこまを選ぶ際に、なぜそのこまを選んだかという理由も考えさせることで、各こまの楽しみ方という大切な点を落とさずに読み取り表現できるようにさせたい。文章中で紹介されたこま以外にも、つくりが工夫されたこまや、これまでの生活経験で触れてきたこま、言葉遊び、伝統遊び等にも、紹介する対象を広げてよいことにする。

（2）児童観



第２学年で学習した「おにごっこ」での既習事項が確かめられるよう、段落内の構成をそろえた「やどおに」について書かれた文章をもとにレディネステストを行った。ほぼ全ての児童が、「やどおに」を紹介した文章であることは理解できていた。「どのような鬼ごっこか」という「問い」の「答え」を見付ける設問では、サイドラインを引いて、「答え」を探していた児童の姿も見られた。誤答をした児童がいなかったことからも、「答え」の読み取りはよく出来ていること

がわかる。だが、「おにに見つからないように」という叙述の一部が抜けている児童が多かった。文章内容の十分な把握ができていないことが考えられる。

また、「はじめ」「中」「おわり」という文章全体の組み立ての中で、中心はどこかという設問については、「問い」の「答え」が、重要な語・文となる中心であるという捉え方ができている児童は６割程度であった。本単元では、「全体」と「中心」という学習用語を指導し、「文章全体の中心」と「段落内の中心」の理解につながるよう「図にまとめること」で、捉え方を指導していく。

（３）教材観

本教材は、「言葉で遊ぼう」と「こまを楽しむ」の２つの教材文から成り立つ。どちらの教材文も、段落の一文目に、「問い」の「答え」がある構成になっており、自然と段落を意識できるよさがある。練習教材である「言葉で遊ぼう」は、本単元の中心的な指導内容である「段落」「文章構成」「中心」などについて、非常に分かりやすくシンプルにまとめられた教材文である。「こまを楽しむ」の文章構成は、「言葉で遊ぼう」とほぼ同様のものであるが、「中」での事例の数が増え、文章量が多くなっている。また、「こまを楽しむ」では、「中」の事例が、「回る様子を楽しむこま」と「回し方を楽しむこま」とに大きく二つに分けられている点にも着目させたい。「終わり」での「全体のまとめ」の叙述が、事例の順序と対応していることも、筆者の説明の工夫があることを意識付けることができ、「すがたをかえる大豆」の事例の順序性へとつなげることができる教材文となっている。

段落の役割が明確であり、事例を扱う段落内の文章構成からも「中心」を捉えやすい本教材は、単元の目標に適したものであると考える。

（４）学習材の分析

＜言葉で遊ぼう＞

構成	初め	中			終わり
形式段落	①	②	③	④	⑤
段落の役割	「問い」（話題提示）	「問い」の答え（事例1）	「問い」の答え（事例2）	「問い」の答え（事例3）	全体のまとめ（筆者の思い）
		言葉遊びの名前・具体例・楽しさ			
段落の内容	言葉遊びには、ほかにどのようなものがあるのでしょうか。 どのような楽しさがあるのでしょうか。	しゃれ にた音や同じ音の言葉を使って文を作る。 「ふとんがふっとんだ。」「イクラはいくらだ。」 言葉のもつ音と意味とを組み合わせるという楽しさ。	回文 上から読んでも下から読んでも同じになる言葉や文。 「きつつき」「しんぶんし」「わたしたわしわたしたわ。」 回文になっている言葉や文を見つけたり、自分で作ったりする楽しさ。	アナグラム 言葉を作っている文字の順番をならべかえて、べつの言葉を作る。 「とけい・けいと」「くつみがき・実がつく木」 元の言葉とは全くちがう意味の言葉を作る楽しさ。	このように、言葉遊びにはいろいろあり、それぞれに楽しさがあります。言葉遊びをするのには、とくべつなどうぐや、広い場所はいりません。ふだん使っている言葉だけで、楽しい時間をすごすことができるのです。人々は、昔から言葉遊びを通して、言葉のおもしろさにふれてきました。あなたも、言葉遊びを楽しんでみましょう。
着目させたい言葉、文	遊んだことがありますか。（問いかけ） ～でしょうか。 古くから多くの人に～	しゃれには、言葉のもつ音と～楽しさがあるのです。	回文になっている言葉や～楽しさがあります。	アナグラムには、元の言葉とは～言葉を作る楽しさがあるのです。	このように 人々は、昔から言葉遊びを通して～（①と対応）

<こまを楽しむ>

	初め	中						終わり
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
段落の役割	「問い」（話題提示）	「問い」の答え（事例1）	「問い」の答え（事例2）	「問い」の答え（事例3）	「問い」の答え（事例4）	「問い」の答え（事例5）	「問い」の答え（事例6）	全体のまとめ（筆者の思い）
		回る様子			回し方			
	こまの名前・楽しみ方（回り方/回し方）・つくり・捕捉説明							
段落の内容	問い① どんなこまがあるのでしょう。 問い② どんな楽しみ方ができるのでしょう。	①色がわりごま…②回っているときの色を楽しむこま 同じこまでも、回すはやさによって、見える色がかわってくる。	①鳴りごま…②回っているときの音を楽しむこま その音からうなりごまともよばれている。	①さか立ちごま…②とちゅうから回り方がかわり、その動きを楽しむこま 回っていくうちに、だんだんかたむいて、さいごは、さかさまにおきあがって回る。	①たたきごま…②たたいて回しつづけることを楽しむこま 上手にたたいて力をつたえることで、長く回す。	①曲ごま…②曲芸で使われ、おどろくような所で回して、見る人を楽しませる。 台の上で手を使って回し、そこから細い糸の上や、ぼうの先のような回しにくい所へうつしかえて回しつづける。	①ずぐり…②雪の上で回して楽しむこま 心ぼうの先が太く、丸く作られている。まず、雪に小さなくぼみを作り、わらでできたなわを使って、その中に投げ入れて回す。	このように、日本には、さまざまなしゅるいのこまがあります。それぞれ色も形もちがいますが、じくを中心にバランスをとりながら回るというつくりは同じです。人々は、このつくりにくふうをくわえ、回る様子や回し方でさまざまな楽しみ方のできるこまをたくさん生み出してきたのです。
着目させたい言葉、文	さまざまなくふう ～あるのでしょう。 ～できるのでしょう。	表面 とくちょう	どう　くうどう	その動きを…とちゅうから回り方がかわる動きを 心ぼう　かたむく	回しつづけること 止まらないように、～長く回して楽しみます。	曲芸 安定したつくり 台の上で手を使って回し、～回しつづけます。	くぼみ 雪がふってもこまを回したいという人々の思いから、↓つくりにくふう	さまざまなしゅるいのこまじくを中心に～つくり↓このつくりにくふうをくわえ、回る様子や回し方さまざまな楽しみ方のできるこまを生み出してきた

＿＿＿…「回る様子」「回し方」を読み取る叙述　／　＿＿＿…他の段落とつながりがある叙述（筆者が強調したいこと→考え・主張）

4　研究主題に迫るための手立て

○　他教科との関連を踏まえたゴールの設定

自分のおすすめするこまと、その理由をまとめるという学習活動を夏休みの課題として設定し、学んだことを生かせるようにした。おすすめするこまについてまとめるには、他のこまにはない楽しみ方についての確かな理解が不可欠である。主体的に、大切なことを落とさず読み取り表現する必然性をもたせるため、「段落とその中心をとらえて読み、おすすめのこまを伝えよう」という学習課題の設定をした。伝える相手は、本校の日本語学級の児童とし、国語科の学習で学んだことを、総合的な学習の時間と関連する学習へと広げる「学びの活用段階」へとつなげる。教材文以外のこまや、日本語学級の児童に伝えたい言葉遊び、伝統遊びへと範囲を広げてもよいこととし、主体的に学習に取り組む下地を作っていく。

○　段落の役割を視覚的に捉える手立て

文章全体の構成を見て分かりやすくするために図にまとめる。形式段落の番号だけでなく、「はじめ」「中」「おわり」の大きなまとまりに分けたり、「問い」と「答え」があることで、それらの段落が文章全体に対してどのような役割があるかを押さえたりして、図に書き込む。説明的な文章を読む際に、文章全体の構成を分かりやすくするための方法であることを実感させる。本単元では、「説明文の家」と名付けた図を使い、「大きな部屋」「中くらいの部屋」「小さな部屋」ごとに「まとまり」を意識できるようにする。全体で確認しながら表を完成させていき、次の説明的な文章の単元「すがたをかえる大豆」では、自力で段落の役割を考えられるようにしていく。

○　ICT機器の活用

友達と考えの交流を行う際に、「スクールタクト」を用いる。自分の考えと比べてどうかという着眼点の違い等を自分の手元で可視化することができるよさを活かしていく。また、「デジタル教科書」の機能を用い、教材文にサイドラインを引く、色別の枠で段落を囲む等の活動の際に、考えの変化や付け足しなどを効率的に行い、より深い学びにつなげるツールとして使いこなせるようにしていく。

○　振り返りの充実

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として、「分かったこと」「できるようになったこと」「次にがんばりたいこと」の３つを挙げ、感想だけでなく、自分の学習について振り返ることができるようにする。コメント等での価値付けや助言を行うことで、自分の学びを具体的に振り返ることができるようにする。また、児童の振り返りを全体の前で取り上げることで、学習の積み重ねを実感できるようにする。

○　語彙を豊かにする日常活動

「言葉のたから箱」の言葉を用いた文章作りや辞書での意味調べを、家庭学習やモジュール学習の時間を使って日常的に行っていく。言葉の意味や使い方に着目しながら、自分の考えを表現するのにふさわしい言葉を選ぶことができるようにする。

5　単元計画と評価計画（全６時間）

次	時	目標	学習内容	◆評価規準【評価方法】 ・留意点☆支援
1	1	学習課題を設定して学習の見通しをもつとともに、段落の意味を理解することができる。	1　言葉遊びやこまについて、知っていることを発表する。 2　学習課題を設定し、既習事項の確かめをして、学習の見通しをもつ。 段落とその中心をとらえて読み、おすすめのこまをつたえよう。 学習の計画をたしかめよう。 3　「言葉で遊ぼう」を通読する。 4　「段落」の意味を押さえ、一つの段落には、ひとまとまりの内容が書かれていることを確かめる。 5　本時の振り返りをする。	・用意したこまを紹介し、遊び方を確かめる。（学活・モジュール） ・紹介されている以外の言葉遊びの例を出し合い、学習への意欲を高める。→自主学習・家庭学習につなげる。
	2	「問い」と「答え」の関係や、「初め」「中」「終わり」の構成を捉えて、文章の内容を理解し、読んだ感想を伝え合うことができる。	1　本時の目標を確認する。 まとまりに気をつけて、「言葉で遊ぼう」を読もう。 2　第１段落と第２段落を読み、「問い」と「答え」の関係を捉え、第３段落・第４段落から「答え」を見付けてラインを引く。 3　第５段落を読み、その役割について話し合う。 4　「初め」「中」「終わり」の文章構成を確認する。 5　「言葉で遊ぼう」を読んだ感想を友達と伝え合う。 6　本時の振り返りをする。	・学習用語「段落」「問い」を押さえる。 ・ラインを引く際は「デジタル教科書」を用いる。 イ―② 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。 （C(1) ―ウ） 【ノート・「スクールタクト」の記述、発言の分析】 ・「問い」と「答え」、「初め」「中」「終わり」に着目して、内容を捉えている。

2	3	「問い」と「答え」、「全体のまとめ」に着目して、「初め」「中」「終わり」のまとまりを捉えることができる。	1　本時の目標を確認する。 「こまを楽しむ」の文章全体の組み立てを考えよう。 2　「こまを楽しむ」を通読する。 3　「問い」と「答え」を見付け、本文にラインを引く。 →「問い①」「問い②」でラインの色を変え、それぞれの「答え」も色を合わせる。 4　段落を「初め」「中」「終わり」に分ける。 「初め」……「問い」 「中」……「問い」の答え 「終わり」…全体のまとめ 5　本時の振り返りをする。	・段落をまとまりとしてより意識させるため、本文は段落ごとに分割して確認する。 イー① 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)－ア) 【ノート・「スクールタクト」の記述・発言の分析】 ・「初め」「中」「終わり」の文章構成を理解しているか】
	4	「問い」に対する「答え」を見付け、段落の中心となる言葉や文を確かめて、文章構成を捉える。	1　本時の目標を確かめる。 「中」をくわしく読んで、「問い」の「答え」を見つけよう。 2　「問い」の「答え」を探しながら、「中」の段落を読む。 ・第２段落は全員で「答え」を確かめ、本文にラインを引き、図にまとめるという方法を理解する。 ・文章全体の「中心」とは、「問い」の「答え」＝「中」であることを押さえる。 3　各段落の２文目以降の段落内構成について考え、違う色のラインを引く。 「中」の段落内構成 「答え」 ↓ 「こまのつくり」 ↓ 「回っている時の様子」「回し方の様子」「捕捉説明」 4　本時の振り返りをする。	・各段落の「答え」を図に整理していく。 イー① 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)－ア) 【ノート・「スクールタクト」の記述・発言の分析】 ・「問い」の「答え」が文章全体や段落の中心になっていることを理解している。

	5（本時）	「終わり」と、「初め」や「中」との段落相互の関係に着目して、文章全体の構成を整理して捉えることができる。	1　本時の目標を確認する。 「おわり」と「はじめ」や「中」とのかんけいを考えて、まとめよう。 2　「終わり」第８段落の３文を読み、「初め」や「中」の語・文と対応している箇所を探す。 3　「終わり」で使われている言葉に着目して、「中」の段落同士の関係について考える。 ・6個のこまを楽しみ方によって、2つのグループに分類し、段落の関係を押さえる。 4　文章全体の構成、段落の役割を表に書いて共有する。 5　本時の振り返りをする。	・「中」の段落の順序に筆者の意図があることを押さえる。 ア－① 段落の役割について理解している。 （(1) －カ） 【ノート・「スクールタクト」の記述・発言の分析】 ・「終わり」と「初め」「中」と対応している言葉に着目し、段落相互の関係を理解している。
	6	自分が一番おすすめするこまを選び、選んだ理由とともにまとめることができる。	1　本時の目標を確認する。 学びを生かして、おすすめするこまを理由とともに選ぼう。 2　自分が一番楽しそうと思うこまを選び、その理由とともにワークシートにまとめる。 ・楽しみ方を確かめる。 ・本文にないこまを選んだ場合、「答え」にあたる「中心」となる文を考える。 3　「たいせつ」を読み、「段落とその中心をとらえる」ことについて確認する。 ・「問い」と「答え」を見つけることで、文章全体や段落の中心が分かることを押さえる。 4　「全体と中心」を読み、文章や話の全体に対する中心を捉える。 5　学習の振り返りをする。	☆本文にないこまは、楽しみ方のヒントとなるモデル文を用意する。 ウ－① 進んで文章を読み、文章構成を捉え、既習事項を生かしながら、思いや考えをまとめている。
夏休み自主学習	・「おすすめのこま」について、既習事項を生かして文章にまとめる。 ・こまに限らず、日本語学級の児童におすすめしたい言葉遊び、伝統遊びについて調べてまとめてもよいとする。			

6　本時の展開（5／6）

（1）ねらい

段落相互の関係に着目して、文章全体の構成を整理して捉えることができる。

（2）本時の展開

時間	学習内容 T 教師の発問 C 予想される児童の反応	・指導事項 ◎豊かな表現を見取る視点	◆評価規準 ☆支援 ・指導上の留意点
導入	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 「おわり」と「はじめ」や「中」とのかんけいを考えて、まとめよう。		・「中」の段落内構成の確認をする。
展開	3　「終わり」を読み、全体をまとめていると思う言葉・文を考え、発表する。 T　全体をまとめていると思う言葉や文はどこか、考えてみましょう。 C　「このように」という言葉は、「中」を指していて、まとめになっている。 C　「初め」にあった「さまざま、くふう」という言葉がある。 4　段落ごとのこまの楽しみ方について考え、話し合う。 T　それぞれのこまは、「回る様子」で楽しむこま、「回し方」で楽しむこまのどちらか考えましょう。 C　「回っているときの」とあるので「回る様子」。 C　「回しつづける」という文で「回し方」を楽しむと分かります。 5　全体で共有し、文章全体の構成、段落の役割を表にまとめる。	・段落相互の関係に着目して、叙述を基に捉える。 ◎自分の考えを、根拠となる理由とともに伝えようとしている。	・まとめ→読んで分かったこと ・「初め」「中」と対応している表現を押さえる。 ・6つのこまを「回る様子や回し方でさまざまな楽しみ方のできるこま」とまとめていることを押さえる。 ・段落ごとに分割した本文を用意して、並べ替えを行い、どうして違う並び方ではないのかを考えさせる。（ラインの色） ・話し合いはペア→全体共有の順で行う。 ・「説明文の家」と名付けた図（文章構成図）を用いて情報の整理をして、段落相互の関係や役割の理解につなげる。 ア－① 段落の役割について理解している。 （(1) －カ） 【ノート・「スクールタクト」の記述、発言の分析】 ・叙述に着目して「終わり」と「初め」「中」が対応していると気付いている。
まとめ	6　本時の振り返りをする。		・視点 「分かったこと」「できるようになったこと」「次にがんばること」

（3）授業観察の視点

・図にまとめるという活動が、文章全体や段落の中心を捉えることに対して有効な手立てとなっていたか。

・「デジタル教科書」の活用は、段落相互の関係を捉えることに有効だったか。

7　板書計画

こまを楽しむ　　安藤　正樹

「おわり」と「はじめ」や「中」とのかんけいを考えて、まとめよう。

○「終わり」のまとめている言葉、文
・このように
・さまざまなしゅるいのこま
・さまざま　・くふう　↓「初め」にもある
・回る様子や回し方でさまざまな楽しみ方

○それぞれのこまは、どちらの楽しみ方か考えよう。
どの言葉、文でそう考えたか。

色がわりごま　写真　回っているときの
たたきごま　写真　回しつづけること

鳴りごま　写真　回っているときの
曲ごま　写真　台の上で手を使って回し～～回しつづけます。

さか立ちごま　写真　その動きを↓とちゅうから回り方がかわる
ずぐり　写真　雪がふってもこまを回したいという人々の思いから、

○「せつ明文の家」の図にまとめよう。
・段落のやくわりを考えると、大切なこと…「中心」＝「中」が分かりやすい。
・「はじめ」「中」「おわり」のかんけいがよく分かる。

○ふり返り

8　本時の振り返り

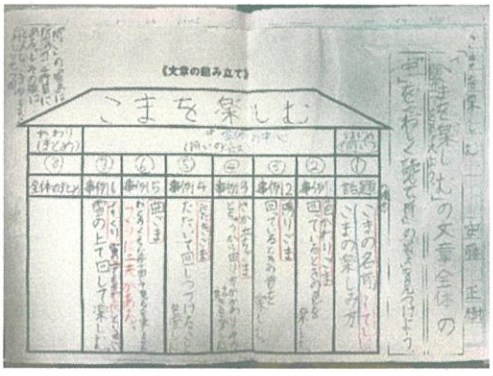
（1）　本時の概要

本時は、「初め」「中」「終わり」の文章構成の中の「終わり」について読み取り、「初め」「中」との関連を考え、文章構成表にまとめる授業として考えた。前時までの学習を活かし、中心となる重要な文を考えサイドラインを引いた。「初め」「中」との関連という観点から、「中」で説明した６つのこまが、それぞれ「回る様子で楽しむこま」「回し方で楽しむこま」のどちらかを考え、全体で共有しながら表にまとめた。重要な文を選ぶことは、ほとんどの児童が出来ていたが、どちらの楽しみ方のこまかを考えるのに苦戦している児童が多かった。

（2）　実践の振り返り

①文章構成を視覚的に捉える図の活用

文章構成表につながる「説明文の家」の図を用いて、中心となる文や言葉を確かめることが出来た。単元構成の２次・３時間目から、この図を用い、「初め」「中」「終わり」の構成や「問い」「答え」にあたる文をまとめた。段落ごとに「大きな部屋」「中くらいの部屋」に注意しながらまとめていくことで、段落をまとまりとして意識できるようになった。「『問い』と『答え』が大切ならば、『終わり』はいらないのではないか」という投げかけに「それだと、玄関のない家になってしまうからあった方がいい」という声があり、発達段階的にも親しみやすく、進んで文章構成を考えようとすることに有効であった。



②「段落相互の関係」の文章構成の捉え方

本時では、文章構成の「終わり」にある文章が「初め」「中」にある文章を受けてのまとめとなっていることや、文章の並びが「中」の段落の並び順に関わっていることを考えさせ　　ようとしていた。特に、「中」の段落で「回る様子で楽しむこま」は最初の３つ、「回し方で楽しむこま」は後の３つという２つに分かれているということも、文章の書かれ方と対になっていることを気付かせたかった。

だが、デジタル教科書でラインを引き、図にまとめ、さ

らに考えるという活動が２回繰り返されるのは、内容的に多かったという反省が残った。段落相互の関係を読み取るために必
要なキーワードを押さえるという活動に重点を置くべきであった。

（３）　協議内容

【成果】

・デジタル教科書の活用では、色分けされた本文をスクロールして見られたり、ラインを引いたり消したりしやすかったことで、児童が躊躇なく活動に取り組むことができた。
・「説明文の家」が分かりやすかった。
・叙述に基づいた理解は殆どの児童ができていた。

【改善点】

・活動内容が、本時のめあてと合うよう、全体の構成をクラス全体で共有することで終わるとよかった。
・タブレットでできた色分けを説明文の家でしたらよかった。
・理解している児童中心に授業が進んでいた。全体が理解できているのかなと感じたが、意外と理解できているのかもしれない。
・ICT を含めた教材の選定、デジタル・アナログそれぞれの得意不得意を教員が把握してしていく。
・答え合わせのようになってしまった。
・時間短縮のため、前時までの活動を生かすとよかった。
・「終わり」と「中」の関係性を考えていたが「はじめ」と「おわり」の関係性はどうだったか。
・「説明文の家」に書かれた文に着目したらよかった。

（４）　指導講評

学習指導要領３年生と４年生の説明文には、「段落相互の関係に着目しながら考えとそれを支える事例などとの関係などについて叙述を基に捉えること」とある。文章全体の構成をとらえるのは高学年であり、３年のこの時期にどの程度つけさせるか考えるべきだった。実態調査の結果、かなりの児童が掴めている。だから高い目標設定になったのだろうが、ついてこられない児童がいた理由は、「回る様子」と「回し方」にこだわり、２つに分けることをしたからである。

前の時間に大事な言葉「色」「音」「動き」にマーキングできていたか、「回して」のところに印がついていたか。デジタル教科書の書き込みの良さを活かして、前の時間に仕込みをしっかりしておくことが不可欠だった。３年生としては高い目標を達成させるためのスモールステップが必要である。文章全体の構成は「はじめ」「中」「終わり」と考えて良い。全体のまとめの叙述を捉えることをどこまで子どもに求めるか、実態に応じて考えたい。事例の順序生は「姿を変える大豆」でとらえればよい。

前の学習を生かすようにできているのがこの単元の大きな特徴である。「前に勉強したこと使える」という実感を子どもたちに持たせるためにも、前の学習と今日の学習がリンクしていることが必要である。大事な言葉は掲示して「ほら出てきた」と確認する。意図的に重なるように教材が配列してあるのでぜひ活用して欲しい。

指導案に「着目させたい言葉・文」が書いてあるが「このように」が欠けている。どの言葉が大事なのか、削るならどれを残すのかを考える。

「児童が」分からないことを解決して日常生活に活用させたいという教師の願いが書かれていること、自分で紹介したいこまを紹介できるという閉じ方が良い。

ICT を交流に活用するなど、ツールのいいところを選んでやっていきたい。機能のメリットデメリットをまとめている学校があるので参考にして欲しい。何について振り返るのかを吟味し、スクールタクトを活用して、振り返りを充実させていけるとよい。

中学年　分科会（4学年）

麻布小学校教育目標　元気な子　やさしい子　考える子

〈研究主題〉
「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」
～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～

中学年分科会として目指す児童像
「言葉に着目し、自分の思いや考えを伝え合う児童」

中学年児童の実態	中学年分科会　教師の願い
・段落相互の関係に着目し、筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉える力」は８割程度の児童が身に付けている。 ・一方で、筆者の考えやそれを支える理由や事例を捉えることが苦手な児童もいる。 ・文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつ力」については、単に「面白い」「すごい」等だけではなく、根拠を基に感想や考えをもつことができる児童は３割程度である。	・自分の考えを人に説明したり伝えようとしたりすることに、苦手意識をもたずに取り組めるようにしたい。 ・学習したことが日常生活に活用できる経験を積ませる事を通して学ぶことの楽しさを味わうことで、意欲的に学習に取り組む児童を育てたい。 ・既習事項を活用し、児童が「分からないこと」を解決できるようにしたい。

主体的に学び合う姿	豊かに表現する姿
・読み取ったことを元に、自分の考えを他者に進んで伝えようとしようとする。	・具体的に根拠を示しながら、自分の考えを伝えることができる。

手立て1
学習の見通し持たせる
モデル文や話型を用意して、「筆者の考えに対する自分の考えをもつ」ということのイメージをもたせることで見通しをもって意欲的に取り組めるようにする。

手立て2
振り返りの充実（自分自身との対話）
毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として「分かったこと」「分からなかったこと」「次の時間に考えたいこと」の3つを挙げ、自分の学習について振り返る機会を設け、学習の積み重ねを実感できるようにする。

手立て3
意見をもつための対話の工夫
ICT 機器を活用することで、意見交流できる場面を意図的に取り入れ、児童に考えをもたせたりそれらを広げさせたりする。また、「feelnote」に考えたことや感じたことを載せる活動を通して、自分の考えや思いが伝わる文章を書くことを日常的に意識できるようにする。

手立て4
既習事項を生かすための工夫
「言葉のたから箱」の言葉を用いた文章作りや辞書での意味調べを行っていく。言葉の意味や使い方に着目しながら、自分の考えにふさわしい言葉を選べるよう、語彙を豊かにする。

カリキュラム・マネジメントの視点

〈総合的な学習の時間との関連〉
・本単元学習後、アップとルーズを活用して考えたことを「feelnote」に載せたり、新聞を書いたりする。

〈特別活動との関連〉
・朝の会や出張スピーチ、モジュール学習等を活用して、学習内容を生かせるようにする。

〈地域との連携〉
・発表会を企画し、自分の考えを伝えることの喜びを味わわせるようにする。

※朝学習やモジュール学習などに、継続的に「言葉調べ」を行ったり、それらの言葉を用いて「スピーチ活動」を行ったりしていく。

第４学年　国語科学習指導案

日　時　令和３年６月２８日（月）
対　象　第４学年２組３１名
授業者　佐藤　千紗

研究主題
主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成
～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～

中学年分科会の目指す児童
「言葉に着目し、自分の思いや考えを伝え合う児童」

１　単元名　「筆者の考えを生かして、自分の考えをまとめよう」
教材名　「思いやりのデザイン」　（光村図書　第４学年上巻）　筆者　木村　博之
「アップとルーズで伝える」　（光村図書　第４学年上巻）　筆者　中谷　日出

２　単元の目標と評価規準
（１）単元の目標
・考えとそれを支える事例との関係について理解することができる。　【知－（２）ア】
・段落の役割について理解することができる。　【知－（１）カ】
・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。　【思Ｃ－（１）ア】
・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもつことができる。　【思Ｃ－（１）オ】
・言葉がもつよさに気付くとともに、進んで国語を大切にし、思いや考えを伝えようとすることができる。　【主】

（２）単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　考えとそれを支える事例との関係について理解することができる。【知－（２）ア】 ②　段落の役割について理解している。【知－（１）カ】	①　「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えるている。【思Ｃ－（１）ア】 ②　「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもっている。【思Ｃ－（１）オ】	①　進んで文章を読み、文章構成を捉え、既習事項を生かしながら、筆者の考えをどのように活用できるかを伝えようとしている。

3　本単元について

（1）単元の設定理由

本単元は、小学校学習指導要領（平成２９年告示）国語編第３学年及び第４学年に記載されている次のことを扱っている。【学習指導要領から抜粋】

> 【知識及び技能】
> （1）カ　主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。
> （2）ア　考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。
> 【思考力、判断力、表現力等】
> C 読むこと
> （1）ア　段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。
> 　　オ　文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

本単元で児童に身に付けさせたい力は、以下の２つである。

① 段落相互の関係に着目し、筆者の考えがどのような事例や文章構成によって説明されているのかを叙述を基に捉え、対比的に説明することのよさに気付く力

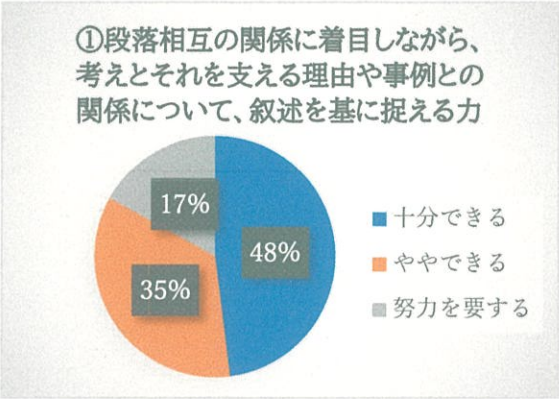
② 筆者の考えを捉え、筆者の考えに対する自分の考えをもつ力

上記を踏まえ、筆者の考えである「伝えたいことに合わせてアップとルーズを選んだり組み合わせたりする」ということを、自分ならどんな場面でどのように生かすか考えをまとめる学習課題を立てた。

筆者の考えを正確に捉えるためには、考えとその事例との関係に着目しながら、文章を読み取る必要がある。そのために、筆者が自分の考えを裏付けるためにどのような事例を挙げているのか、二つの事例の特徴が対比的に説明されていることに着目し、叙述を基に読み取っていく。また「アップとルーズで伝える」については、対比的に説明されていることに加え、類比した事例も挙げて説明するという文章構成から、筆者の考えにより説得力をもたせることに気付かせたい。

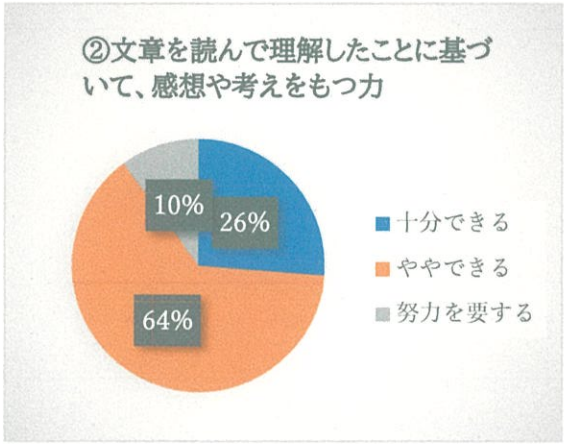
自分の考えを具体的に述べる方法の一つとして、「対比する」ということを知り、今後自分の考えを述べるときに必要に応じて使うことができるようにしたい。そこで、本教材が、写真や映像という児童にとって身近な題材であることから、筆者の考えを受けて、「アップ」と「ルーズ」をどんな場面でどのように生かしたいか自分の考えをまとめる。そこから、伝えたいことに合わせた文章と写真を「feelnote」に載せたり、新聞を書く際に活用したりするなど、日常活動にも広げていく。日常で積み重ねることで、自分の生活経験と結び付けて自分の考えに説得力をもたせ表現できるようにしていきたい。よりよいものは、学校の公式 Twitter でも取り上げる。

（２） 児童の実態について



今年度、初めての説明的文章であるため、本単元につながる３年生の既習事項の定着の実態を知るために、調査を行った。

本単元で身に付けさせたい力である「段落相互の関係に着目し、筆者の考えがどのような事例を挙げて説明されているのかを、叙述を基に捉える力」は、左記の結果から分かるように、８割程度の児童が身に付いていると言える。既習事項を確認しながら、筆者の考えがどのような事例によって説明されているのかを段落同士を比較しながら叙述を基に捉えていく。筆者の考えと具体的な事例との関係に着目して読むことにより、対比して説明することのよさに気付くことができるようにする。一方で、筆者の考えや事例を捉えることが苦手な児童がいる。事例ごとに色を分けてサイドラインを引いたり、文末表現に着目させたりすることで、対比して説明していることや筆者の考えに視覚的にも気付くことができるようにする。



また、「文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつ力」の定着度は、左記の通りである。「～がおもしろい」「～がすごい」などの感想はもつことができるが、具体的に根拠を示しながら感想や考えをもつことができる児童は、約３割であった。モデル文を用意し、ゴールのイメージをもたせること、「アップ」と「ルーズ」が活用されている具体的な例を示すことで、自分ならどんな場面で、どのように活用するか考えをもたせていく。

（３） 教材について

「思いやりのデザイン」と「アップとルーズで伝える」は、「人に伝える」ことについて記された説明的文章である。具体的な事例を挙げながら筆者が考えを述べていること、その事例を対比的に説明することで筆者の考えをより分かりやすく、説得力が増して伝えていることにおいて共通している。本教材で挙げられている事例は、段落同士だけでなく、段落の中でも長所と短所に分けて、対比的に説明されている。「アップとルーズで伝える」に関しては、他のメディア（新聞）を類比的に挙げることで、より筆者の考えに説得力をもたせている。どちらの文章も双括型であり、写真と文章の対応、事例で用いられている案内図「A」と「B」、「アップ」と「ルーズ」の対比的な文章構成で表されており、段落相互の関係を捉えやすい文章となっている。

二つの教材文を通して、対比して説明することのよさに気付かせ、自分の考えを具体的の述べる方法の一つとして、今後活用することができるようにしたい。

【学習材の分析】

《思いやりのデザイン》双括型

構成	初め		中		終わり
形式段落	①	②	③	④	⑤
段落の役割	話題提示	筆者の主張	事例一 Aの案内図	事例二 Bの案内図	筆者の主張
段落の内容	伝えたいことを絵や図、文字を組み合わせて見える形にしたものをインフォグラフィックスという。	インフォグラフィックスを作るときに大切なことは、相手の立場から考えることである。	メリット どこにどんな建物があるかを、だれが見ても分かるように表しているため、多くの人の役に立つ。 デメリット 目的地が決まっている人にとっては、たくさんの道や目印があるため、まよってしまうかもしれない。	メリット 目的地までの道順と目印になる建物だけを表しているため、見る人にとっていちばん分かりやすい道順にしぼっている。 デメリット 街全体の様子を知りたい人にとっては十分なものではない。	相手の目的に合わせて、どう見えると分かりやすいのかを考えながらデザインすることが大切である。インフォグラフィックスは、見る人の立場に立って作る、思いやりのデザインなのだ。
着目させたい言葉、文	～でしょう。 それらのように	大切にしていることがあります 例に考えてみましょう。	そのため しかし ～どうでしょうか	いっぽう ↓対比 しかし	このように つまり ～のです。 ↓文末表現

《予想される児童の考え》

・相手のことを考えてデザインしているところがよい。

・相手の目的に合わせて作ることで、助かる人がたくさんいるので、インフォグラフィックスは「思いやりのデザイン」といえると思う。

・「思いやり」とは、相手に対する行動や言葉だけでなく、自分たちがよく目にするもの（地図や表示など）にも表されていることが分かった。

《アップとルーズで伝える》双括型

構成	初め			中				終わり
形式段落	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
段落の役割	「ルーズ」の事例	「アップ」の事例	①②のまとめ 筆者の主張 問い	事例一 アップの特徴	事例二 ルーズの特徴	映像での アップと ルーズの まとめ	写真の場合の アップと ルーズ	筆者の主張
段落の内容	画面には会場全体がうつし出されており、会場全体が静かに興奮をおさえて、開始を待ち受けている感じが伝わる。	画面はコートの中央に立つ選手をうつし出した。顔を上げて、ボールをける方向を見ているようだ。	何かを伝えるときは広い範囲をうつす「ルーズ」とある部分を大きくうつす「アップ」を選んだり組み合わせたりすることが大切である。アップとルーズにはどんなちがいがあるのだろうか。	ゴールを決めた選手が、両手を広げて走っている。ひたいに光る汗、口を大きく開けて全身で喜びを表しながら走る選手の様子がよく分かる。 ゴールを決められたチームの選手の表情、それぞれの応援席の様子など、走っている選手以外のうつされていない部分のことは分からない。	勝ったチームの応援席では、ふられる旗、たれまく、立ち上がっている観客とそれに向かって手をあげる選手など、広い範囲の様子がよく分かる。 各選手の顔つきや視線、それから感じられる気持ちまでは分からない。	アップとルーズにはそれぞれ伝えられることと伝えられないことがあり、テレビでは何台ものカメラを用意して目的に応じてアップとルーズを切り替えながら放送している。	写真にもアップとルーズでとったものがあり、新聞では伝えたい内容に合わせて。目的に一番合うものを選んで使うようにしている。	送り手は伝えたいことに合わせてアップとルーズを選んだり組み合わせたりする必要がある。 「アップ」と「ルーズ」を使い分けることによって、伝えたいことをより分かりやすく受け手に届けることができるはずだ。
着目させたい言葉、文	会場全体がうつし出されました ↓ルーズ	コートの中央に立つ選手をうつし出しました ↓アップ	アップとルーズにはどんなちがいがあるのでしょう。 ↓問い	しかし	でも	このように ↓問いに対する答え	写真にも、 そして	だからこそ～のです ↓文末表現 ～思い出しましょう ↓呼びかけ ～はずです ↓文末表現

《モデル文①》

筆者は「伝えたいことに合わせて、アップとルーズを選んだり、組み合わせたりする必要がある」と述べている。私は、校庭に咲いている花の写真を「feelnote」に載せたことがある。そのときは一番気に入ったピンク色の花をアップで撮ったが、今思うと、ルーズで花壇全体を撮ることで、花壇に咲いている花の美しさがより伝わったのではないかと思った。「feelnote」に何かを投稿するときは、伝えたいことに合わせて、アップとルーズで撮ることを意識してみたい。

《モデル文②》

私は、出張スピーチのときに、アップとルーズで撮った写真を用意して話したいと思った。私は緊急事態宣言が解除されたら、遊園地に行く。乗った乗り物の写真を、伝えたいことに合わせてアップとルーズで撮りたい。例えば、ジェットコースターだったら、ジェットコースターの高さが分かるように、ルーズで撮りたいと思った。また、ゴーカートだったら、自分が運転している様子が分かるように、アップで撮りたいと思った。筆者の「伝えたいことに合わせて、アップとルーズを選んだり、組み合わせたりする必要がある」ということを、これからも意識していきたい。

4　研究主題に迫るための手立て

○　段落相互の関係を捉える手立て

・視覚的に捉える工夫

全文シートを用意し、段落のまとまりごとに色を分けて囲んだり、事例ごとに色を分けてサイドラインを引いたりすることで、文章の構成や、事例が対比的に説明されていることが視覚的に理解できるようにする。

・段落意識を高めさせる手立て

既習事項を生かし、段落の内容を適切に捉えることができるように、小見出しをつける。大事な言葉にサイドラインを引いたり、印をつけたりすることで、段落意識を高めることができるようにする。

○　モデル文や話型の活用

「筆者の考えに対する自分の考えをもつ」ことは、4年生で初めて経験する。そのため、モデル文を用意することで、筆者の考えを生かして、どのように自分の考えをまとめるのかイメージをもつことができるようにする。また、自分の考えをもつことが苦手な児童には、話型を用意したり、「アップ」と「ルーズ」が活用されている具体的な例を示したりすることで、自主的に取り組むことができるようにする。

○　ICT機器を活用した日常活動

考えや思いをもつことを目的とし、ICT機器を活用する。「feel note」に写真（自分が撮影したもの、またはインターネットで調べたもの）とそれに対する自分の考えを書き、載せる活動を行う。受け手（同じグループに所属しているクラスメイト）がいることで、自分の考えや思いが伝わるような文章にすることを、日常的に意識することができるようにする。

○　対話活動の充実

対話の目的や視点を明確に提示し、「４つの対話」（「作品との対話」「教師との対話」「自分自身との対話」「他者との対話」）を意図的に本単元の中で展開していく。児童同士で学び合いができるように、グループ編成を考慮して行う。

○　振り返りの充実

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として、「分かったこと」「分からなかったこと」「次の時間に考えたいこと」の３つを挙げ、自分の学習について振り返ることができるようにする。コメント等での価値付けや助言を行うことで、自分の学びを具体的に振り返ることができるようにする。また、児童の振り返りを全体の前で取り上げることで、学習の積み重ねを実感できるようにする。

○　語彙を豊かにする日常活動

「言葉のたから箱」の言葉を用いた文章作りや辞書での意味調べを、家庭学習やモジュール学習の時間を使って日常的に行っていく。言葉の意味や使い方に着目しながら、自分の考えを表現するのにふさわしい言葉を選ぶことができるようにする。

5　単元計画と評価計画（全８時間）

<table>
<tr><th>次</th><th>時</th><th>目標</th><th>学習内容</th><th>◆評価規準
・留意点　☆支援</th></tr>
<tr><td colspan="2">モジュール学習</td><td colspan="2">・「思いやりのデザイン」という題名から、どのようなことが思い浮かぶかを話し合う。</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">家庭学習</td><td colspan="2">・「思いやりのデザイン」を読み、初読の感想を書く。
（スクールタクト）</td><td>初読の感想の視点
①文章を読んで考えたこと
②疑問点</td></tr>
<tr><td>1</td><td>1</td><td>学習課題を把握し、学習計画を立てることができる。</td><td>1　説明的文章を読むときの既習事項を確認する。
2　本時の目標を確認する。
学習課題を確認し、学習計画を立てよう。
3　「思いやりのデザイン」の初読の感想を交流する。
4　大まかな文章の構成、話題を確かめる。
5　単元の課題を確認する。
筆者の考えを生かして、自分の考えをまとめよう。
6　学習計画を立てる。
7　本時の振り返りをする。</td><td>・感想と考えの違いを明確にする。
【感想】心に感じたことや思ったこと。
【考え】考えたことがら。意見、工夫、判断、創造など。
・「生かす」という意味を明確にし、ゴールのイメージをもたせる。</td></tr>
</table>

2	2 3	段落相互の関係に着目しながら、筆者の考えとそれを支える事例との関係を、叙述を基に捉えることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 段落のつながりを考えながら読み、筆者の考えと筆者の説明のしかたを探ろう。 3　文章全体を読み、筆者の考え（主張）が書かれた段落を見付ける。 4　案内図の説明の仕方をまとめる。 ＜手立て＞ ・文末表現や接続語などの言葉に着目し、筆者の考えを見付ける。 ・写真と文章を対応して読ませる。 ・全文シートを使い、段落のまとまりに着目して、色を分けて囲む。 ・事例ごとに色を分けてサイドラインを引く。 5　どのように説明されているかを全体で共有する。→「対比」 6　本時の学習を振り返る。	・筆者の考えが２回書かれていることに気付かせ、「双括型」の文章であることを指導する。 ◆イ―① 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、筆者の考えとそれを支える事例との関係について、叙述を基に捉えている。 【ノートの記述の分析】 ・文末表現に着目し、筆者の考えを見つけることができたか。 ・案内図ＡとＢの特徴を読み取り、まとめることができたか。
	4	筆者の考えに対する自分の考えをもつことができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 筆者の考えに対する自分の考えをまとめよう。 3　筆者の考えに対する自分の考えを「スクールタクト」にまとめる。 《筆者の考えに対する自分の考えのもち方》 【視点】 ・共感した　・納得した・よく分かった ＜手立て＞ ・自分の考えに根拠をもたせるために、文章を引用する。 4　全体で共有する。 5　本時の振り返りをする。	・「筆者の考えに対する自分の考えをもつ」ということがどういうことなのかを確認し、「アップとルーズで伝える」の言語活動につなげることができるようにする。 ・視点をもたせることで、「考え」のイメージがもてるようにする。 ◆イ―② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、考えをもっている。 【スクールタクトの記述の分析】 ・文章を引用して、筆者の考えに対する自分の考えに根拠をもたせているか。

モジュール学習		・「アップとルーズで伝える」という題名から、どのようなことが思い浮かぶか考える。 ・「アップとルーズで伝える」を読み、初読の感想を書き、感想を共有する。（スクールタクト） ・形式段落に番号をふる。		初読の感想の視点 ①文章を読んで考えたこと ②疑問点
	5	大事な言葉に着目しながら、「アップとルーズで伝える」の文章の構成を捉え、それぞれの段落の役割について理解することができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 「思いやりのデザイン」で学習したことを生かして、「アップとルーズで伝える」の文章の構成をとらえよう。 3　文章を「初め」「中」「終わり」に分ける。 《文章の構成を捉えるポイント》 ・それぞれの段落が何について述べているのかを押さえる。 ・文末表現、接続語に着目する。 4　着目した言葉等を確認し、文章の構成を全体で共有する。 5　筆者の考えを確認する。 6　本時の振り返りをする。	・全文シートを用意し、段落同士のまとまりやつながりを色分けすることで視覚的に捉えることができるようにする。 ・どのように文章の構成を捉えたのか、具体的な根拠を示して説明できるようにする。 ◆ア-② 段落の役割について理解している。 【ノートの記述の分析、話し合いでの発言】 ・文末表現や接続語に着目して、それぞれの段落の役割について理解することができたか。

	6	筆者の考えとそれを支える事例との関係を、叙述を基に捉え、対比して説明されていることのよさを考えることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する 段落のつながりを考えながら、筆者の説明のしかたを探ろう。 3　「アップ」と「ルーズ」の説明の仕方をまとめる。 <手立て> ・全文シートを用意し、段落に着目して、まとまりごとに色を分けて囲む。 ・写真と文章を対応させて読む。 ・事例や内容ごとに色を分けてサイドラインを引きながら読む。 ・表にまとめる。 4　どのように説明されているかをグループで話し合う。 5　全体で共有する。 6　対比して説明することのよさについて考える。 7　本時の振り返りをする。	・段落の中だけでなく、段落同士を対比して読むことで筆者の考えに対する根拠を読み取ることができるようにする。 ・既習事項を確認し、「アップ」と「ルーズ」を対比的に読み取ることができるようにする。 ◆ア－① 考えとそれを支える事例との関係について理解することができる。 【ノートの記述の分析、発言】 ・「アップ」と「ルーズ」の事例を対比して読み取ることができているか。 ・対比して説明することのよさを考えることができたか。
	7 本時	段落相互の関係に着目して、第７段落の役割に気付くことができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 筆者が第７段落を入れた理由を考えよう。 3　筆者が第７段落を入れた理由について考える。 4　グループで意見を共有し、話し合う。 《予想されるもの》 ・テレビや新聞だけではなく、他のことにも使えるのではないか？と考えさせられる。 5　全体で共有し、第７段落の役割についてまとめる。 6　本時の振り返りをする。	・筆者の考えと照らし合わせて読むように助言する。 《話し合いの仕方》 ①一人ずつ意見を出す。 ②そう考えた根拠を確かめる。 ③他の考えがないか検討する。 ◆ア－① 段落の役割について理解している。 【ノートの記述、発言】 ・類比して説明することにより、筆者の考えの説得力が増すこと、アップとルーズには汎用性があることを理解している。
モジュール学習		・筆者の考えを確かめる。 ・モデル文を読み、筆者の考えに対する自分の考えのもち方を確かめる。		

家庭学習		「アップ」と「ルーズ」を、どんな場面で、どのように活用するか考える。		
3	8	筆者の考えを生かして、自分の考えをまとめることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する 筆者の考えを生かして、自分の考えをまとめよう。 3　モデル文を基に、自分の考えをまとめる。（スクールタクト） ・必要に応じて写真や資料を載せる。 ・文章を引用する。 4　学習の振り返りをする。	◆ウ-① 進んで文章を読み、既習事項を生かしながら、筆者の考えをどのように活用できるかを考え、伝えようとしている。 ◆イ-② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、考えをもっている。 【スクールタクトによる記述】 ・文章を引用しているか。 ・筆者の考えを受けて、「アップ」と「ルーズ」をどのように活用していくかをまとめることができているか。
モジュール学習		・まとめたものを読み合い、共有する。 （スクールタクトの共有機能）		

6　本時の展開（7/8）

（1）本時の目標

段落相互の関係に着目して、第７段落の役割に気付くことができる。

（2）本時の展開

時間	学習内容 T 教師の発問 C 予想される児童の反応	・指導事項 ◎豊かな表現を見取る視点	◆評価規準 ☆支援 ・指導上の留意点
導入	1　前時の振り返りを共有する 2　本時の目標を確認する。 筆者が第７段落を入れた理由を考えよう。		・「思いやりのデザイン」で学習したことを掲示し、自分で振り返ることができるようにする。
展開	3　筆者が第７段落を入れた理由について考える。 （作品との対話） T　第７段落を入れた理由について、考えてみましょう。 C　事例がたくさんあった方が筆者の言いたいことが読者に伝わるのではないか。 4　グループで意見を共有し、話し合う。　（他者との対話） T　第７段落を入れた理由について、グループで意見を出し合いましょう。 C　写真でもアップとルーズを選んだり組み合わせたりする必要があることを伝えることで、筆者の考えにより説得力が増すと思う。 5　全体で共有し、第７段落の役割についてまとめる。 （教師との対話） T　第７段落を入れた理由はなんでしょう。	◎第７段落を入れた理由を、具体的に根拠を示してまとめているか。 《話し合いの仕方》 ①一人ずつ意見を出す。 ②そう考えた根拠を確かめる。 ③他の考えがないか検討する。 ◎自分の考えが、相手に伝わるように具体的に根拠を示して説明しているか。	☆「第７段落があることでどんないいことがあるか。」と考えることで、第７段落の必要性をより考えることができるように助言する。 ☆筆者の考えと照らし合わせて読むように助言する。 ☆C児童には、押さえたい言葉に印をつけた本文（３・６～８段落）を渡し、個別で支援する。 ☆B児童には、具体的に根拠を示して説明することができるように促す。 ☆A児童には、自分の言葉に言い換えたり例を出したりして説明することができるように促す。 ・類比して説明することで、筆者の考えにより説得力を持たせること、アップとルーズには汎用性があることを捉えさせる。 ◆ア-① 段落の役割について理解している。 【ノートの記述、発言】 ・類比して説明することにより、筆者の考えの説得力が増すこと、アップとルーズには汎用性があることを理解している。
まとめ	6　本時の振り返りをする。 （自分自身との対話）		・視点 「分かったこと」 「分からなかったこと」 「次回考えたいこと」

（3） 授業観察の視点

・段落相互の関係に着目することで、類比した事例に気付くことができたか。

7　板書計画

アップとルーズで伝える　中谷　日出

めあて
筆者が第七段落を入れた理由を考えよう。

本文

・映像だけでなく新聞でも↓説得力が増す
・テレビ以外でも同じということが分かる。
・事例が多い方が読者に納得してもらえる。
・アップとルーズの他の例として新聞を挙げている。
　↓あると分かりやすい。
・他の例をあげることで、読者にいろいろなもので使うことができると気付かせる
　↓第八段落にもつながる（呼びかけているから）
・新聞は子供にとっても身近で、イメージしやすい。

ふり返り

8　本時の振り返り

(1)　本時の概要

本時は、第７段落（写真の場合のアップとルーズの使い分け）がなぜあるのかについて考えた。既習事項を確認したあと、自分の考えをノートにまとめた。Ｃ児童には着目させたい言葉に印を付けたワークシートを個別に配布した。その後グループで共有し、全体で考えを共有した。３０人中２５人が自分の考えを書くことができ、共有後再度個人で第７段落の役割についてまとめたところ、３０人中２７人が自分の言葉でまとめることができていた。

(2)　実践の振り返り

・段落相互の関係に着目することによる類比した事例への気付き

本時を迎えるまでに、全文シートを活用して段落相互の関係に着目しながら読んできた。段落のまとまりごとに色を分けて囲んだり、事例ごとに色を分けて線を引いたりすることで、文章の構成や対比されている事例に気付くことができるようにした。「アップとルーズで伝える」では、既習事項を生かし、児童が自主的に色分けをし、第4、5段落は対比されているということにも気付くことができた。

本時では、最初に前時までの学習を振り返り、段落相互の関係に着目しながら考えることができるようにした。Ｃ 児童には、着目させたい言葉に印をつけたワークシートを配布することで、自力解決につなげることができた。前後の段落を読み、第6段落は「映像」、第7段落は「写真」について書かれており、対比の事例とは違う「似ているもの（類比）」の事例が挙げられているということに気付くことができた。ただ「事例があると分かりやすい」というだけではなく、写真、新聞といった児童にとって身近なものを例にあげることによって、より説得力が増すという意見も出た。

(3)　協議内容

【成果】

・ほとんどの児童が自分の考えを書くことができていた。主体的に書くことができていた。
・本文のサイドラインなど、日ごろからの積み重ねが見られた。その積み重ねが本時につながっており、児童がキーワードをたくさん出すことができていた。
・言葉に着目して考えることができていた。
・第7段落がある理由を考えることで、内容を深く読み取ることができた。
・グループでの話し合いでは、課題に沿った会話がされていた。
・意図的に指名されていた。

【改善点】

・本時のまとめを、学級でまとめておくとよかった。
・理由を問うときに、段落の内容を押さえるとよかった。
・まとめのときに、本文に立ち戻ってもよかった。
・キーワードがたくさんあったので、もう少しまとめてもよかった。
・なぜ学ぶのかというゴールを共有するとよかった。(何が課題なのか共有されていなかった。)
・まとめの時間、児童が小見出しを作るのか、何をするのかを理解していなかった。
・話型を作るなど、工夫があるとよかった。
・C 児童への支援は全体に共有してもよかったのではないか。

(4) 指導講評

担任が一人ひとりを掌握している、分かっていることが伝わってくる授業だった。今一人ひとりがどこまで理解していて、何をしたいと考えているのか、ノートや今までの学びの記録を通してつかもうとしているのがよかった。また、子どもから出てきた様々な思いを授業の中に取り込んで授業を組み立てていくために、子どもの声を使っていた。子供の声を拾い上げて授業を作っていた。それが子どもたちも振り返りにつながる。最後の10分間は少し長かった。あの10分間の目的は子どもの思いを大事にすることである。ICT を活用して、ノート全体を写すなど時短の工夫をするとよい。ICT をうまく使うことは時間短縮にもなり、多くの子供たちの願いを一度に出すことができることにつながる。

単元のねらい(教科書では「筆者の考えをとらえて」、指導案では「筆者の考えを生かして」)を意図的に変えていた。教師や学年の思いは分かるが、国語科とすれば、まずは正確に理解することが大切である。どの教科でも子どもの日常の中に入っていき、子どもが日常の中でそれを学びの成果として活用する、使うというところにもっていくことが大切だが、まずは何が書いてあるのかをしっかりと捉えることが大切である。それはとても大切な学習活動である。児童には、本時までにしっかりと積み重ねられていた。しかし、第7段落に何が書いてあるのかを捉えきれていない児童、そこを捉えることを必要と思っていない児童がいたのではないか。

高学年　分科会（第５学年）

麻布小学校教育目標　　元気な子　やさしい子　考える子

〈研究主題〉
「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」
～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～

高学年分科会として目指す児童像
「言葉を吟味し、進んで伝え合い、思いや考えをまとめたり広げたりする児童」

高学年児童の実態	高学年分科会　教師の願い
・要旨の把握の既習事項である「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係について、叙述を基に捉える力」は、７割以上の児童が概ね捉えられている。 ・「考えをもつ力」については、自分の意見をもち、まとめられる児童は、７割弱の児童ができる。 ・課題をグループで解決したり、意見交流したりすることは活発に行っているが、学習して分かったことや友達の意見を基に、再考することに課題が見られる。 ・ICT 機器においては、日常的に自主学習で活用している。	・既習事項を活用し、児童自身で課題解決できるようにしたい。 ・学習で分かったことや他者の意見、教師によるコメントから、自分の意見を考え直し、より納得して表現したり、より自分の考えに合った言葉を吟味したりし、考えを広げていけるようにしたい。

主体的に学び合う姿	豊かに表現する姿
・言葉に着目して文章を読み、考えをもつ。 ・他者の意見を聞いて、自分の考えを広げ、再構築した考えを伝え合おうとする。	・友達の考えをしり、自分の意見を深めたり再構築したりできる。

手立て１
単元の課題設定
ブログを書くという課題を設定することで、実生活につながる単元課題にする。本単元を通して、自分の生活を振り返り、今後に生かしていけるような課題設定にする。

手立て２
振り返りの充実（自分との対話）
毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として「分かったこと」「分からなかったことや疑問に思ったこと」の２つを挙げ、自分の学習について振り返る機会を設ける。

手立て３
意見をもつための工夫（４つの対話）
対話の目的や対話活動における視点を教師側から提示したり児童同士が交流したりすることで一人一人が意見をもてるようにする。

手立て４
ICT 機器の活用の工夫
本単元は、考えの共有の際に「スクールタクト」、ブログ作成に「feel note」を活用する。加除訂正しやすいことや一度に大人数と交流できるICT機器のよさを生かし、本単元では、考えを表現することに活用していく。

カリキュラム・マネジメントの視点

〈家庭学習との関連〉
・授業時間を日常生活に生かすために、家庭学習としてブログを作成する。

〈日常活動との関連〉
・本学級は、自主学習として、「power point」や「word」を活用している。９月の「新聞を読もう」の単元を見据え、新聞記事の要旨を捉えることや記事に対する考えをもつことに繋げていきたい。

※朝学習やモジュールの時間などに、継続的に「言葉調べ」を行ったり、それらの言葉を用いて「スピーチ活動」を行ったりしていく。

第５学年　国語科学習指導案

日　時　令和3年6月9日(水)5校時
対　象　第5学年1組　32名
授業者　梨岡　和

研究主題
主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成
～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～

高学年分科会の目指す児童像
「言葉を吟味し、進んで伝え合い、思いや考えをまとめたり広げたりする児童」

1　単元名　「文章の要旨を捉え、文章に対する自分の考えをブログで発信しよう。」
教材名　「見立てる」　（光村図書　第５学年）　筆者　野口　廣
「言葉の意味が分かること」　（光村図書　第５学年）　筆者　今井むつみ

2　単元の目標と評価規準
（1）単元の目標
・原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。　【知－（2）ア】
・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。　【思Ｃ－（1）ア】
・文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。【思Ｃ－(1)オ】
・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとすることができる。　【主】

（2）単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 【知－(2)ア】	①　「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 【思Ｃ－（1）ア】 ②　「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。 【思Ｃ－（1）オ】	①　進んで、既習事項を活用しながら文章の要旨を捉え、学習の見通しをもって、筆者の考えに対する自分の考えをブログに発信しようとしている。

3　本単元について

（1）　単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成２９年告示）国語編　第５学年及び第６学年に記載されている次のことを扱っている。【学習指導要領から抜粋】

［知識及び技能］ （２）ア　原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ［思考力、判断力、表現力等］　　Ｃ　読むこと （１）ア　事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 　　オ　文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

本単元で児童に身に付けさせたい力は、以下の２つである。

① 筆者の主張とそれを支える事例を基に要旨を捉える力

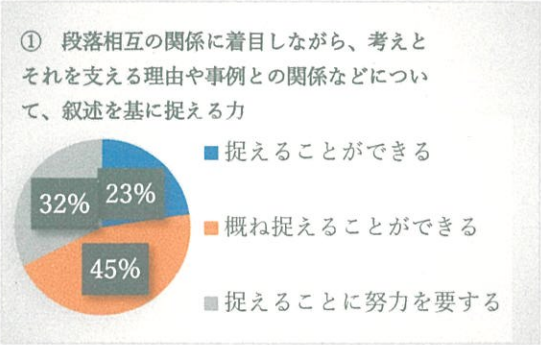
② 筆者の考えに対する自分の考えをもつ力

上記を身に付けるために、本単元は、「文章の要旨を捉え、文章に対する自分の考えをブログで発信しよう」という学習課題を立てた。今年度は、高学年の目指す児童像を達成するために、児童に自分の考えをもたせ、発信することに重点を置いて指導していく。そこで、９月の単元である「新聞を読もう」の学習をきっかけとし、新聞記事の要旨を捉え、自分の考えを発信する（ブログに蓄積していく）日常活動を計画している。このことを見据え、本単元では、文章を読んで理解したことに対する自分の考えをブログにまとめる活動を行う。

文章の要旨を捉えることは、児童にとって初めての経験である。本単元では、要旨の捉え方をモデル文や既習事項（主張と事例の関係等）を活用しながら指導していく。

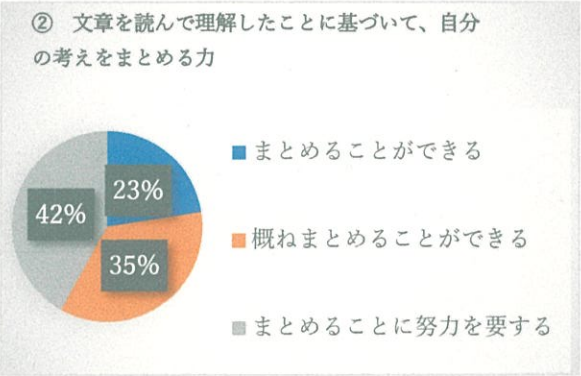
ブログで発信することは、不特定多数の人に読んでもらうことである。つまり、より自分の考えを明確にする必要があり、そのために言葉を精選したり、文章をよりよくするために吟味したりすることが大切である。本単元では、辞書や言葉の宝箱を活用した言葉の精選、ICT 機器を活用した文章の作成、推敲をしていきたい。本単元では、ブログでの文章作成、発信は家庭学習として取り組み、文章の読み取りや自分の考えをもつ段階に重点をおいて指導していく。

（2）　児童観



今年度、初めての説明的文章の学習であるため、本単元につながる４年生まで既習事項の定着の実態を知るために、調査を行った。

本単元で身に付けさせたい力である「要旨を捉える」ための既習事項である①の力は、左記の結果から分かるように、６割以上の児童が身に付いていると言える。児童には、既習事項を確認しながら、筆者の主張を捉えたり、付箋紙に要点をまとめた上で、文章構成を意識させたりできるようにしていく。一方で、筆者の考えやそれを支える理由や事例を捉えることが苦手な児童もいる。既習事項がまだ身に付いていない児童については、教師が着目してほしい言葉や文に印をつけたワークシート等を作成し、本単元は、「要旨を捉える」ことに注力できるようにしていきたい。



自分の力をまとめる力については、6割弱の児童が、既習事項が身に付いていることが分かる。児童には、タブレットを活用し、自分の考えを不特定多数の人に読んでもらう経験をさせていきたい。そのためには、言葉や文章を吟味する必要がある。児童同士で助言し合うことで、よりよい文章になるようにしていけると考える。また、苦手な児童においては、教師からモデル文を配布し、モデル文を話型とし、自分の考えが伝えられるようにしていく。

（3） 教材観

本教材は、文化や言葉に表れるものの見方やそれに対する筆者の考えが述べられている。文章も双括型の文章であり、筆者の主張が書かれている段落を見付けやすい教材であると言える。また、事例の論じ方にも「原因と結果」の関係になっている。主張が見付けやすい点や筆者の考えを支える事例の挙げ方に特徴がある点において、要旨を捉えることに適していると考える。

また、本教材文は、筆者のものの見方や考えについて書かれているものである。これらは、文化や生まれ育った環境や生活に起因することを主張している。したがって、児童にとっては、自分の生活体験や経験と筆者の考えを比べながら読むことができると考える。これらは、自分の考えをもつ段階において適していると考える。文章に肯定的に読むことと同時に、「この場合においてはどうだろう」と自分の生活経験に合わせて疑問をもって読み進めるなど、文章を自分事として捉えられるきっかけにしていきたい。

（4） 学習材の分析

＜モデル文＞ 「アップとルーズ」（光村図書4年） 筆者 中谷日出

＜要旨＞ ある部分を細かく伝える「アップ」と、広いはんいを伝える「ルーズ」の特徴を理解し、情報の送り手が選んだり、組み合わせたりすることで、伝えたいことがより分かりやすく受け手に届けることができる。（94字）

＜要約＞ 映像で広いはんいをうつすとり方を「ルーズ」といい、ある部分を大きくうつすとり方を「アップ」と言う。何か伝えるときには、このアップとルーズを選んだり、組み合わせたりすることが大切である。アップでとると、細かい部分の様子がよく分かる。しかし、うつされていない多くの部分のことは、アップでは分からない。一方、ルーズでとると、広いはんいの様子がよく分かる。でも、各選手の顔つきや視線、それらから感じられる気持ちまでは、なかなかわからない。このようにアップとルーズには伝えられることと伝えられないことがあり、目的に応じて、切りかえている。写真でも同じことが言え、伝えたい内容によって、使い分けたり組み合わせたりしている。同じ場面でも伝え方によって、内容が変わってしまうのである。だからこそ、送り手は、伝えたいことに合わせて、アップとルーズを選んだり、組み合わせたりする必要があるのである。（389字）

＜見立てる＞双括型

構成	初め	中				終わり
段落	①	②	③	④	⑤	⑥
段落の役割ん	話題提示 筆者の主張	あや取りにおける「見立てる」ことの説明		事例1 国内の場合	事例2 世界各地の場合	筆者の主張
段落の内容	「見立てる」とは、あるものを別のものとして見ることである。たがいに関係ない二つを結び付けるとき、そこには想像力が働いている。	あや取りは、ひもが作り出した形に名前がつけられる。これが見立てるということだ。作った形と、その名前でよばれている実在するものとが結びつけられている。 これは、その土地の自然や人々の生活のしかたなどによって、結び付けられるものがことなるからである。		日本各地で名前がつけられ、約三十種類にもなる。それぞれの土地の生活と、より関わりの深いものに見立てられた。	あや取りは世界各地でも行われ、地域によって「かもめ」や「ログハウス」という名前がつけられている。	「見立てる」という行為は、想像力に支えられている。そして、想像力は、自分の育った自然や生活と深く関わっている。
着目させたい言葉、	～である ↓文末表現、断定 「　」↓強調	例に考えてみよう ↓呼びかけ	～だ ↓文末表現	日本各地で ～結果といえる↓ 原因に対する結果	世界各地で ～しかし～ ↓対比	～だ 断定

＜要旨＞「見立てる」とは、あるものを別のものとして見るということである。　これは、想像力に支えられ、わたしたちを育んでくれた自然や生活と深く関わっている。（７２字）

＜言葉の意味が分かること＞　双括型

構成	初め	中									終わり	
段落	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
段落の役割	話題提示 筆者の主張	「言葉の広がり」についての説明			事例①	母語を学ぶ場合		事例② 言語による違い			筆者の主張	
段落の内容	言葉の意味に広がりがあり、このことを知ることで、言葉を学ぶときに役立ったりふだん使っている言葉やものの見方を見直したりことにもつながる。	言葉の意味に広がりがあるということはどういうことなのか。 「実物を見せる」だけでなく、使い方も理解してもらわなくてはならない。 「コップ」の意味には広がりがある。他の似たものを指す言葉との関係で決まってくる。			小さな子どもは、限られた例をもとに言葉のはんいを自分で考え、使う。そのため、まちがえることがある。 似た場面で覚えた言葉を、言葉の意味のはんいを広げすぎて使いすぎた。			同じことは、母語ではない言語を学ぶときにも起こる。それは、英語と同じような感覚で「食べる」という言葉を使ったことが原因である。 さらに、世界中のどの言語についても同様のちがいがある。 このように、一つの言葉のどのはんいまで広げて使うかは言語によってことなる。			新しく言葉を覚えるときには、「点」として考えてしまうが、言葉の意味には、広がりがあり、言葉を適切に使うためには、そのはんいを理解する必要がある。母語でも外国語でも言葉を学んでいくときには、言葉の意味を「面」として理解することが大切になる。 さらに、言葉の意味を「面」として考えることは、ふだん使っている言葉や、ものの見方を見直すことにもつながり、わたしたちが自然だとおもっているものの見方が、決して当たり前でないことにも気付かせてくれる。	
着目させたい言葉・文	しかし　なぜなら このことを知っていることは	言葉の意味に広がりがあるとは、どういうことなのでしょうか。↓問い しかし そう考えると ここから分かるように つまり～。また、			小さな子どもは～よくおもしろいまちがいをします。	あるとき↓事例の始まり よく考えてみると つまり		同じことは それは～が原因です ↓理由	さらに このように		私たちが新しく言葉を覚えるときには、 しかし、～つまり～大切になるのです。	さらに

＜要旨＞　言葉を覚えるときには、言葉が指す意味の範囲を理解する必要がある。言葉を一つの意味である「点」ではなく、複数の意味が含まれる「面」としてとらえることで、自然だと思って使っている言葉やものの見方を見直したり、当たり前でないことに気付いたりすることにつながる。(128字)

4　研究主題に迫るための手立て

○　実生活につながる単元課題の設定

本単元では、「文章の要旨を捉え、文章に対する自分の考えをブログで発信しよう」という単元課題を設定した。この学習は、９月の単元である「新聞を読もう」の学習を見据え、児童が新聞記事の要旨を捉え、自分の考えを発信することを目指す。ブログとは、「インターネット上で簡単に公開できる日記などのホームページ」（光村教育図書「小学 新国語辞典 改訂版」）のことである。ブログという不特定多数の人に読んでもらうところに書き込むということもあり「正確に読み取らなければならない」「自分の考えを適切に表現しなくてはならない」という学習に対して必要感をもって、学習に取り組めると考えた。

○　ICT 機器の活用と家庭学習への発展

本単元の指導の重点は、「要旨を捉えること」と「自分の考えをもつ」ことである。そのため、本単元の表現する手段として、ipad を活用する。

要旨を捉える段階では、児童に「端的に文章をまとめる」必要性を感じさせるために、「スクールタクト」を使用する。「スクールタクト」は同時に学級全員の考えを共有することができるアプリケーションである。しかし、一人が２枚以上に渡って記入してしまうと、全文を表記できない。そのため、既習事項の要約ではなく、「端的にまとめる」ために要旨を捉える必要があるのである。

また、家庭学習において SNS 型掲示板アプリケーションである「feel note」を活用し、インターネット上に自分の捉えた文章の要旨と自分の考えを掲載する経験を行う。（校外には、発信されない）児童は、校内の不特定多数の人に読んでもらえるように言葉や文章を吟味しながら、自分の考えを表現することが考えられる。

この学習を踏まえ、学習指導要領「内容の取扱いについての配慮事項（２）」を実現するために、家庭学習では本や「子ども新聞」等を読んだことを基に自分の考えを「feel note」上に掲載していく家庭学習を年間を通して取り組んでいく。

○　振り返りの充実

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として「分かったこと」「次の時間にやりたいこと」の２つを挙げ、自分の学習について振り返る機会を設ける。また、児童が自分の学びを進めようとしている記録や自分の言葉で表現しようとする姿に教師のコメント等で価値付けしたり、児童の振り返りを全体の前で取り上げたりすることで学習の積み重ねを児童が実感できるようになると考える。また、学習に対して児童自身が進められるようにするため、児童の学習状況について、指導・助言を繰り返し、成功体験を味わわせたい。

○　対話活動の充実

（１）　「４つの対話」による意図的な対話活動

「４つの対話（「作品との対話」「教師との対話」「自分自身との対話」「友達との対話」）」を意図的に単元の中に展開していく際に、対話の目的や対話活動における視点を教師側から提示したり教師と児童で考えたりする。目的や視点を明確にすることで、振り返ったときに、児童自身が対話活動後の成果が分かるようにしていきたい。

（2） 学習形態の工夫

教師が意図的にグループ編成や学習形態を設定し、学習を行っていく。グループ編成においては、習熟度を考慮し、学び合いができるように編成していく。また、学習形態では、ペア、グループ、学級全体等が考えられる。また、ICT機器やシンキングツール等の対話の手段も児童自身が選択できるようにしていきたい。

○ 既習事項を生かせるようにする工夫

「要旨を捉える」ことは、５年生で初めて学習する。そのため、既習事項である「要約」や「要点」との違いに気付いたり生かしたりできるように、教師が書いたモデル文を提示し、筆者の主張が入っていることや要点を取り入れることに気付かせていきたい。

○ 語彙を豊かにするための工夫

日常活動において、語彙を獲得する際に、量を獲得するだけでなく、派生語や類義語、対義語など、言葉を分類するなどして獲得できるようにしていきたい。そうすることで、文章中の言葉１つ１つをより吟味して読み取ったり、自分の考えを表現しやすくなったりすることにつなげたい。

5 単元計画と評価計画（全７時間）

次	時	目標	学習内容	◆評価規準【評価方法】 ・留意点☆支援
短時間学習			1 あやとりの写真から連想する物を挙げる。 2 「見立てる」の意味を調べたり、題名について考えたことを交流したりする。	
1	1	学習課題を把握し、見通しをもちながら、学習計画をたてることができる。	1 説明的文章の既習事項を確認する。 2 学習目標を確認する。 学習課題を確認し、学習計画を立てよう。 3 「アップとルーズ」の要旨文（モデル文）から「要旨」の言葉や必要な要素を考える。 4 単元の課題を確認する。 文章の要旨を捉え、文章に対する自分の考えをブログで発信しよう。 5 学習計画を立てる。 6 本時の学習の振り返りをする。	・要旨に必要な要素 ○筆者の主張 ○文章の話題 ○大切な要点 ・「要約」「要点」との違いを明確にする。 →用途なども確認する。
家庭学習			1 「見立てる」を音読する。 2 初読の感想を「スクールタクト」に打ち込む。 3 感想の交流をする。（コメントし合う）	・初読の感想の視点： ①文章を読んで考えたこと ②疑問点

2	2	「見立てる」の文章の構成や要点を押さえ、要旨に必要な文章を読み取ることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 「見立てる」の要旨を捉えるために、文章を読み取ろう。 3　事例の数やどんな事例なのか事例の要点をまとめる。（要旨の捉え方①、②、③） まとめ方 ①　付箋紙に段落ごとの要点（要約）をまとめる。 ②　事例の数を確認する。 4　筆者の主張を見付ける。（③、④） 5　主張や事例の要点について簡単な文章構成図を作成しながら学級全体で交流する。 6　本時の振り返りをする。	◆イ－① 「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 【ノートの記述の分析】 既習事項を基に、筆者の主張を見付けることができているか。段落の要点を基に簡単な文章構成図を作成することができるか。
	3	「見立てる」の文章の要旨を捉え、文章に対する自分の考えをまとめることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 「見立てる」の要旨をまとめ、文章に対する自分の考えをまとめよう。 3　モデル文を基に、「見立てる」の文章の要旨と筆者の考えに対する自分の考えを「スクールタクト」に100字以内にまとめる。 要旨の捉え方 ①意味段落をまとめる②段落の関係を捉える ③主張が書かれている段落を見付ける ④主張を見付ける ⑤文章をまとめる 4　学級全体で読み合い、コメントをし合う。 5　コメントを基に、自分の考えを見直す。 6　本時の振り返りをする。	◆イ－② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。 【スクールタクトの記述の分析、コメントの内容】 ・「要旨の要素」が文章に含まれているか。 ・字数に沿うために、言葉を吟味しているか。
家庭学習			1　「見立てる」の要旨と文章に対する考えを「feel note」に記載する。 2　言葉の意味が分かること」を音読する。 3 初読の感想を「スクールタクト」に打ち込む。 4　感想を交流する。（コメントし合う）	・初読の感想の視点： ①　文章を読んで考えたこと ②　疑問点

3	4 5	「言葉の意味が分かること」の文章の構成や要点を押さえ、要旨に必要な文章を読み取ることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 「言葉の意味が分かること」の要旨を捉えるために、文章を読み取ろう。 3　事例の数やどんな事例なのか事例の要点をまとめる。 4　筆者の主張を見付ける。 5　主張や事例の小見出しを活用し簡単な文章構成図を作成しながら学級全体で交流する。 6　本時の振り返りをする。	◆ア－① 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 【ノートの記述の分析】 既習事項を基に、筆者の主張を見付けることができているか。段落の要点を基に簡単な文章構成図を作成することができるか。
	6 本時	「言葉の意味が分かること」の文章の要旨を捉え、文章にまとめることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 「言葉の意味が分かること」の要旨を文章にまとめよう。 3　モデル文や「見立てる」の要旨を基に、「言葉の意味が分かること」の要旨を「スクールタクト」に150字以内でまとめる。 4　学級全体で読み合い、コメントをし合う。 5　コメントを基に、自分の考えを見直す。 6　本時の振り返りをする。	◆イ－① 「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 【スクールタクトの記述の分析】 ・「要旨の要素」が文章に含まれているか。 ・字数に沿うために、言葉を吟味しているか。
	7	「言葉の意味が分かること」の文章に対する自分の考えをまとめることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 「言葉の意味が分かること」の文章に対する自分の考えをまとめよう。 3　モデル文を基に、「言葉の意味が分かること」の文章の要旨と筆者の考えに対する自分の考えを「スクールタクト」にまとめる。 4　学級全体で読み合い、コメントをし合う。 5　コメントを基に、自分の考えを見直す。 6　本時の振り返りをする。	◆ウ－① 進んで、既習事項を活用しながら文章の要旨を捉え、学習の見通しをもって、筆者の考えに対する自分の考えをブログに発信しようとしている。 【スクールタクトやfeel noteの記述の分析】 ・要旨を基に、自分の考えを言葉を選んだり自分の経験等をもちいて記述したりしているか。
家庭学習			1　「言葉の意味が分かること」の要旨と文章に対する考えを「feel note」に記載する。 2　「言葉の意味が分かること」を音読する。 3　初読の感想を「スクールタクト」に打ち込む。	

6　本時の展開（6/7）

（1）　ねらい

「言葉の意味が分かること」の文章の要旨を捉え、文章にまとめることができる。

（2）　本時の展開

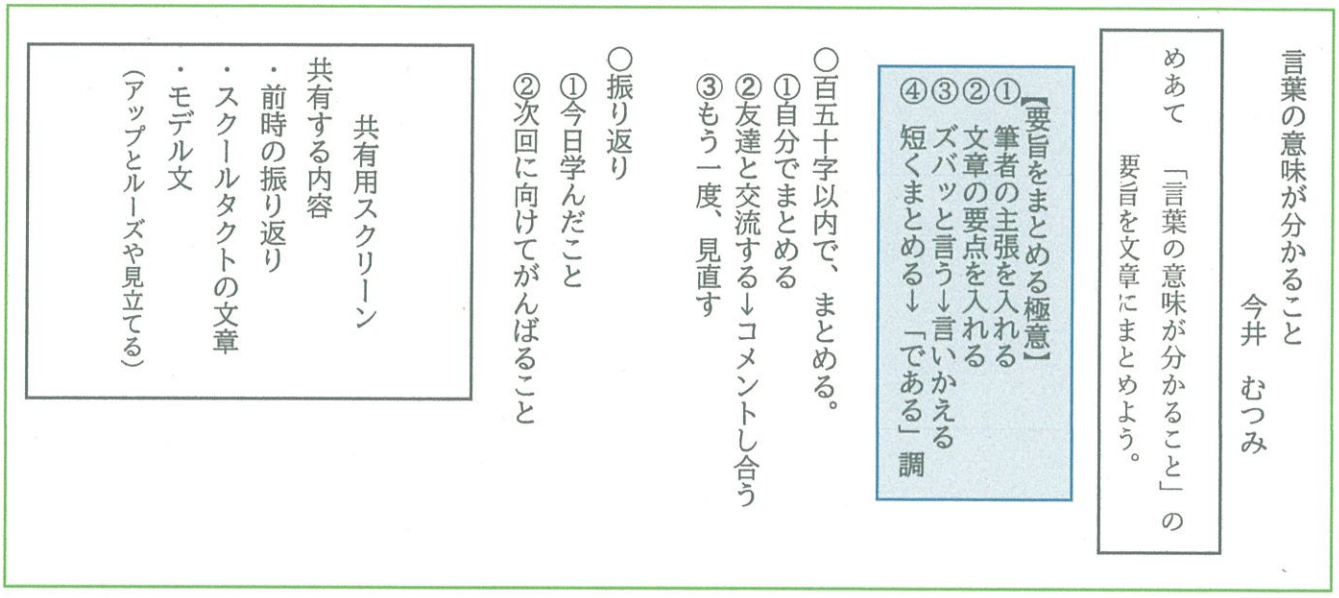
時間	学習内容 T 教師の発問 C 予想される児童の反応	・指導事項 ◎豊かな表現を見取る視点	◆評価規準 ☆支援 ・指導上の留意点
導入	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 「言葉の意味が分かること」の要旨を文章にまとめよう。		・要旨をまとめることに意欲的な意見や既習事項を活かしている意見を取り上げる。
展開	3　モデル文や「見立てる」の要旨を基に、「言葉の意味が分かること」の要旨を「スクールタクト」にまとめる。 T：前回の授業で、読み取ったことを基に、「言葉の意味が分かること」の要旨を「スクールタクト」にまとめてみましょう。 C：主張は入れよう。 4　学級全体で読み合い、コメントをし合う T:「スクールタクト」で共有します。他の人の文章を読んで、自分でいいなと思うところにコメントしてみましょう。 5　コメントを基に、自分の考えを見直す。 T:他の人の意見を取り入れながら、自分の文章を再度、見直しましょう。	◎前時でまとめた叙述を使って、まとめようとしているか 要旨の捉え方 ①意味段落をまとめる ②段落の関係を捉える ③主張が書かれている段落を見付ける ④主張を見付ける ⑤文章をまとめる ◎他者の意見を取り入れたり、文章を書き変えたりして自分の言葉で要旨をまとめようとしている。	☆モデル文や「見立てる」を掲示し、自分で振り返られるようにする。 ☆C児童には、必要な文章に線を引いたヒントカードを渡し、文章化できるようにしておく ☆B児童には、自力でまとめることを促し、個別指導等で支援する。 ☆A児童には、要旨の作成過程を説明できるような準備を促す。 ・より筆者の考えが伝わる要旨を探すように促す。 ◆イ－① 「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 【スクールタクトの記述の分析】 ・「要旨の要素」が文章に含まれているか。 ・字数に沿うために、言葉を意味しているか。
まとめ	6　本時の振り返りをする。		・視点 「学んだこと」「次回に向けて」

（3）授業観察の視点

・モデル文や「要旨の捉え方」を教師側が活用することで、児童は要旨を捉えることの手立てとして有効だったか。

・スクールタクトによる共有は、要旨の言葉を吟味することの手立てとして有効だったか。

7　板書計画



8　本時の振り返り

（1）　本時の概要

本時は、第１時で児童と教師でまとめた「要旨をまとめる極意」と、第３時でまとめた「見立てる」の要旨を基に、「言葉の意味が分かること」の文章を要旨にまとめた。

児童は、前時までの学習で、筆者の主張は１、11、12 段落に書かれていることや各段落の要点を活用し、要旨の文章としてまとめた。

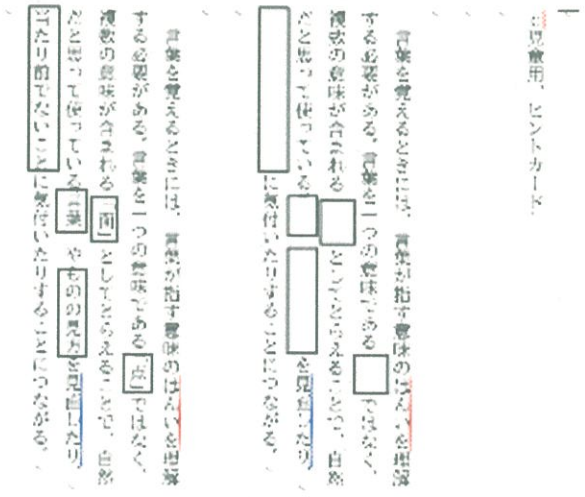
また、「スクールタクト」を活用し、個人でまとめる時間（作品との対話）、他者の意見と比べる時間（他者との対話）、再度自分の要旨を見直す時間を設定し、取り組んだ。

本学級３２名中３０名は、授業時間に要旨をまとめることができていた。

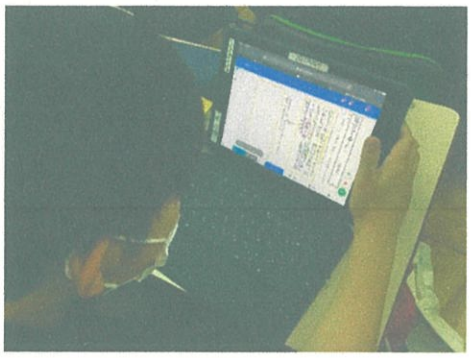
（2）　実践の振り返り

①　モデル文や「要旨の捉え方（要旨をまとめる極意）」を活用した要旨の捉え

本時を迎えるまでに、「見立てる」に比べ、「言葉の意味が分かること」における筆者の主張や各段落や要点を捉えることに児童につま　ずきが見られた。そのため、本時では、モデル文や「要旨の捉え方（要旨をまとめる極意）」の他に、ヒントカードを用意した。（写真参照）習熟度別にヒントカードを活用し、要旨を捉えるために必要な言葉を使いながら、モデル文を参考に要旨を捉えることができた。



② 「スクールタクト」による要旨に必要な言葉の吟味



目指す児童像を達成するために、文章を読み取ったことを基に、必要な言葉や文章を吟味することを意図した。教師は、本時の中で、意図的に「4つの対話」を設定し、児童は活動を進めていく中で吟味していくことをねらいとした。

第一段階としては、「作品との対話」である。既習事項(モデル文や「要旨の捉え方(要旨をまとめる極意)」)を基に、要旨をまとめた。児童は、要旨に必要な言葉や文を選んだ。第二段階は、「他者との対話」である。「スクールタクト」の機能である「共有機能」を生かし、他者の書いた要旨と見比べ、コメントし合った。児童は、他者の要旨文を見る際に、自分の文章には使われていない言葉や文を見付けることで、吟味することにつながる。また、他者の文章を読むことで、自分の要旨文に自信やより明確な根拠をもつことにつながると考えた。第三段階は、「自分自身との対話」である。自分の要旨文を他者からのコメントや他者の要旨文を基に、再度見直すこと(考えの再構築)につなげた。

以上、三段階を踏まえて、「言葉を吟味すること」を実現しようとした。児童の振り返りからは、「友達のコメントにより間違えに気付けた。」「友達の文章を参考にして、文章を作ることができた」など、教師がねらっていた効果を得られた児童がいたことも分かった。

(3) 協議内容

【成果】

・児童が学習計画を見ながら、本時のやることを理解しながら、学習を進めていた。
・「スクールタクト」は、苦手な児童が他者の意見を参考にするときによい手立てとなっていた。
・コロナ禍においてタブレットの活用(ICT)は、大きな意義があると感じた。
・ヒントカードが習熟度別に渡していたため、ほとんどの児童が自分の考えを書くことができていた。
・前時の振り返りから授業を始めることで、前時のつながりをもちながら、児童が学習に取り組めていた。
・児童によっては、要点を見比べたり、段落を見比べたりして、言葉を吟味しているようだった。
・教室内の既習事項の掲示物が有効だった。

【改善点】

・要旨を個人がまとめたところで終わってしまったので、全体共有の確認が必要だった。
・コメントをする視点は示していたが、自分の要旨文との比較から考えたことをコメントできるとよかった。
・単元構成にもよるが、要旨をまとめる時間と共有してコメントし合う時間で分けてもよかった。
・既習事項が身に付いていない児童にとっては、難しい活動だった。(ヒントカードが有効だった)

(1)　指導講評(zoom)

・「要点」とは何かを教師自身が理解しておくことが大事である。Bレベルはどの言葉をつかったらいいかを児童が判断していること。(本時では、「要旨をまとめる極意」の「ズバっと言う」の中身が重要だった。)

説明的文章では、接続詞に着目させる。これは、論の進め方、構図を知るために必要である。また、指示語使ってまとめていくのである。筆者が伝えたいことをまとめていくことが大事である。その大事な言葉をつなぎ合わせていくことが「要旨をまとめる」ことになる。(本時の場合は、1、11、12 段落に共通する言葉や言い換えている言葉。その他は事例)そのためには、要点や文章構成図を全体で共有しておく必要があった。(教室掲示)支援シートの内容(大事の言葉)を最初に出させるとよかった。(短冊などで出させる)

・「要旨」に必要な「大事な言葉」を全体共有する必要があった。文章が同じ必要はないが、児童は自分たちが作った要旨文を確認するとより次の学習につながる。そして、高学年で、文章中の「大事な言葉」を見付けられるように、中学年は段落の要点をまとめたり低学年では、大事な言葉に着目させたりする系統的な学びが必要なのである。高学年だけで、学ばせることには限界がある。

・教師側が、9月を見据え6月の単元で身に付ける力を考えていることがよかった。児童は、1回の学習だけでは、力が身に付いていかない。そこで、年間を通して何度も繰り返すからこそ身に付いていくのである。そのため、日常活動に今回の学習がつながっていることがよかった。

・タブレットの入力は、3年生の「ローマ字」の学習を意識的に指導、実践していくことで身に付けさせていくことが大事である。さらに、低学年は、母音を意識させることが大切である。そうすることで、子音と母音の組み合わせが理解できる。

高学年　分科会（第６学年）

麻布小学校教育目標　　元気な子　やさしい子　考える子

〈研究主題〉
「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」
～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～

高学年分科会として目指す児童像
「言葉を吟味し、進んで伝え合い、思いや考えをまとめたり広げたりする児童」

高学年児童の実態	高学年分科会　教師の願い
・「要旨の把握」については、４割が初読で把握し、４割が授業を通して把握することができる。２割の児童は文章を読むこと自体に困難さが見られる。 ・「考えをまとめる力」については、自分の意見をもち、まとめられる児童は、７割以上いる。 ・課題をグループで解決したり、意見交流したりすることは活発に行っているが、学習して分かったことや友達の意見を基に、再考することに課題が見られる。	・既習事項を活用し、児童が「分からないこと」を解決できるようにしたい。 ・学習で分かったことや他者の意見、教師によるコメントから、自分の意見を考え直し、より納得して表現したり、より自分の考えに合った言葉を吟味したりし、考えを広げていけるようにしたい。

主体的に学び合う姿	豊かに表現する姿	カリキュラム・マネジメントの視点
・言葉に着目して文章を読み、考えをもつ。 ・他者の意見を聞いて、自分の考えを広げ、再構築した考えを伝え合おうとする。	・友達の考えをしり、自分の意見を深めたり再構築したりできる。	**〈家庭科との関連〉** ・生活時間を工夫して、有効利用する活動につなげる。 **〈特別活動との関連〉** ・委員会活動、クラブ活動、たてわり班活動で計画的に運営をしていくことに生かしていく。 **〈地域との連携〉** ・地域図書館から関連図書を借り、学習内容を広げる。
手立て１ **単元の課題設定** 実生活につながる単元課題の設定を行う。本単元を通して、自分の生活を振り返り、今後に生かしていけるような課題設定にする。 **手立て２** **振り返りの充実（自分との対話）** 毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として「分かったこと」「分からなかったことや疑問に思ったこと」の２つを挙げ、自分の学習について振り返る機会を設ける。	**手立て３** **意見をもつための工夫（４つの対話）** 対話の目的や対話活動における視点を教師側から提示したり児童同士が交流したりすることで一人一人が意見をもてるようにする。 **手立て４** **既習事項を生かすための工夫** これまで学習した学習用語や情報をまとめる方法を教室内に掲示しておく。新しい学習が始まる時に、児童が学習課題を理解した上で、「どのように学ぶのか」を選択できるようにする。	

※朝学習やモジュールの時間などに、継続的に「言葉調べ」を行ったり、それらの言葉を用いて「スピーチ活動」を行ったりしていく。

第６学年　国語科学習指導案

日　時　令和３年５月６日（木）５校時
対　象　第６学年２組　２１名
授業者　落合　ひかる

研究主題
主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成
～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～

高学年分科会の目指す児童像
「言葉を吟味し、進んで伝え合い、思いや考えをまとめたり広げたりする児童」

１　単元名　「筆者の考えを読み取り、『時間との付き合い方』について自分の考えを発表しよう。」
教材名　「時計の時間と心の時間」　（光村図書　第６学年）

２　単元の目標と評価規準

（１）単元の目標
・原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。　【知－（２）ア】
・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。　【思Ｃ－（１）ア】
・文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。　【思Ｃ－（１）オ】
・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとすることができる。　【主】

（２）単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　原因と結果など情報と情報との関係について理解している。【知－（２）ア】	①　「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。　【思Ｃ－（１）ア】 ②　「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。　【思Ｃ－（１）オ】	①　進んで既習事項を活用しながら文章を読み、学習の見通しをもちながら、「時間との付き合い方」に対する考えを発表している。

3　本単元について

（1）　単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成２９年告示）国語編　第５学年及び第６学年に記載されている次のことを扱っている。【学習指導要領から抜粋】

［知識及び技能］ （２）ア　原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ［思考力、判断力、表現力等］ Ｃ　読むこと （１）ア　事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 オ　文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

本単元で児童に身に付けさせたい力は、以下の２つである。

① 文章の主張とそれを支える事例を基に要旨を把握する力

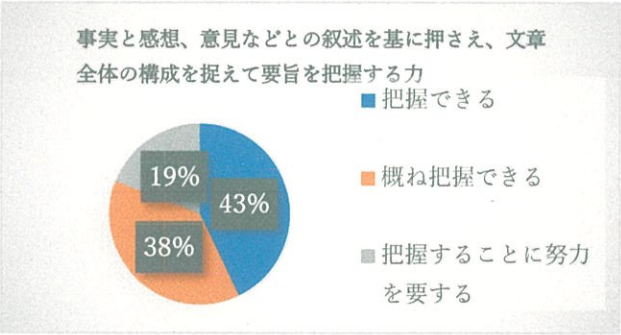
② 筆者の考えに対する自分の考えをまとめる力

筆者が、どのような事実を理由や事例として挙げているのか、どのような意見をもっているのかなどに着目して読ませていく。また、筆者の考えと自分の経験と照らし合わせながら、自分の考えをもたせ、「自分の時間との付き合い方」について、伝え合う言語活動を設定した。筆者の「時間」についての考え方を読み取る学習を通して、改めて自分の時間との付き合い方と向き合い、これからの自分の生活について考えるきっかけとしたい。

（2）　児童観

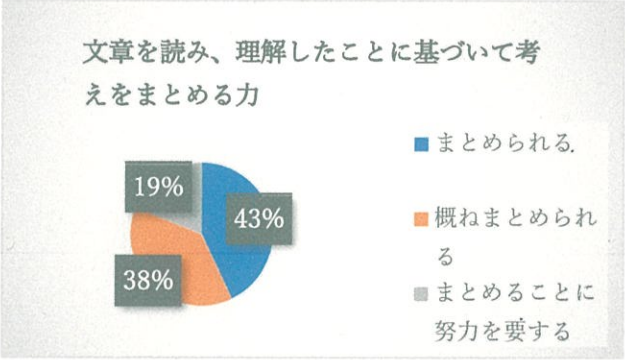
本学級の児童は、５年生の説明的文章「見立てる/言葉の意味が分かること」の学習で、事例・理由や論の展開に着目しながら読むことで「要旨」の捉え方を学んだ。また、事例の「結果」だけでなく、それらの「原因」と結びつけながら読むことで、筆者の主張がより分かりやすくなることに気付くことができた。筆者の考えに対して自分の考えをまとめる活動も行った。

また、「想像力のスイッチを入れよう」の学習では、事例と意見の関係に加えて、それらと自分の経験と結び付けて読むことで新しい考え方に出会うことに気付いた。



左記の結果から「事実と感想、意見などとの叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する力」については、４割が初読で文章の構成を把握し、４割が授業を進めていくなかで文章の構成を理解することができる。２割の児童は文章を読むこと自体に困難さが見られる。

本学習では、既習事項を教室内に常時掲示し活用できるようにしたり、「４つの対話」を意図的に学習の中に取り入れたりしていくことで、児童が



「分からないこと」を解決していくような手立てを講じる。

「文章を読み、理解したことに基づいて考えをまとめる力」については、自分の意見をもち、まとめられる児童は、７割以上いる。授業内での行動観察や成果物の分析からは、１つの課題をグループ活動等で解決したり、意見交流したりすることは活発に行っていることが分かる。しかし、学習当初の文章に対する考えを学習して分かったことや友達の意見を基に、再考することに課題が見られる。

本学習では、「４つの対話」を通して、学習で分かったことや他者の意見、教師によるコメントから、自分の意見を考え直す機会を設けていく。自分の考えをより納得して表現したり、より自分の考えに合った言葉を吟味する時間を重視することで、自分の考えが広がったり強まったり深まったりするおもしろさを味わわせたい。また、毎時間の振り返りで自分の変化を認識できるようにさせていきたい。

（３） 教材観

本教材の構成は、「初め」と「終わり」で筆者の考えを述べている双括型の論説文である。

「中」の部分では、筆者が「初め」で述べた主張を支える事例が４つ書かれている。それぞれの段落は「…によって『心の時間』の進み方が変わる」という一文からはじまっていて、何の事例について書かれているのか比較的捉えやすい文章になっている。その後は、実験結果を示したり読み手の経験を想起させたりしながら事例に説得力をもたせた内容になっている。「楽しいことは時間が速い」といった共感する児童が多いと考えられる事例や、「刺激が多いと時間は遅くなる」といった児童によって身近な題材や事例であることから、自分の考えをもちやすい教材である。また、「みなさんは…ありませんか」や「…軽くたたいてみてください」など、筆者が読み手を引き付け、より共感的に文章を読み進められるのも、この教材のおもしろさである。

文章を読むことをきっかけに、自らの経験を呼び起こし、自分の生活を見直し生かす経験をさせたい。

（4）学習材の分析

〈練習〉「笑うから楽しい」…双括型

	初め	中		終わり
段落	1	2	3	4
内容	話題 私たちの体の動きと心の動きは密接に関係している。 主張 体を動かすことで、心を動かすこともできる。	事例① 私たちの脳は、体の動きを読み取って、それに合わせた心の動きを呼び起こしていること。 （理解を助ける具体例）	事例② 表情によって呼吸が変化し、脳内の血液温度が変わり、私たちの心の動きを決めること。 （科学的な事実）	まとめ・主張 私たちの体と心は、深く関わり合っている。心の動きが体に表れるのと同様に、体の動きも心の動きに働きかける。 呼びかけ 何かいやなことがあったときは、鏡の前でにっこりえがおを作ってみるのもよいかもしれない。

要旨…「私たちの体と心は密接に関係している。楽しいという心の動きが、えがおという体の動きに表れるのと同様に、体の動きも心の動きに働きかける。体の動きを脳が読み取ったり、呼吸によって脳内の血液温度が変わったりして心の動きを決定しているのだ。いやなことがあったときは、えがおを作ってみるとよいかもしれない。」１４７字

「時計の時間と心の時間」…双括型

	初め	中						終わり
段落	1	2	3	4	5	6	7	8
内容	話題 私たちは毎日、時間と付き合って生活している。 主張 「時間」には、「時計の時間」と「心の時間」があり、「心の時間」に目を向けることが、時間と付き合っていくうえで、とても重要である。	用語の定義 「時計の時間」とは、いつ、どこで、誰が計っても同じもの。 「心の時間」とは体感している時間。いつ、どこで、誰でも同じとはいえない。 「心の時間」の特性 事柄の影響を受けて進み方が変わったり、人によって感覚が違ったりする。	特性の事例① その人がそのとき行っていることをどう感じているかによって進み方が変わる。楽しい↓短い 嫌・つまらない↓長い	特性の事例② 一日の時間帯によっても進み方が変わる。朝・夜の方が速い	特性の事例③ 身の回りの環境（受ける刺激の多さ）によっても進み方が変わる。 刺激多い↓遅い 刺激少ない↓速い	特性の事例④ 人によって感覚が異なる。	まとめ ・「時計の時間」がいかに不可欠なものである。 ・「時計の時間」と「心の時間」には、ずれが生じること。	主張 私たちに必要なのは、「心の時間」を頭に入れて、「時計の時間」を道具として使うという、「時間」と付き合う知恵である。

※おさえたいキーワード、要点

要旨…「私たちがふだん当たり前のように付き合っている「時間」には「時計の時間」と「心の時間」という性質のちがう２つの時間がある。「心の時間」は、心身の状態や身の回りの環境などによって進み方が異なり、だれにとっても同じものとはいえない。ちがう「心の時間」の感覚をもった

私たちが社会で関わることを可能にしているのは「時計の時間」なのだ。しかし、どうしてもずれが生じてしまう「時計の時間」と「心の時間」、他者との「心の時間」の違いとうまく付き合っていくために、私たちは「心の時間」を頭に入れて、「時計の時間」を道具として使う必要がある。」（２６３字）

4　研究主題に迫るための手立て

○　実生活につながる単元課題の設定

普段自分たちが付き合っている「時間」の使い方を、「時間」の種類やそれらの様々な特性を知る学習を生かして、「筆者の考えを読み取り、『時間との付き合い方』についての自分の考えを発表しよう」という単元課題を設定する。「時間との付き合い方」について自分の考えをもつ段階が、児童にとって自分の行動や「時間」に対する認識を筆者の考えと照らし合わせて考える機会になる。この学習で考えた自分の時間との付き合い方は、今後の実生活の行動指針にもなり得る。つまり、児童は、本教材との出会いにより、文章中の考えが実生活に生かすことできるという経験ができる。この経験を重ねることで、日常的な読書活動に対する意欲にも繋がるようにしていきたい。

○　振り返りの充実

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として「分かったこと」「分からなかったことや疑問に思ったこと」の２つを挙げ、自分の学習について振り返る機会を設ける。また、児童が自分の学びを進めようとしている記録や自分の言葉で表現しようとする姿に教師のコメント等で価値付けしたり、児童の振り返りを全体の前で取り上げたりすることで学習の積み重ねを児童が実感できるようになると考える。

また、学習に対して児童自身が進められるようにするため、児童の学習状況について、指導・助言を繰り返し、成功体験を味わわせたい。

○　対話の視点の明確化

本学級の児童は、対話活動において、お互いの意見を受け入れることは自然とできるが、どのような内容であっても肯定してしまう傾向があり、なかなか個人の考えの広がりや深まりが見られない。そこで４つの対話（「作品との対話」「教師との対話」「自分自身との対話」「友達との対話」）を意図的に単元の中に展開していく際に、対話の目的や対話活動における視点を教師側から提示したり児童と考えたりすることで、児童自身が対話活動後の成果が分かるようにしていきたい。

○　既習事項を生かせるようにする工夫

これまで学習をしてきた学習用語や読み方、情報をまとめる方法（シンキングツール）を児童が常に教室内の見える位置に掲示しておく。新しい学習が始まる時に、児童が学習課題を理解した上で、「どのように学ぶのか」を選択できるようにする。それらを用いて新しい課題を解決する方法を自ら探し出し、試行錯誤できるようにする。

○　語彙を豊かにするための工夫

語彙を獲得する際に、量を獲得するだけでなく、派生語や類義語、対義語など、言葉を分類する

などして獲得できるようにしていきたい。そうすることで、文章中の言葉１つ１つをより吟味して読み取ったり、自分の考えを表現しやすくなったりすることにつなげたい。

そのために、毎日、朝学習やモジュールの時間などに、「言葉調べ」を行ったり、それらの言葉を用いて「スピーチ活動」を行ったりして語彙のインプット・アウトプットできる機会を継続的に設け取り組んでいく。

5　単元計画と評価計画（全７時間）

次	時	目標	学習内容	◆評価規準【評価方法】 ・留意点☆支援
1	1	学習課題を把握し、学習計画を立てることができる。	1　題名からどんな文章が書かれているか予想する。 2　本時の目標を確認する。 初めて読んだ感想を書き、学習計画を立てよう。 3　教師の範読（「時計の時間と心の時間」）を聞き、感想を書く。　（作品との対話） 4　本単元の学習課題を共有する。 筆者の考えを読み取り、「時間との付き合い方」について自分の考えを発表しよう。 5　学習計画を立てる。 6　本時の振り返りをする。 （自分自身との対話）	・「文章に対して思ったこと（賛成・反対など）」「疑問に思ったこと」の視点で感想を書かせる。 ・既習事項を確認しながら、計画を立てさせる。
	2 3	主張と事例の関係に着目しながら「笑うから楽しい」の要旨をとらえ、それに対しての自分の考えをもつことができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 「笑うから楽しい」を分析し、自分の考えをまとめよう。 3　説明的文章を読むときのポイントについて既習事項を確認する。 4　「笑うから楽しい」を、ポイントに沿ってグループで分析する。 （作品との対話、友達との対話） Ａフィッシュボーン図Ｂクラゲチャート図Ｃステップチャート Ｄその他	・「文章構成」「主張」「接続詞」「キーワード・要点」「図表」「事例」「自分の経験と結び付ける」「論じ方（論の進め方）」 ・最終的に要旨を捉えて、考えをもつことをゴールとして意識させる。 ・ワークシートとして、「Ａフィッシュボーン図」「Ｂクラ

			5　グループでの分析結果を全体で共有する。 6　分析結果を基に、要旨を150字程度でまとめる。　（作品との対話） 7　要旨を基に、自分の考えを書く。 （自分自身との対話） 8　全体で共有する。 9　本時の振り返りをする。	ゲチャート図」「Cステップチャート」を用意する。 ・主張とそれを支える事例との関係性について全体で確認する。 ・要旨のまとめ方について確認する。 ☆自力で要旨をまとめられない児童についてはヒントカードを用意する。 ◆イ－② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。 【ノートの記述分析 ➜要旨を基に筆者の主張と正対した自分の考えが書かれているか】
2	4		1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 「時計の時間と心の時間」を分析しよう。 3　説明的文章を読むときのポイントについて既習事項を確認する。 4　「時計の時間と心の時間」を、ポイントに沿って個人で分析する。（作品との対話） 5　グループで個人の分析を共有し検討する。 （作品との対話、友達との対話） 6　グループで共有したことを基に、個人で分析をまとめる。　（作品との対話） 7　分析結果を基に、要旨を150字程度でまとめる。　（作品との対話） 8　要旨を基に、自分の考えを書く。	・最終的に要旨を捉えて、考えをもつことをゴールとして意識させる。 ・ワークシートとして、「Aフィッシュボーン図」「Bクラゲチャート図」「Cステップチャート」を用意する。 ☆読み取ることが難しい児童に対しては、ヒントカードを提示する。 ◆ア－① 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。

			9　筆者の論じ方について、個人の考えをまとめる。（作品との対話） １０　本時の振り返りをする。	【ノート、ワークシートの記述分析 →文章の内容から「主張」「事例」を捉えられているか】
	5 本時	主張と事例の関係に着目しながら、筆者の論の進め方や意図を考えることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 「時計の時間と心の時間」の分析を、グループで話し合おう。 3　読み取る視点を確認する。 ・どんな表現を使っているのか。 ・どんな順序で書かれているか。 ・どんな事例があって、どのように取り上げているか。 4　グループで個人の分析を共有し検討する。（作品との対話、友達との対話） 5　グループで共有したことを基に、個人で分析をまとめる。（作品との対話） 6　分析結果を基に、要旨を 150 字程度でまとめる。（作品との対話） 7　要旨を基に、自分の考えを書く。 8　筆者の論じ方について、個人の考えをまとめる。（作品との対話） 9　筆者の論じ方について、グループで意見を交流する。10 分 １０　個人で再度検討する。10 分 １１　スクールタクトで全体共有する。 １２　本時の振り返りをする。	◆イ－② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることがしている。【ノート、ワークシートの記述分析 →呼びかけなどの文章表現に着目しているか ➜事例を取り上げる順序の意図に着目しているか ➜事例の内容の意図に着目しているか】 ・早く終わった児童はスクールタクトで全体共有をし、意見を交流させる。
	6	「時計の時間と心の時間」の要旨を捉え、筆者の主張を基に「自分の時間の付き合い方」につい	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 「時計の時間と心の時間」の要旨をとらえ、自分の「時間との付き合い方」考えをまとめよう。 3　要旨（既習事項）と考えのまとめ方、を確認する。	◆イ－① 「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 【ワーク―シートの記述分析 →要点やキーワードを踏まえて要旨を押さえられているか

		ての考えをまとめることができる	①筆者の主張に対しての考え ②なぜそう思ったのか。自分の経験を例に説明する。 ③今の時間の使い方でよりよくしたいところを考える。 ④どの事例を参考に、どう変えていくか考える。 4　要旨（250字程度）と考えをまとめる。 （作品との対話） 5　スクールタクトで共有し、意見を交流する。 6　本時の振り返りをする。	➜筆者の主張や考えを踏まえて、自分の経験を結び合わせて自分の考えをまとめているか】
3	7	「時間との付き合い方」についての考えを発表し合って、学習を振り返ることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 筆者の考えに対する自分の考えを発表し合おう。 3　自分の「時間との付き合い方」についての考えを発表する。 4　発表し合って考えたことについて感想をかく。 5　本時の振り返りをする。	◆ウー① 進んで既習事項を活用しながら読み、学習の見通しをもちながら、「時間との付き合い方」に対する考えを発表しようとしている。【活動の様子→筆者の考えを自分ごととして捉えて生かそうとしているか】

6　本時の展開（5/7）

（1）　ねらい

主張と事例の関係に着目しながら、筆者の論の進め方や意図を考えることができる。

（2）　本時の展開

時間	学習内容 T 教師の発問 C 予想される児童の反応	・指導事項 ◎豊かな表現を見取る視点	◆評価規準 ☆支援 ・指導上の留意点
導入	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 筆者の論じ方について、グループで話し合おう。		
展開	3　読み取る視点を確認する。 ・どんな表現を使っているのか。 ・どんな順序で書かれているか。 ・どんな事例があって、どのように取り上げているか。		◆イー② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。【ノート、ワークシートの記述分析

	4　筆者の論じ方について、グループで意見を交流する。10分 5　個人で再度検討する。10分 6　スクールタクトで全体共有する。		→呼びかけなどの文章表現に着目しているか →事例を取り上げる順序の意図に着目しているか →事例の内容の意図に着目しているか】 ・早く終わった児童はスクールタクトで全体共有をし、意見を交流させる。
まとめ	7　本時の振り返りをする。		

（3）　授業観察の視点

・シンキングツールなどの既習事項は、自分の考えを整理するのに有効な手段であったか。

・読み取る視点をも基に、文章を読み取り筆者の論じ方をとらえることができていたか。

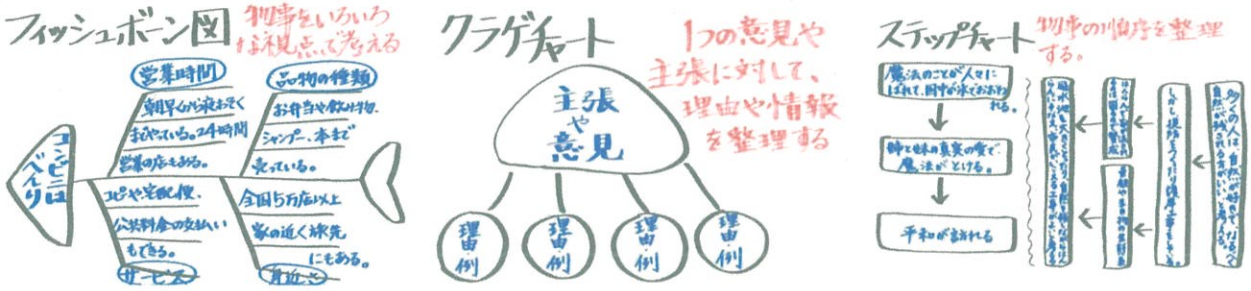
7　板書計画

時計の時間と心の時間
一川誠

めあて
筆者の論じ方について、グループで話し合おう。

☆読み取る視点
・どんな表現を使っているのか。
・どんな順序で書かれているか。
・どんな事例があって、どのように取り上げているか。

＊予想されるシンキングツール



8　本時の振り返り

（1）　本時の概要

本時は、第２・３時で「笑うから楽しい」の文の構造、論じ方をまとめ、そこでまとめたことを生かし、第４時から「時計の時間と心の時間」の論じ方をまとめた。緊急事態宣言により対話活動ができなかったため、対話部分を省略したり全体共有に変更したりしながら行った。

児童は、筆者の主張や文章構成をおさえたうえで、どのような工夫をして読者に主張を説得させようとしているのかについて、シンキングツールにまとめた。シンキングツールは今回の「時計の時間と心の時間」の文章構造の特徴から教師側がいくつか提示し、そこから自分たちでまとめやすいもの

を選んで読み取りを行い、その後全体共有した。約７、８割の児童が自分なりに筆者の論じ方をまとめることができた。

（２） 実践の振り返り

① 既習事項を生かせるような工夫

国語の文章の読み取りにおいては、児童が「これまでに何を学んだのか」「どのような方法を用いれば課題が解決するのか」などの学びの蓄積の自覚が、他教科と比較し低い傾向があった。ゆえに、単元の初めにこれまで学んだことを共有することに加えて、自然と既習事項を復習できるような教室環境にすることで、児童ができるだけ自分自身で課題解決の糸口を見つけることができるようにした。そうすることによって、児童はどのような観点で読み取っていくことが大切なのかを自分で見つけることができたり、他者からもらったアドバイスによって教師の補助がなくても教え合って読み取りを進めたりすることができた。

② シンキングツールを利用した読み取り

５年生までは、自力解決の時間は設けられていたが、読み取る方法は全体で共通だった。小学校最終学年として、これまでの学びを生かし自分でより方法を選択し読み進められるように、多種多様のシンキングツールを示し自由に用いることができるようにした。また、習熟度によっては、読み取ってほしいことのヒントが記載してある量を調整したプリントを配布することで、自力解決ができる児童が格段に増えた。

（３） 成果と課題

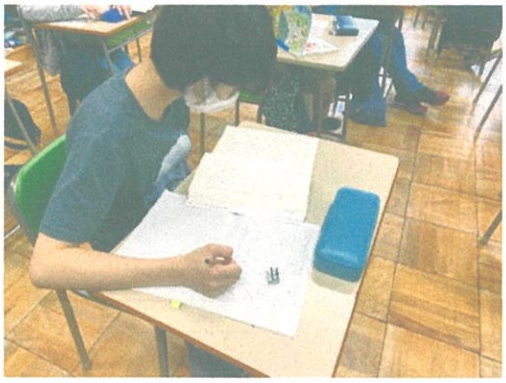
※緊急事態宣言により、協議会が出来なかったため、分科会としての成果と課題を示す。

【成果】

・既習事項や大事なポイントが掲示されていることにより、主張や文章構成を自分で見付けられている児童が多かった。
・習熟度別の手立てがうたれていたことによって、ほとんどの児童が困らずに活動できていた。
・ヒントカード（手立て）に頼らず、自分で読み取りたいという意志をもつ児童が多かった。

【課題】

・シンキングツールをそれぞれが使いやすいものを選んだことによって、まとめ方が少しずつ変わっていたので、まとめる視点をより明確にし、共有の仕方をより丁寧に示す必要があった。
・本時では、自分自身の経験や知識と関連付ける時間がほぼとれなかったため、次時の自分の考えをまとめることにつながりにくかった。



第3章
国語科年間指導計画・国語科系統指導表
（説明的文章）

国語科年間指導計画

（光村図書）

カリキュラム・マネジメントを踏まえた　国語科　年間指導計画（1年）

・・・学年共通の取組　・・・学校共通の取組

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
読むこと		はなの　みち	くちばし おおきな　かぶ	おむすび ころりん	うみの かくれんぼ やくそく	じどう車くらべ くじらぐも	おかゆの おなべ		たぬきの糸車 どうぶつの赤ちゃん		ずうっと、ずっと、 大すきだよ
書くこと			おおきくなった	こんなことが あったよ		じどう車ずかんを つくろう	しらせたいな、 見せたいな	いいこといっぱい、 一年生			
話すこと 聞くこと	なんて いおうかな こんなもの みつけたよ	ききたいな、 ともだちのはな		すきなもの なあに			ともだちのこと、 しらせよう				
知識・技能	ひらがな		カタカナ		漢字						
他教科・学校行事との関連	【道徳】 こんなとき なんていうの	【生活】 なかよしいっぱい　だいさくせ	【図工】 どんどんかくのは たのしいな 【生活】 さかせたいな、わたしの　はな	【生活】 なつだ、 とびだそう	【道徳】 かぼちゃのつる				【生活】 いきものと なかよし	【道徳】 ハムスターの 赤ちゃん	【生活】 もうすぐみんな ２年生
言語環境における取組	音読										
		言葉のテスト									
	【出張スピーチ】　全校児童が年間計画に基づき、所属学級以外の学級で行うスピーチ活動（朝の時間を活用）										
	【読書活動】　・麻布おすすめの図書（低学年のための５０冊）　・図書ボランティアによる読み聞かせ　・図書スタッフ、区立図書館との連携（関連図書、団体貸出・ブックトーク・調べ学習コンクール）										

カリキュラム・マネジメントを踏まえた　国語科　年間指導計画（2年）

・・・学年共通の取組　・・・学校共通の取組

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
読むこと	ふきのとう	たんぽぽのちえ	スイミー	ミリーのすてきな ぼうし	どうぶつ園のじゅうい	お手紙	馬のおもちゃの作り方	わたしはおねえさん	ねこのこ、おとのはなびら スーホの白い馬	おにごっこ	
書くこと	きょうのできごと	かんさつ名人		こんなもの、見つけたよ			おもちゃの作り方をせつめいしよう	お話のさくしゃになろう		見たこと、かんじたこと	すてきなところを
話すこと 聞くこと	ともだちをさがそう			あったらいいな、 お気に入りの本をしょうかいしよう	ことばでみちあんない	秋がいっぱい かん字のひろば③ 主語と述語に気をつけよう	そうだんにのってください				楽しかったよ、二年生
知識・技能	はるがいっぱい	同じぶぶんをもつかん字	かん字のひろば① うれしいことば かたかなのひろば	夏がいっぱい	かん字のひろば② ことばあそびをしよう		かん字のひろば④	冬がいっぱい	ようすをあらわすことば にたいみのことば はんたいのいみのことば	ことばを楽しもう	
他教科・学校行事との関連	【特別活動】学級開き 【道徳】あおいはりっぱな2年生	【生活】さあ、そだてるぞ 【体育】運動会に向けて	【図工】おはなしの絵 【道徳】ぬれたボール	【生活】大すきいっぱい、わたしの町 【図工】とろとろえのぐ	【生活】みんなのやさいができたよ 【生活】もっとたんけん、もっとはっけん	【道徳】言えなかったことば	【特活】話し合い活動	【特別活動】校報あざぶを書こう 【生活】どんなあそびができるかな	【生活】今のわたしになるまであつまれ、みんなのいいところ	【生活】今までのわたし、これからのわたし	
	【図工】作成した作品										
言語環境における取組	音読										
	言葉ずもうをしよう										
	言葉のキャッチボールを続けよう										
	「言葉のたから箱」の言葉を用いた日記を書く										
	【出張スピーチ】　全校児童が年間計画に基づき、所属学級以外の学級で行うピーチ活動（朝の時間を活用）										
	【読書活動】　・麻布おすすめ図書（低学年のための５０冊）　・読書ボランティアによる読み聞かせ　・学校図書館スタッフ、区立図書館との連携（関連図書、団体貸出・ブックトーク・調べ学習コンクール）										

カリキュラム・マネジメントを踏まえた　国語科　年間指導計画（３年）

・・・学年共通の取組　・・・学校共通の取組

	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
読むこと	きつつきの商売	言葉で遊ぼう こまを楽しむ	まいごのかぎ		ポスターを読もう	ちいちゃんのかげおくり	すがたをかえる大	三年とうげ		ありの行列	モチモチの木
書くこと	春のくらし		気もちをこめて「来てください」	夏のくらし 仕事のくふう、見つけたよ		秋のくらし	食べ物のひみつを教えます	冬のくらし つたわる言葉で表そう	たから島のぼうけん	これがわたしのお気に入り	
話すこと聞くこと	よく聞いて、じこしょうかい	もっと知りたい、友だちのこと			山小屋で三日間すごすなら	はんで意見をまとめよう					わたしたちの学校じまん
知識・技能	国語辞典を使おう	漢字の音と訓	俳句を楽しもう こそあど言葉を使いこなそう		ローマ字					コンピューターのローマ字入力	
他教科・学校行事との関連	【特別活動】学級開き	【理科】植物を育てようチョウを育てよう【観察カード】	【社会・総合】東京タワー見学「東京タワー博士になろう」	【社会】はたらく人とわたしたちのくらし	【道徳】「たんじょう日おめでとう」「電池が切れるまで」（生命尊重）	【国際】ALPHABETアルファベットとなかよし 【特別活動】〈学校公開〉１年生へ絵本の読み聞かせ	【学校行事】遠足の振り返り	【特別活動】校報あざぶを書こう 【学校行事】展覧会の振り返り 【理科】こん虫の世界		【社会・総合】六本木交差点植栽	
						【図工】作成した作品					
言語環境における取組	季節の言葉集め	辞書による意味調べ	辞書による意味調べ	季節の俳句		季節の俳句 辞書による意味調べ	辞書による意味調べ	季節の俳句 辞書による意味調べ			辞書による意味調べ
	「言葉のたから箱」の言葉を用いた日記を書く										
	【出張スピーチ】　全校児童が年間計画に基づき、所属学級以外の学級で行うピーチ活動（朝の時間を活用）										
	【読書活動】　・麻布おすすめ図書（中学年のための５０冊）　・図書ボランティアによる読み聞かせ　・図書スタッフ、区立図書館との連携（関連図書、団体貸出・ブックトーク・調べ学習コンクール）										

カリキュラム・マネジメントを踏まえた　国語科　年間指導計画（４年）

・・・学年共通の取組　・・・学校共通の取組

	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
読むこと	春のうた 白いぼうし	思いやりのデザイン アップとルーズで伝える	一つの花	ランドセルは海をこえて	忘れものぼくは川 パンフレットを読もう	ごんぎつね	世界にほこる和紙	プラタナスの木	うなぎのなぞを追って		初雪のふる日
書くこと			お礼の気持ちを伝えよう	新聞を作ろう			伝統工芸のよさを伝えよう		感動を言葉に	もしものときにそなえよう	
話すこと聞くこと	こんなところが同じだね	聞き取りメモのくふう			あなたなら、どう言う	クラスみんなで決めるには				調べて話そう、生活調査隊	
知識・技能	漢字の組み立て	漢字辞典の使い方		短歌、俳句に親しもう①				慣用句 短歌、俳句に親しもう②			
他教科・学校行事との関連	【特別活動】学級開き 【理科】季節の生き物		【道徳】戦争体験出前授業 【総合】戦争のお話をしょうかいしよう（３年生）	【社会】水はどこから	【理科】プラネタリウム見学		【社会】受けつがれる祭 武蔵府中くらやみ祭	【総合】伝統工芸のよさを伝えよう	【音楽】曲の気分を感じ取ろう	【総合】感謝の気持ちを伝えよう 【社会】水害からくらしを守る	【図工】ざいりょうをもとにして
言語環境における取組	季節の俳句 言葉集め	辞書による意味調べ	辞書による意味調べ	季節の俳句		季節の俳句 辞書による意味調べ			季節の俳句		辞書による意味調

【言葉の宝箱】語彙を増やすために、辞書を活用する。調べた言葉を記録して、オリジナルの辞書を作る。

【出張スピーチ】　全校児童が年間計画に基づき、所属学級以外の学級で行うスピーチ活動（朝の時間を活用）

【読書活動】　・麻布おすすめ図書（中学年のための５０冊）　・読書ボランティアによる読み聞かせ　・学校図書館スタッフ、区立図書館との連携（関連図書、団体貸出・ブックトーク・調べ学習コンクール）

カリキュラム・マネジメントを踏まえた　国語科　年間指導計画（５年）

・・・学年共通の取組　・・・学校共通の取組

	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
読むこと	なまえつけてよ	見立てる		カレーライス	たずねびと 新聞を読もう	固有種が教えてくれること		やなせたかし	想像力のスイッチを入れよう		大造じいさんとガン
書くこと	教えて、あなたのこと	日常を十七音で	みんなが過ごしやすい町へ	夏の夜	よりよい学校生活のため	グラフや表を用いて書こう		あなたはどう考える	冬の朝 伝わる表現を選ぼう	この本、おすすめします	
話すこと聞くこと		きいて、きいて、きいてみよう			どちらをえらびますか	意見が対立したときには			方言と共通語 複合語	提案しよう、言葉とわたしたち	
知識・技能		古典の世界				敬語	古典の世界				日本語の表記
他教科・学校行事との関連	【特別活動】学級開き			【特別活動】委員会活動振り返		【理科】ふりこ 【社会】工業生産とわたしたち	【特別活動】こどもサミット	【道徳】イチロー選手のグローブ	【特別活動】広報あざぶ作	【特別活動】低学年にブックトークをしよ	
			【社会】米づくり体験をしよう								
			【総合】環境課題を考えよう								
			【図工】作成した作品								
言語環境における取組	季節の言葉集め	季節の短歌		季節の言葉集め 季節の短歌				季節の言葉集め	季節の俳句		
	「学習用語の掲示」										
						【こども新聞の要約・自分の考え】（宿題を活用）					
		【絵書による意味調べ】									
		【出張スピーチ】　全校児童が年間計画に基づき、所属学級以外の学級で行うスピーチ活動（朝の時間を活用）									
		【読書活動】　・麻布おすすめ図書（高学年のための５０冊）　・図書ボランティアによる読み聞かせ　・図書スタッフ、区立図書館との連携（関連図書、団体貸出・ブックトーク・調べ学習コンクール）									

カリキュラム・マネジメントを踏まえた　国語科　年間指導計画（６年）

・・・学年共通の取組　・・・学校共通の取組

	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
読むこと	帰り道	笑うから楽し 時計の時間と心の時間	天地の文	私と本 森へ	せんねん、まんねん	やまなし	「鳥獣戯画」を読む	狂言「柿山伏」	詩を朗読して紹介しよう メディアと人間社	海の命	中学校へつなげよう
書くこと	春の河 春のいぶき		たのしみは	私たちにできること 夏のさかり		秋探し	日本文化を信しよう	大切にしたい言葉 冬のおとずれ		思い出を言葉に	
話すこと 聞くこと	つないで、つないで、一つのお話 聞いて、考えを深めよう				いちばん大事なものは	みんなで楽しく過ごすために					今、私は、ぼくは
知識・技能		話し言葉と書き言	文の組み立て		熟語の成り立ち 言葉の変化		仮名の由来	人を引きつける言葉	漢字を正しく使えるように		
他教科・学校行事との関連	【特別活動】学級開き		【行事】運動会の振り返り 【総合】学校のためにできること		【特別活動】たてわり班活動 【特別活動】２学期のめあて	【特別活動】異学年交流（１年生との交流） 【特別活動】委員会活動	【特別活動】異学年交流（日本語学級との交流） 【社会】日本の歴史	【総合】「校報あざぶ」を書こう 【総合】未来へのメッセージ	【家庭科】冬を明るく温かく		【総合】卒業に向けて
言語環境における取組		シンキングツールの活用 チームビルディング活動 【こども新聞の記事の要約】書き手の意図を読み取って短くまとめる力、書き手の思いに対して自分の考えをもつ力を身に付ける。 【類義語・対義語リレー】　似た意味に対して、類似する語や反対の意味をもつ様々な語彙を獲得する。 【出張スピーチ】　全校児童が年間計画に基づき、所属学級外で行うスピーチ活動 【読書活動】　・麻布おすすめ図書（中学年のための５０冊）　・図書ボランティアによる読み聞かせ　・図書スタッフ、区立図書館との連携（関連図書、団体貸出・ブックトーク・調べ学習コンクール）									

国語科系統指導表

～説明的文章～

（光村図書）

1年				
月	教材名	指導事項	学習内容	学習用語　◎重点指導項目
6月	くちばし	「問い」と「答え」を捉えて読む。	・「問い」の文と「答え」の文に気を付けて読む。	説明文 ◎説明の順序や内容と自分の経験や知識と結びつける。 ◎自分で紹介をする文を書く。
9月	うみの　かくれんぼ	読んで確かめる	・何が書いてあるかを捉える。 ・大事な言葉を確かめながら読む。	説明文　　問い　答え ◎主語と述語の関係を考えて読む。
11月	じどう車くらべ	順序に気を付けて読む	・説明の順に気を付けて読み、まとまりごとに、「しごと」と「つくり」を読み分ける。	説明文　大事な言葉　問い　答え ◎大事な文事柄の順序に沿って簡単な文章構成を考える。
1月	どうぶつの　赤ちゃん	比べて読む	・比べて読み、特徴の違いなどを考える。	◎違いを考えて読むと言う目的意識や学習の見通しもたせる。

2年

月	教材名	指導事項	学習内容	学習用語　◎重点指導項目
5月	たんぽぽのちえ	説明する文章を読む	・説明する文章を読むときには、順序やわけに気を付ける。	話題、事実の文、理由の文、自分の経験 ◎理由の文末表現や順序、まとめの接続語に気を付けて読む。
9月	どうぶつ園のじゅうい	読んで、考えをもつ	・誰が何をしたかや、何があったかを、順序に気を付けて読む。 ・読んで分かったことと、自分の知っていることを比べる。	自分の経験、感想、事実の文、理由の文 ◎理由の接続語や文末表現に気を付けて読む。
11月	馬のおもちゃの作り方	説明の仕方に気を付けて読む	・文章のまとまりに気を付ける。 ・「まず」「次に」などの言葉を見つけて、順序を捉える。 ・絵や写真が、文章のどこを説明しているかを確かめる。	図、写真、小見出し ◎順序やまとめの接続語に気を付けて読む。
1月	おにごっこ	大事な言葉や文を見つける	・次のことを確かめて、大事な言葉や文を見つける。 ①何について書かれた文章か。 ②自分の知りたいことは何か。	「初め」「中」「終わり」、自分の経験、感想 ◎順序やまとめの接続語に気を付けて読む。

3年

月	教材名	指導事項	学習内容	学習用語　◎重点指導項目
5月	言葉で遊ぼう /こまを楽しむ	段落とその中心を捉える	・文章は、「はじめ」「中」「おわり」などの大きなまとまりに分けられる。大きなまとまりは一つ、またはいくつかの段落でできている。 ・一つの段落には、それぞれ、ひとまとまりの内容が書かれている。 ・「問い」と「答え」に気をつけると、文章全体の組み立てや、段落の中心を捉えることができる。	段落 文章の組み立て 「初め」「中」「終わり」 段落の中心（大切なこと） ◎大切な言葉や文を捉えながら読む。
11月	すがたをかえる大豆	例をあげて書く	・内容のまとまりごとに、段落を分ける。 ・伝えたいことに合った例をあげる。 ・例をあげる順序や、絵や写真のしめし方をくふうする。	説明の仕方の工夫 例、事例 ◎段落の要点をまとめながら読む。
1月	ありの行列	説明する文章を読んで、感想を伝え合う	・説明する文章を読むときには、次のことを見つけながら読むとよい。 〇初めて知って驚いたこと 〇もっと知りたいと思ったこと ・読んだ感想を伝え合うときには、自分の考えと同じところや違うところに着目して聞く。	記録文、意見文、 実験・観察・研究 ◎事実や感想の文末表現 ◎事実の文と意見の文を区別しながら読む。

4年				
月	教材名	指導事項	学習内容	学習用語
5月	思いやりのデザイン/アップとルーズで伝える	筆者の考えを捉える	・考えを述べた文章では、文章の初めと終わりの両方で、考えを繰り返し述べていることが多い。 ・どのような具体例を挙げて考えをのべているかなど、段落どうしの関係を確かめ、筆者の考えを捉える。	対比
10 11 月	世界にほこる和紙	要約する	・まとまりごとに、中心となる語や文を確かめる。 ・文量を考えて、元の文章の組み立てをいかしたり、自分の言葉を用いたりして、短くまとめる。	文章全体の要約
1月	ウナギのなぞを追って	感じ方の違いに気づき、よさを見つける	・読んだ文章に対する感想や考えには、その人が文章をどう受け止めたり、理解したりしたかが表れている。 ・自分とは違う感想や考えに出会ったら、違いはどこから来ているのか、他の人の感じ方のよさは何かを考えると、読んだ文章への理解が深まる。	読者の立場での要約 報告文、西暦・年号

5年

月	教材名	指導事項	学習内容	学習用語
5月	言葉の意味が分かること	要旨を捉える	・要旨につながる筆者の考えは、文章の初めや終わりに直接的に書いてあることが多い。 ・筆者の考えやものの見方は、直接書かれている部分以外にも、次のようなところに表れることが多い。 ○どのような事例を挙げているか。 ○どのような理由を述べているか。 ○どのように考えを進めているか。	原因と結果 叙述 要旨を読み取る 筆者の考え（主張）
11月	新聞を読もう	目的に応じて、本や文章を比べて読むなどの効果的な読み方を工夫すること。	・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。 ・事実と感想、意見などとの関係を、叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する。 ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりする。 ・進んで、必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりし、学習課題に沿って、新聞記事を読む。	情報媒体（ポスター、パンフレット） 見出し、リード、本文、写真、図表 編集 報告し合う
10月	固有種が教えてくれること	文章以外の資料を効果的に用いる	・身の回りの文章では、図表やグラフ、絵、写真などが説明に用いられることが多く、文章と対応させて読む必要がある。 ・図表などを用いることで、筆者は、伝えたいことを分かりやすく示したり、説得力をもって伝えたりしようとしている。	図表 グラフ 統計資料
1月	想像力のスイッチを入れよう	自分の考えを明確にし、伝え合う	・自分の知識や経験と重ねながら読む。 ・筆者の意見と事例が、どのように結び付いているかを整理しながら読む。 ・読んだ感想や考えを伝え合い、互いの感じ方の違いを明らかにすることで、新たなものの見方・考え方に出会うことができる。	事例 意見 メディア 事実 感想

6年

月	教材名	指導事項	学習内容	学習用語
5月	笑うから楽しい 時計の時間と心の時間	筆者の主張と、それを支える事例をとらえる	・文章全体の構成を確かめ、主張と事例が、それぞれどの部分に書かれているかを捉える。 ・何のためにその事例が挙げられているのか、筆者の意図を考える。 ・筆者の主張や挙げられた事例について、自分の経験や知識と関係づけながら読む。	要旨と事例の関係 段落構成
10月	「鳥獣戯画」を読む	筆者の考えと表現の工夫を捉える	・筆者の伝えたいことと、絵などの資料の使い方との関わりを考えて読む。 ・取り上げたものに対して、何に着目し、どのような言葉で説明や評価をしているかを捉える。	共感・納得・反論
11月	メディアと人間社会 大切な人と深くつながるために	複数の文章を読んで考えたことを交流する	・それぞれの文章の論の展開や、表現の特徴に気を付けて、考えや述べ方の共通点や異なる点を見つける。 ・筆者の主張を捉え、自分の経験や知識と重ね合わせながら自分の考えをもつ。 ・さまざまな人や文章と対話し、その考えに触れると、自分の考えが深まる。	比較

第4章　研究のまとめ

1 研究・実践の成果

(1) 意識調査の結果

【低学年分科会】

質問項目		令和２年度回答者数:105 名(%) そう	ややそう	あまりそうではない	そうではない	令和３年度回答者数 117 名(%) そう	ややそう	あまりそうではない	そうではない
①	本をよむことは、たのしいですか。【読書】	68	27	4	2	77	15	6	2
②	自分のかんがえや かんそうを 友だちやクラスにつたえることが すき(とくい)ですか。【共有の意識】	38	21	34	7	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
③	国語の学しゅうは たのしいですか。または、とくいだとかんじますか。【言語活動の充実】	55	35	6	4	45	33	17	5
④	めあてをもって 学しゅうに とりくむことができていますか。【見通し】	44	33	20	3	↑52	32	13	3
⑤	きょうかしょを すらすら よむことができますか。【読むこと(言葉の理解)】	46	33	14	7	↑63	21	11	5
⑥	友だちや先生が はなしているとき、大切なところがどこなのか かんがえながら きいていますか。【聞くこと】	50	36	11	3	52	31	9	8
⑦	学しゅうしたことを つかって、自分のすきなことやすきなもののわけ(りゆう)を かいたり はなしたりすることができますか。【学習の活用】	50	29	16	6	50	36	10	4
⑧	「ふりかえり」のじかんで、学しゅうでわかったことをかいたり はなしたりできますか。【振り返り】	40	35	19	6	47	22	25	6
⑨	わからないことがあったときに、友だちや先生、お家の人にきいていますか。【分からない時の対応】	67	21	8	5	63	18	10	9

【中学年分科会】

質問項目		令和２年度回答者数:85名(%) そう	ややそう	あまりそうではない	そうではない	令和３年度回答者数 107 名(%) そう	ややそう	あまりそうではない	そうではない
①	たくさんの種るいの本を読んでいますか。【読書】	46	31	15	8	47	31	15	7
②	自分の意見や考えを友だちや学級に伝え合うことが好き、または、得意ですか。【共有の意識】	34	33	22	11	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
③	国語の学習活動は楽しいですか。または、得意と感じますか。【言語活動の充実】	47	25	20	8	35	29	16	7
④	学習がはじまったころに、学習の終わりごろに何をするのか分かっていますか。【単元の見通し】	40	38	15	7	48	36	15	7
⑤	めあてをもって学習に取り組むことができていますか。【見通し】	51	30	12	8	42	43	12	3
⑥	教科書の文章をすらすら読むことができますか。【読むこと(言葉の理解)】	64	22	8	6	42	28	9	9
⑦	ひつようなことをメモしたり、しつ問したりして、相手の伝えたいことを考えながら聞いていますか。【聞くこと】	40	37	17	7	↑54	37	21	10
⑧	友だちの意見と自分の意見の同じところやちがうところに気を付けて聞いていますか。【聞くこと】	41	29	23	7	35	30	18	7
⑨	自分の考えや意見のよいところに気付いていますか。【考えの形成、共有】	33	35	24	8	↑49	36	17	8
⑩	国語の授業で学習したことを使って、自分の意見を理由や例をあげて説明したり書いたりしていますか。【学習の活用】	40	34	19	7	36	35	19	7
⑪	国語の授業で学習したことを使って、自分の意見の話の大切なところが分かるように書いたり話したりしていますか。【学習の活用】	41	35	17	7	41	37	14	8

⑫	「ふりかえり」で、学習で分かったことや分からなかったことを書いたり話したりしていますか。【振り返り】	34	46	13	7	36	39	12	7
⑬	分からないことがあったときに、友だちと話し合ったりじ書やじてんを使って調べたりしていますか。【分からない時の対応】	45	32	15	8	40	39	11	10

【高学年分科会】

令和２年度回答者数:81名(%)　　令和３年度回答者数70名(%)

質問項目		そうです	ややそう	あまりそうではない	そうではない	そう	ややそう	あまりそうではない	そうではない
①	日頃から進んで読書活動をしていますか。【読書】	35	28	32	5	↑52	19	19	10
②	国語の学習は楽しいですか。または、得意と感じますか。【言語活動の充実】	25	51	21	4	29	44	20	7
③	自分の意見や考えを友達や学級で伝え合うことが好き、または、得意ですか。【共有の意識】	27	37	30	6	19	31	[illegible]	[illegible]
④	今の学年になるまでに、国語の学習で学んだ大切なこと分かりますか。【既習事項の認識】	46	44	10	0	45	40	13	2
⑤	新しい学習が始まった時、学習の終わりをふまえて次の時間からの計画を立てていますか。【単元の見通し】	22	40	31	7	↑35	35	16	14
⑥	めあてをもって学習に取り組むことができていますか。【見通し】	44	30	24	3	49	31	13	7
⑦	教科書の文章をすらすら読むことができますか。【読むこと(言葉の理解)】	59	30	10	1	51	30	19	0
⑧	目的や意図に応じて、自分の意見と比べながら話し手の話を聞いていますか。【聞くこと】	44	43	12	0	41	37	16	6
⑨	事実と人の考え(感想や意見)を区別して、聞いていますか。【聞くこと】	44	40	16	0	37	45	11	7
⑩	友達や先生の話等を聞いて、もう一度自分の考えを見直し、よりよい考えにすることができていますか。【考えの形成、共有】	44	37	16	3	42	39	16	3
⑪	国語の授業で学習したことを使って、自分の考えが伝わるように工夫して話したり書いたりできますか。【学習の活用】	36	38	24	3	37	41	19	3
⑫	国語の授業で学習したことを使って、分かったことや考えたことを友達と話し合ったり文章にまとめたりしていますか。【学習の活用】	41	41	19	0	37	36	22	5
⑬	「振り返り」で、学習でわかったことや次の時間にやることを書いたり話したりできますか。【振り返り】	38	42	16	4	41	39	17	3
⑭	分からないことがあった時、友達と話し合ったり、データや図表、違う本等から解決したりしようとしていますか。【分からないときの対応】	42	42	11	5	39	41	17	3

【研究の成果】

項目		麻布小学校の取組
①	【学習の活用】	・年間指導計画を作成することで、他教科や行事と関連し、国語科で学習したことを活用し、学びを実感できる児童が増えた。 ・タブレット端末を活用し、情報発信できるアプリケーション(Feelnote)を継続的に活用した。 ・学習のゴールを明確化したことで、自分の考えを表現することを見通しながら、学習に取り組む児童が増えた。
②	【単元の見通し】	・学習のゴールの提示(高学年は対話をしながら設定)をすることで、ゴールを意識しながら、毎時間学習できた。 ・学習計画を提示・設定することで、自分の活動を調整しながら活動ができるようになった児童が増えた。
③	【言語活動の充実】	・国語科年間指導計画の作成により見通しをもって指導することができた。 ・児童が目的意識をもって学習に取り組めるような学習のゴールを設定することができるようになった。(図1)
④	【考えの形成、共有】	・学習によっては、シンキングツール(図2)で自分の考えを可視化することで、考えを整理することができるようになった。 ・単元の中で、自分の考えを比べたり吟味したりする時間を設けたことで、 自分の考えを見直しながら、他者の意見を聞けるようになってきた。
⑤	【見通し】	・毎時間、めあてを設定し、児童が見通しをもって学習できるようになった。高学年は、自分の学習のめあてが設定できるようになった。
⑥	【振り返り】	・毎時間、振り返りを継続することで、学習を主体的に進める児童が増えた。 ・めあてに対する振り返り(図3)をすることで、その時間に学んだことを自分の言葉で表現できるようになった。
⑦	【共有の意識】	・意図的、計画的な「4つの対話」の設定することで、目的をもって話し合い活動に取り組むことが増えた。
⑧	【読むこと】 (言葉の理解)	・低・中学年は、毎日の音読を継続することで、読みの力が高まった。 ・高学年は、黙読、速読、群読、交代読み等、読み方を変えながら、読む練習をすることで、理解しながら読むことを意識するようになった。
⑩	【聞くこと】	・「4つの対話」に意図的・計画的に学習に取り組むことで、目的に沿った伝え合いができるようになってきた。(図4) ・ICT(主にスクールタクト)を活用し、人の意見との違いを意識しながら、伝え合うことができるようになってきた。
⑪	【読書】	・食育と読書活動の連携を図り、絵本に出てくる食べ物を「ブックメニュー」としてまとめ、実際に給食で喫食することで、読書活動への関心が高まった。【Twitter 参照】 ・図書館司書の方と連携し、「麻布おすすめ図書50冊」(低中高各50冊)を作成し、年間を通して、学級文庫や図書室に用意することで、読書への関心が高まった。 ・全校児童が自分のおすすめの本を紹介文にし、「読書の木」(図5)を作成し、玄関に掲示することで、読書の幅が広がった。
⑬	【既習事項の認識】	・既習事項の教室内の掲示することで、児童が必要な時に学んだことが活用することができた。(図6)
⑭	【分からないときの対応】	・ICT機器(タブレット端末)、辞書、学校図書館の本、他者等、児童が必要な情報によって、手段を選ぶ機会を増やしたことで、児童が自力解決しようという姿に繋がった。

図1【友達との対話】

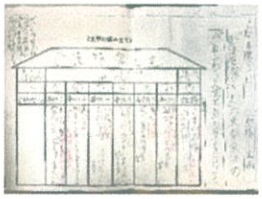


図2【シンキングツール】

図3【振り返り】

図4【教師との対話】

図5【読書の木】

図6【既習事項の掲示】

2 今後の課題

児童への意識調査後、全校の傾向として「【共有の意識】」について、肯定的な意見が少ないことが明らかとなった。特に、高学年の意識は高いと言えない結果であった。このことを踏まえ、全校に対し、「【共有の意識】」に関する追加の調査を行った。結果は以下の通りである。

低学年

令和３年度回答者数114名(%)

		どちらかというと好き・得意	どちらかというと苦手
①	クラス（全員）の前で、自分の考えや感想を、伝えたり聞いたりすることは好きですか。（得意ですか。）	63%	37%
②	少ないグループ（２～４人）の中で、自分の考えや感想を伝えたり聞いたりすることは好きですか。（得意ですか。）	75%	25%
③	ｉＰａｄ（スクールタクトなど）を使って、友達に自分の考えや感想を交流することは好きですか。（得意ですか。）	70%	30%
④	他の学年と交流して、自分の考えや感想を交流することは好きですか。	57%	43%

中学年

令和３年度回答者数106名(%)

		どちらかというと好き・得意	どちらかというと苦手
①	クラス（全員）の前で、自分の考えや感想を、伝えたり聞いたりすることは好きですか。（得意ですか。）	59%	41%
②	少ないグループ（２～４人）の中で、自分の考えや感想を伝えたり聞いたりすることは好きですか。（得意ですか。）	75%	25%
③	ｉＰａｄ（スクールタクトなど）を使って、友達に自分の考えや感想を交流することは好きですか。（得意ですか。）	75%	25%
④	他の学年と交流して、自分の考えや感想を交流することは好きですか。	61%	39%

高学年

令和３年度回答者数67名(%)

		どちらかというと好き・得意	どちらかというと苦手
①	クラス（全員）の前で、自分の考えや感想を、伝えたり聞いたりすることは好きですか。（得意ですか。）	34%	66%
②	少ないグループ（２～４人）の中で、自分の考えや感想を伝えたり聞いたりすることは好きですか。（得意ですか。）	53%	47%
③	ｉＰａｄ（スクールタクトなど）を使って、友達に自分の考えや感想を交流することは好きですか。（得意ですか。）	57%	43%
④	他の学年と交流して、自分の考えや感想を交流することは好きですか。	33%	67%

全校

令和３年度回答者数287名(%)

		どちらかというと好き・得意	どちらかというと苦手・苦手
①	クラス（全員）の前で、自分の考えや感想を、伝えたり聞いたりすることは好きですか。（得意ですか。）	54%	46%
②	少ないグループ（２～４人）の中で、自分の考えや感想を伝えたり聞いたりすることは好きですか。（得意ですか。）	70%	30%
③	ｉＰａｄ（スクールタクトなど）を使って、友達に自分の考えや感想を交流することは好きですか。（得意ですか。）	68%	32%
④	他の学年と交流して、自分の考えや感想を交流することは好きですか。	53%	47%

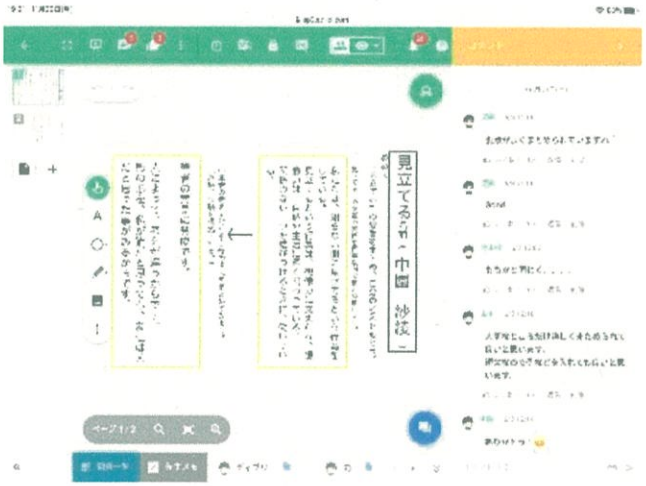
【改善に向けて】

以上の結果から、本校の課題として、「学級全体への表現活動」や「他学年への表現活動」に対する苦手意識は、学年が上がるにつれ、高まっていることが分かる。これは、成長段階として羞恥心の芽生えや間違えを恐れてしまう等の内面的な要因が考えられる。また、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止の一環で、対面での対話の時間などを制限せざるを得ないことも要因として考えられる。

一方で、ICT 機器（タブレット端末）を活用して、学級に発信することは学年問わず、比較的肯定的な意識の児童が多い。これは、昨年度からタブレッ

ト端末が導入され、継続的に活用してきた成果だと言える。高学年ともなると、Microsoft の word や power point、スクールタクトのコメント機能を使い、考えを伝え合ったり文章の推敲をし合ったりすることでもできている。学級全体への表現活動は、ICT 機器を活用して文章や考えを練り上げた上で、発信する機会を増やすことで、改善できると考えられる。

また、他学年への表現活動については、本校の特色ある教育活動である「出張スピーチ」や「たてわり班活動」が再開され、表現する機会が増えたことで改善すると考えられる。



ご指導いただいた講師の先生

あとがき

研究に携わった教職員

≪ご指導いただいた講師の先生≫
元港区立青南小学校校長
前玉川大学客員教授・言語教育振興財団顧問
輿水　かおり 先生

あとがき

令和元年度から３年間にわたり、港区教育委員会より研究奨励校の指定を受け、「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成　～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～」を研究主題をとし、研究と実践に努めてまいりました。

コロナ禍における研究の進め方に苦慮しながらも、教師一人ひとりが真摯に研究に向き合い、連携して力を高め合ってきました。本研究に取り組むにあたって、まず国語科系統指導表を作成し、「児童に身に付けさせたい力」を明確にしました。また、国語科年間指導計画を見直して他教科との連携を図りました。さらに、課題設定を工夫することで児童の学習に対しての目的意識を高めることにつなげました。

実際の言語活動においては、教師や友達、作品や自分自身との「対話」をバランスよく取り入れ、一人ひとりの表現力に合わせた手だてを用い、活動の振り返りを工夫して行わせるなどして、授業改善にも努めました。これまでの３年間、研究に継続して取り組んできたことにより、多くの児童が見通しを持って主体的に学習に取り組み、自分の考えや意見をもてるようになったことに、研究の成果を実感しています。

一方、今回の研究で明らかになった課題は、自分の意見を学級全体で共有することに対し、未だ苦手意識が残る児童が見られる点です。今後は、この課題の解決に向け、これまで以上に教職員一丸となって校内研修の推進に努め、児童の育成とそのための授業改善に励んでまいりたいと思います。

結びに、本校の研究を推進するにあたり、数年にわたって多くの時間を割いて頂き、多くのご指導・ご助言を賜りました輿水かおり先生をはじめとする研究に携わっていただいた皆様に心よりお礼を申し上げ、あとがきとさせて頂きます。

副校長　山﨑早苗

≪研究に携わった教職員(◎研究推進委員長　○研究推進委員)≫

◆令和3年度

校長	宮島淳一		副校長	山﨑早苗
1年1組	岡村留里		1年2組	○前川裕希
1年3組	井門千洋			
2年1組	○井口砂智子	○芦谷豊子	2年2組	○鳴海大祐
3年1組	○向井江美		3年2組	○若松晃司郎
4年1組	○福田久紘		4年2組	佐藤千紗
5年1組	◎梨岡和			
6年1組	○稲葉美知	○田坂武	6年2組	○落合ひかる
音楽	○田坂武		図工	大嶋涼子
少人数	宮田崇		養護	鈴木仁子
日本語学級	○神山優	○河井純恵	伊藤ひとみ	林真里子
巡回指導	不破澄子	塩田太郎	芦谷豊子	奥口結子
事務	三浦越理子		栄養士	塩川恵美子
都講師	坪井友加里		森谷愛	
区講師	服部隆		品田裕子	
	佐野正		尾形公子	
	三重野崇代			
NT	マーリック　ポッペンハイム		シャナ　サリバン	
	マ　テレサ　パスカル			
特別支援教室専門員		浅川謙司	サイエンスアシスタント	市川和美
用務主事	神山利子	関光雄	笹口進	
スクールカウンセラー		渡邉裕希	岩渕あづさ	
学校司書		薮下夏美	廣田春乃	
学校図書館支援員		中村道子	蔵島昌子	

◆令和2年度

担任	○與那覇俊	図工	井野早穂里
日本語	渡邉朝子		
巡回指導	根本明香	用務主事	梅林浩二
NT	サマンサ　グロス	クリスティ　フレッチャー	
学校司書	北園たか子	学校図書館支援員	鹿郷昌子

◆令和元年度

校長	黒田泰正		
担任	谷村祥子		亀山大暉
養護	○藤原美香		
用務主事	梅林浩二		
学校司書	北園たか子	学校図書館支援員	鹿郷昌子

令和元・2・3年
港区教育委員会研究学校

研 究 紀 要

令和4年(2022年) 2月9日

編集・発行 〒106-0041 東京都港区麻布台1－5－15
TEL 03-3583-0014
FAX 03-3583-7223

港区立麻布小学校

校長 宮島淳一

http://azabu-es.minato-tky.ed.jp/

品格

元気

根気　本気

自由　やさしい子　考える子　元気な子　規律

勇気　やる気

和気